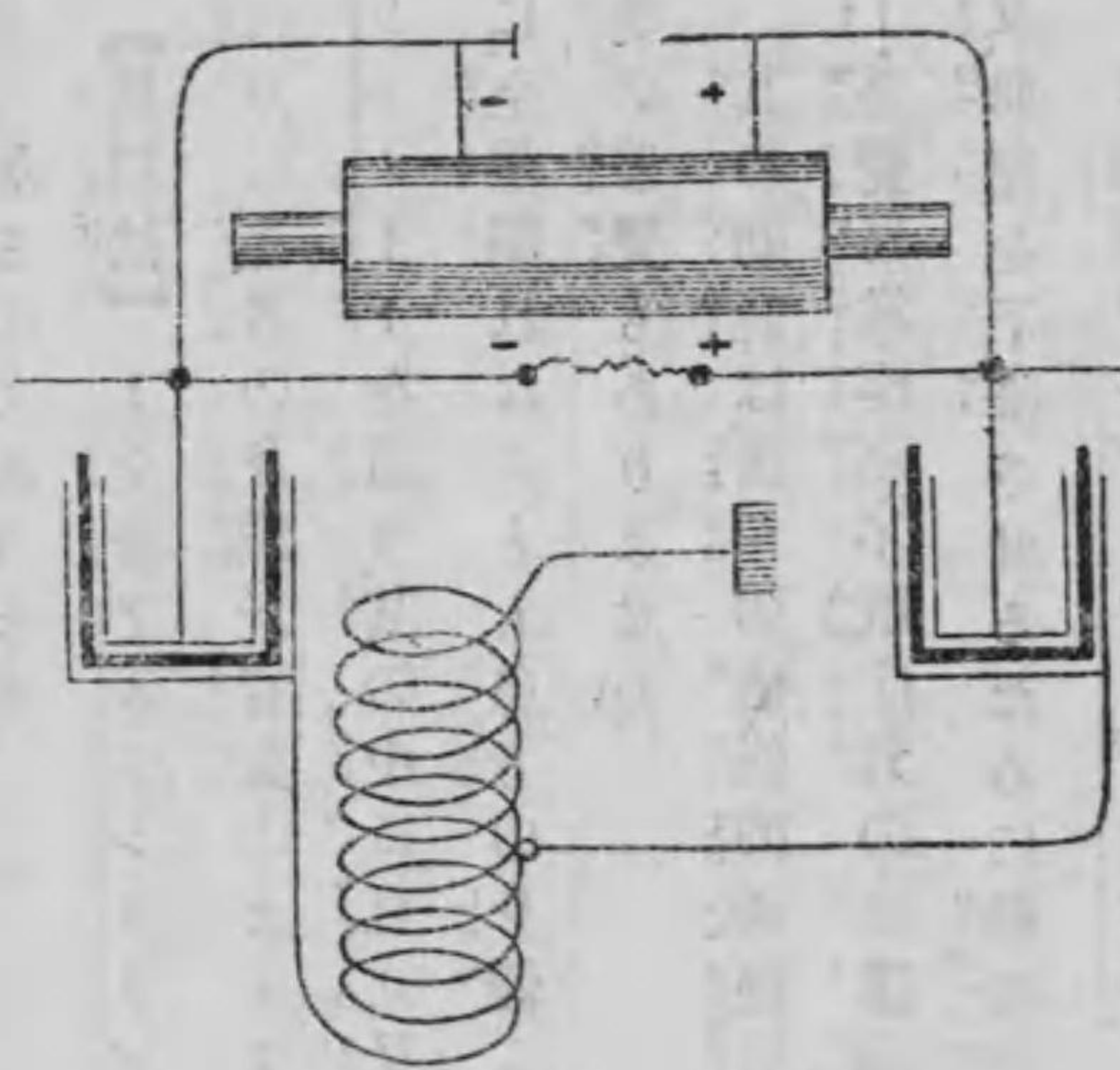


生します。此の交流電氣を二個或は數個のレイデン瓶の内箔に導き、各瓶の中央に立てる放電子の距離を適當にし、即ち閃光距離に於きましてルームコルフ氏感應機的作用する間は絶えず火花を飛ばさせます。此の際注意を要しますのは感應機に發生した電氣が交流であるに拘らず、陰陽を區別することゝ出来ることとあります。此の理由は空氣の如き傳導性の弱い抵抗力の大きなものが存在しますから、弱力の閉鎖感應電流は、夫れに打撃つことが出来ず、只壓力の非常に大きな開放感應電流のみが、閃光を發しまして相合するからであります。即ち結着は、方向の同一な間歇性の電流となりますから、陰陽の區別を生ずるのは、當然の理であります。このことはレントゲン光線を使用するに當りましては、殊の外必要であります。

今又此のレイデン瓶の外箔から出る導線の中間に太い銅線螺旋ソレノイドを連結しますと、この振動數と同數の電流往還が其のソレノイド中に



高周波裝置の構造

行はれまして、其の數は一秒時間に數十萬回に及び、電壓は數十萬乃至數百萬ヴォルトの高さに達します。

アルゴンワリザチオンは、このソレノイドの電流を他の巻線に感應させまして、夫れを人體に應用するものであります。

1 テスラ氏電流の性質及び使用法

【性質】音響及び光線が或る振動數以外では、最早音として或は光として視覚及び聴覺に入らない様に、本電流に於きまして、其の變向轉換が、

一秒間數十萬以上でありますから、神経系統に之れを認知する限界を超越して居るのであります。

【使用法】 1 全身アルゴンワリザチオン。先に述べましたソレノイドの代りに患者の身體が着衣のまゝすつかり其の中に入る位の非常に大きなソレノイドを造り、其の中に直立又は腰を掛けさせますと、此のソレノイドに全然觸れなくとも、患者の身體に感應するのであります。然し患者には何等の感覺もありません。

其の効能は、諸種の機能的神経病即ち神経衰弱・ヒボコンデリー・ヒステリイ・感覺異常・疼痛・不眠症、其の他、痲瘋・質斯・肥胖病・糖尿病等に用ひられますが、又血壓を下降させるために動脈硬化症に應用せられます。

2 局所アルゴンワリザチオン。第一ソレノイド若くは第二巻線の兩端に導子及び導線結び付け、火花間隙及び感應機の調節によりまして、加減

しつゝ、患者の身體に通じます。之れに用ゐる真空硝子筒の硬護膜の柄を有するものがありまして、それを一定距離(約一乃至五ミリメートル位)の處に保持して通電しますと、患者の皮膚に紫色の美麗な火花が飛びます。始めは皮膚に疼痛様の感か或は蟻走感がありまして、次ぎに温感があり、皮膚發赤、感覺麻痺を來すことがあります。其の効能は、慢性濕疹・圓形禿髮・癢疹・皮膚搔痒症等に導動致します。

フルグラチオンは、此の局所作用を一層強めましたもので、先の尖つた導子を、使用し皮膚から一乃至二ミリメートル離して保持し、電流を通じますので、組織を破壊する目的に使用せられます。時間は、二十秒位で、其の用ひられる疾患は、癌腫・狼瘡・疥癬等であり、あります。

九 正弦電流

これに正弦交流と、正弦直流とがありまして、其の應用は、感傳電氣と同じく、たゞ相違の點は其の働きが穩和であるのと、身體の深部に侵入し易いため、神經痛の如きものには却つて効力があります。

一〇 レチュツク氏間歇電流

發電所又は電池から送られる直流を、自動斷續器で頻回斷續し、人體に應用せられるもので、目下の所では醫療用として、たゞ坐骨神經痛に用ゐられるばかりであります。

一一 ディアテルミー (透熱法)

高速交流電流即ち高周波は電流を身體に通じましても、普通電流の生理的作用を現はさない事は、既にテスラ氏の實驗により明かなことでありま

す。佛のダルズンヴァール氏が、前記の如く之れを治療に應用しましたけれども、此の電流のため發生します熱は、一種不快な副作用であるとして却つて之れを煩はしく思考しました。然るに千八百九十八年ツアイネック氏は、種々研究の結果、身體が此の電流のために均等に温め得られると云ふ事を確かめました。之れと前後しまして、ナイゲルシュミット氏は、ドレスデンに於ける第七十九回獨逸萬有學會で、此れが實驗に就いて發表しました。此の電流が高周波裝置、ダルズンヴァール氏のと異なる處は、人體に應用しますと、電流は組織内に穿入しまして、全部其のエネルギーを熱即ちジュール氏熱に變じます。そして其の裝置に就いては、火花及び衝動數の多少と電壓及び電流の高低とに在るのであります。

1 温熱療法としてのダイヤテルミーの價値

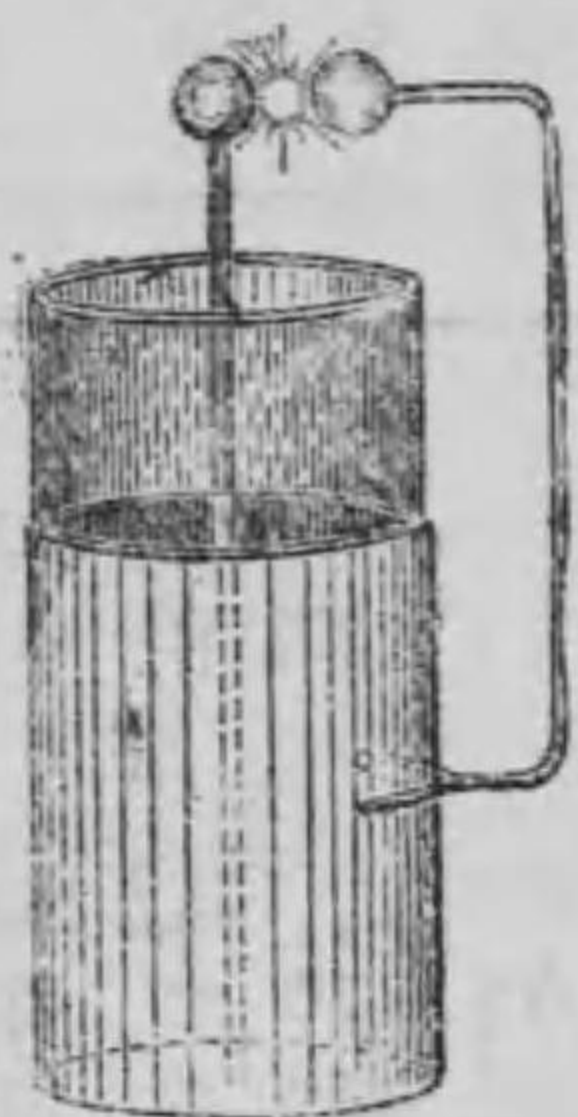
ダイアテルミーは、極最近の新しいものでありまして従前の温熱療法と申しますと、局部に温めた空気又は湯を送りまして温めたものでありまして、其の作用は皮膚表面に限ぎられませんでしたけれども本装置にありましては、自由組織臓器の表層は勿論深部をも温めることが出来るので實に理想的のものであります。

2 ダイアテルミーの物理

高周波電流なるものに就いては既にテスラ氏電流の條下で述べましたが、之れに尤も必要なのは放電火花であります。

【電氣振動を生成する放電火花】 試みに一個のレイデン罐をとり、之れに蓄電し放電子を以つて其の内外兩錫箔を連結しますと、内外陰陽の電氣は中和せんとし、其の放電子の間に火花の發するのを見ることが出来ます。此

の火花はたゞ瞬間一條の火花である様に見えますけれども、實際は無数の振動から成立するものであります。恰も振子運動の數十回の往復により、静止するやうに、此の放電火花は、往復數萬回の後鎮靜するのであります。これは内外放電子間の空氣の抵抗を破るために使用せられました高壓が、陽極より陰極へ流れ込みましたも、力の性質は平均位置を超過しますから、平均位置に返らんとするために、如斯動作を繰返すのであります。此の際空間エーテル

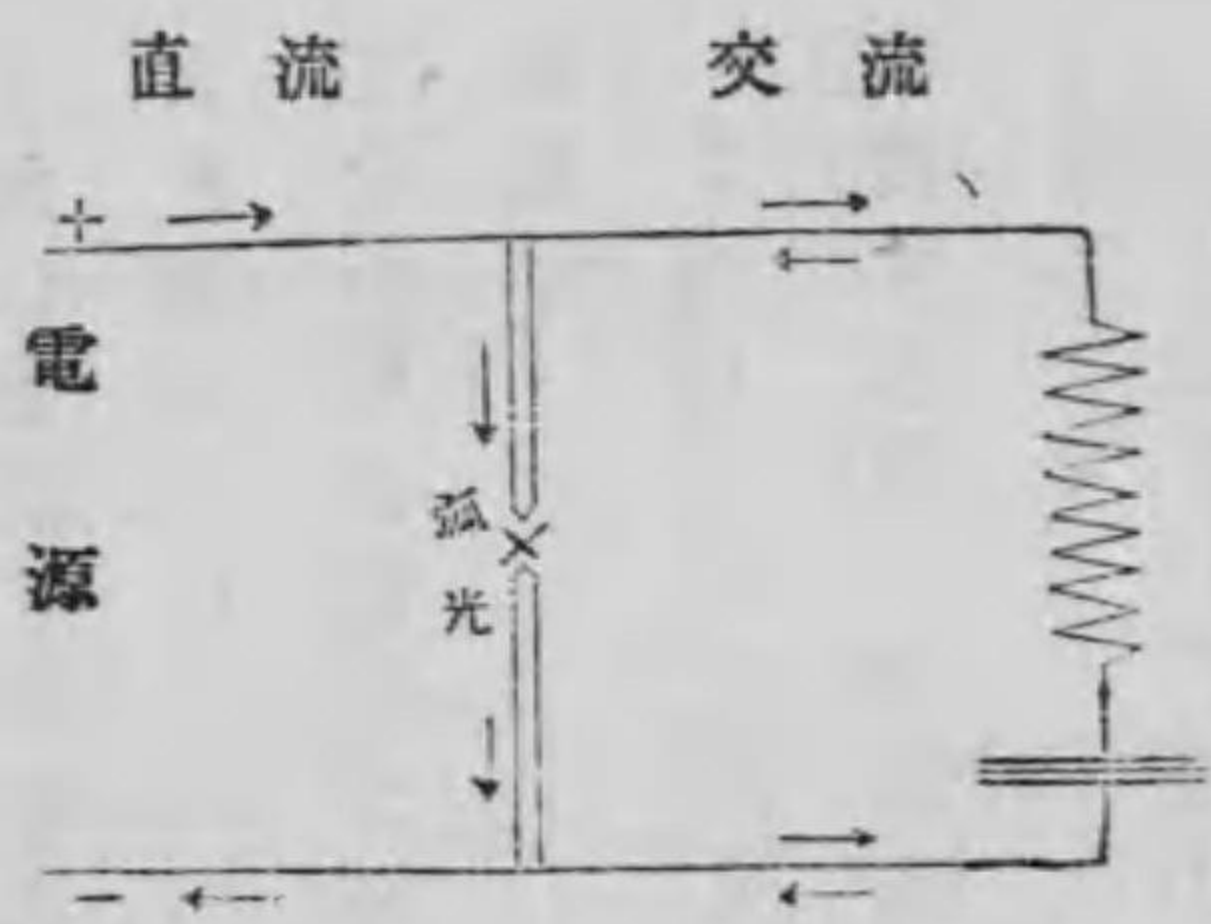


レインターレ
花火電放線

の振動を起しまして、四方に傳播します。これが即ち無線電信に必要な電波となるのであります。

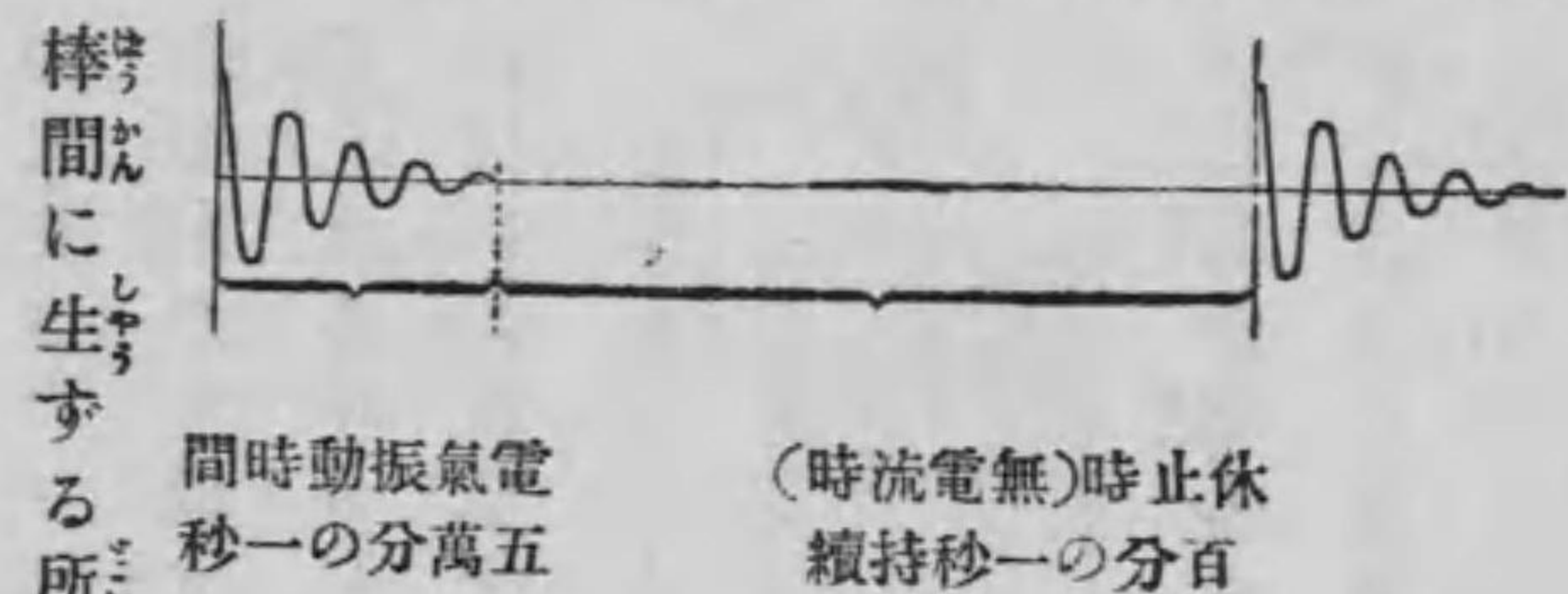
【制動性及び非制動性振動】 レイデン罐の如き蓄電器より火花放電をさせますと、上述の如く短時間に終る振動でありまして、吾人の望むやうな隨

千九百六年丁抹技師ブールゼン氏が此の孤形光を普通の空气中でなく水素瓦斯を以つて充した小室内で燃焼しました之れによりまして二十萬乃



1 孤光(ブールゼンランプ)。千九百年英人ダッテル氏は直流孤光燈を用ひまして交流を發生させ得ることを發見しました其の理は、直流アーク燈の孤光部に蓄電器及び線輪(自己誘導)を並列に挿入

しますときは圖の如く孤光燈に入るものは直流であるに拘らず此の挿入線路内には交流が存在して居るのを認めます而して此の交流が炭素杆を流れる直流中に加はりますこと恰も彼の河中に投石して起る紋波が其の河の流れに加はる様であります併し此の交流周波數は一秒間に三萬乃至四萬で未だ實用に供することが出来ませぬ

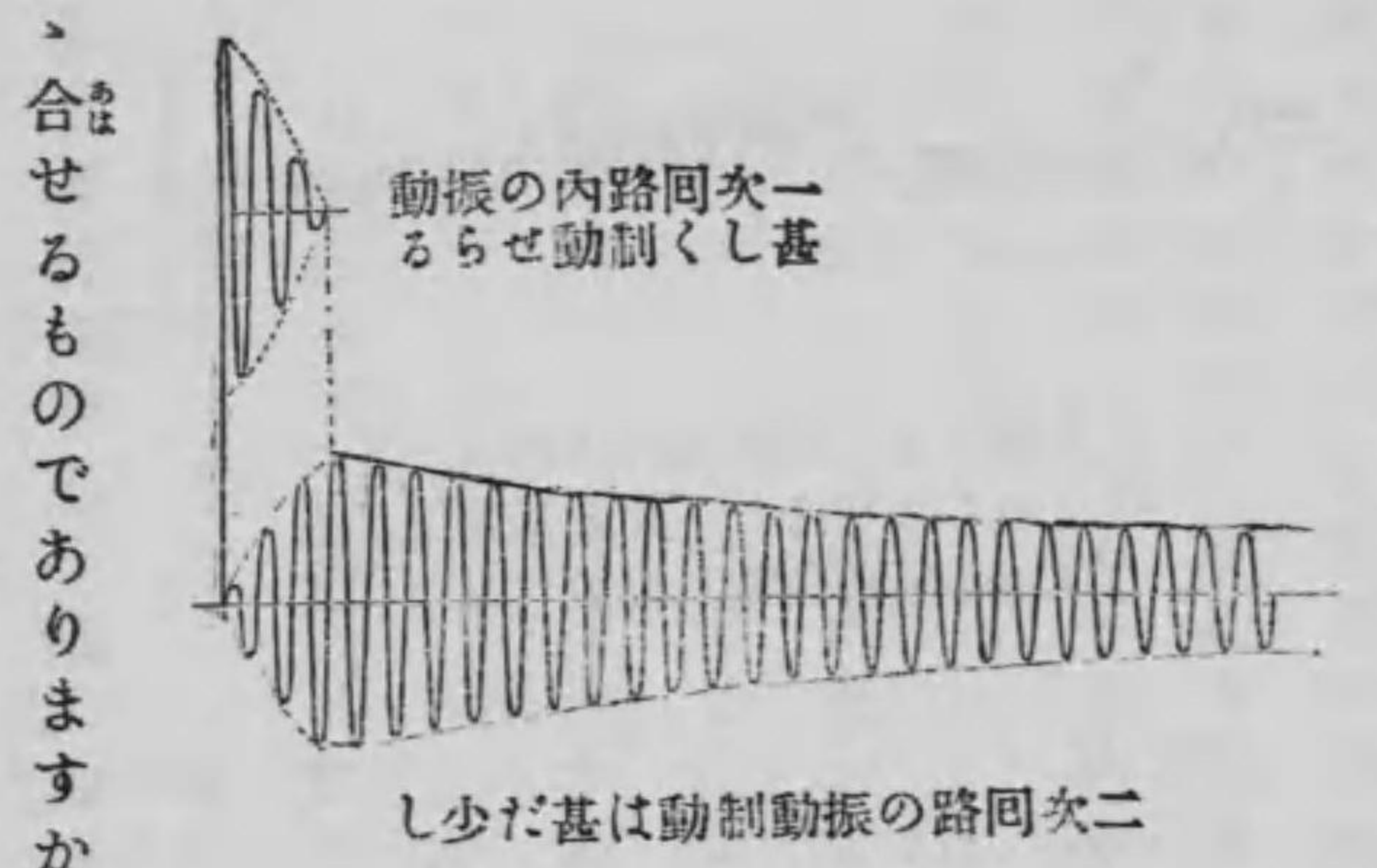


意時間持續し且つ連續する高周波電流は得られませぬ即ち前者の如く短時間に終るか又は放電より次いで放電する迄換言すれば第一回の火花放電で失つた電壓を更に蓄電して次ぎの放電を營むまで多少の時間を要します斯麼ものを制動性振動と申しますダイヤテルミーには間歇なく火花放電することが必要で之れを非制動性振動と申します【非制動性振動の生成】これには根本的に異なる二種の方法がありましてダイヤテルミー及び無線電信に應用せられます一は火花を用ふる方法で蓄電器の放電にある工夫を加へ非制動性或は極微に制動せられたる振動を得ることであります他は前者と全く異つて彼の炭素を振動生成者として使用するのであります

至三十萬の理想的な振動数が絶えず間歇なく繼續する非制動性のものを得ました。併し高周波電流界の泰斗スラビー氏は精細に之れを研究しました。此の方法に二個の缺點があることを指摘しました。その一は此の孤光により持續性に一定の波長を得ることが出来ないのと、他は炭素杆質の均等でないゆゑ燃焼が不整であるため振動の波長に影響を及ぼすこととであります。

2 ウイーン氏式火花間隙 此の方法は火花間隙により一定の條件下に振動する第二次回路線に非制動性振動を起させるので、之れを衝動勵磁法と申します。

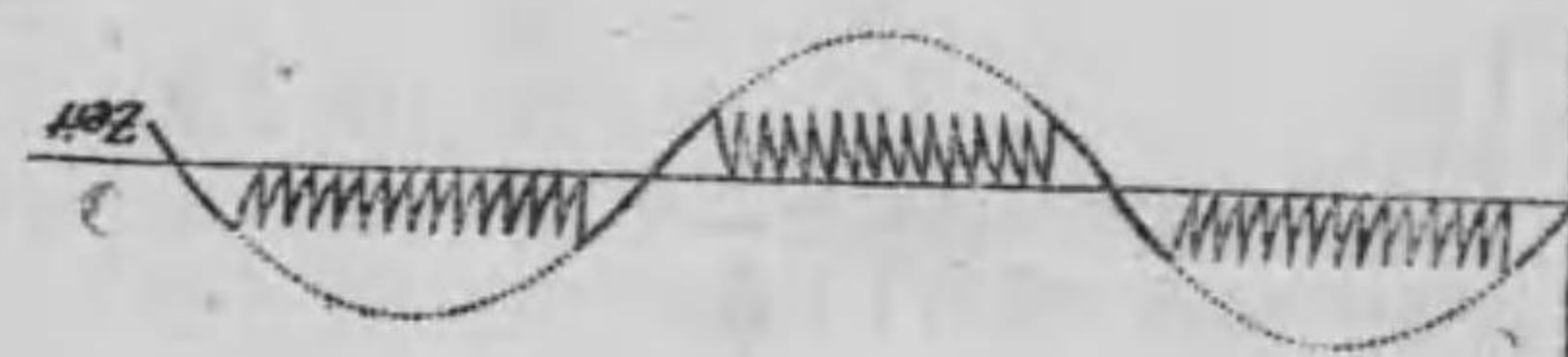
電気振動は火花間隙間の抵抗が大であるならば、大である丈速かに制動せられ、又同一の抵抗で有つても、小さな火花は、大きな火花よりも速かに消滅され、従つて其の振動は、速かに消えます。然し吾人は、今之れが爲めに生じた



第一回路内の振動を感傳作用によりまして第二振動回路に感應させます。

そして、此の回路の固有周波が第一回路のものと一致しますと共鳴致します。そして第一回路の振動が既に止みましても、第二回路のものは感傳共鳴によつて生じたものでありますから、其の振動を制限せられることが甚だ少ないのであります。

此のウイーン氏式の優れて居る點は、其の火花距離の小さなことと、冷却の極めて迅速な事とで、同氏の構造しました火花間隙は、二個の銅板を一ミリメートルの數分の一を距て蓄電器の火花間隙の抵抗を破ることの出來



ウーイーン氏式火花間隙に電放るよに
火に中るざせ途にき高も最壓電てし
す生を動振氣電し電放てりよに花

るのには、只半波の最大電圧の數分の一で澤山であります。最大緊張状態に充電するまでに既に火花が生じます。其の狀態が恰も上圖の様で、ダルゾンヴァール装置の大なる一爆發性火花が多數の極微火花に分たれたものと考へてもよろしいのであります。そして多くの火花數を得る第二の原因は火花間隙の熱することが甚だ少ないからであります。放電後の蓄電器に更に充電すると云ふ事は、非常に大切なことで、これがために充電する迄に大なる間歇時を生ずることがあります。

益を避けるために従前の二個の球又は尖端間の火花間隙を使用せず、此

の火花を二個の廣い銅板面の間に擴げて飛ばせるのであります。これで電氣エネルギーが銅板の平面上に分配されますから、局所的の灼熱は起らないで、火花間隙の機能を充分發揮させることが出来ます。尙ほ冷却の目的で、熱傳導係數の極めて高い燈用瓦斯又はアルコール蒸氣を之れに使用するのであります。

此の高い二次衝動數が従來の間歇時の長い蓄電器放電と異なる所であり、又ダルゾンヴァール氏電流とデアテルミーと異なる所以であります。これを警へて申しますと、ダルゾンヴァール氏装置の放電は、一發の大砲で、ウーイーン氏装置は、間斷なく發射せられる機關銃であります。

此の衝動數の大なるウーイーン氏式火花間隙から、吾人は知覺及び運動に少しの刺戟も與へないところの高周波電流を得るのみでなく、其の強度を随意に加減することが出来ますから、もはや今迄の非制動性振動を得る必

要がなくなりました。

3

アルゾンバリザチオンと

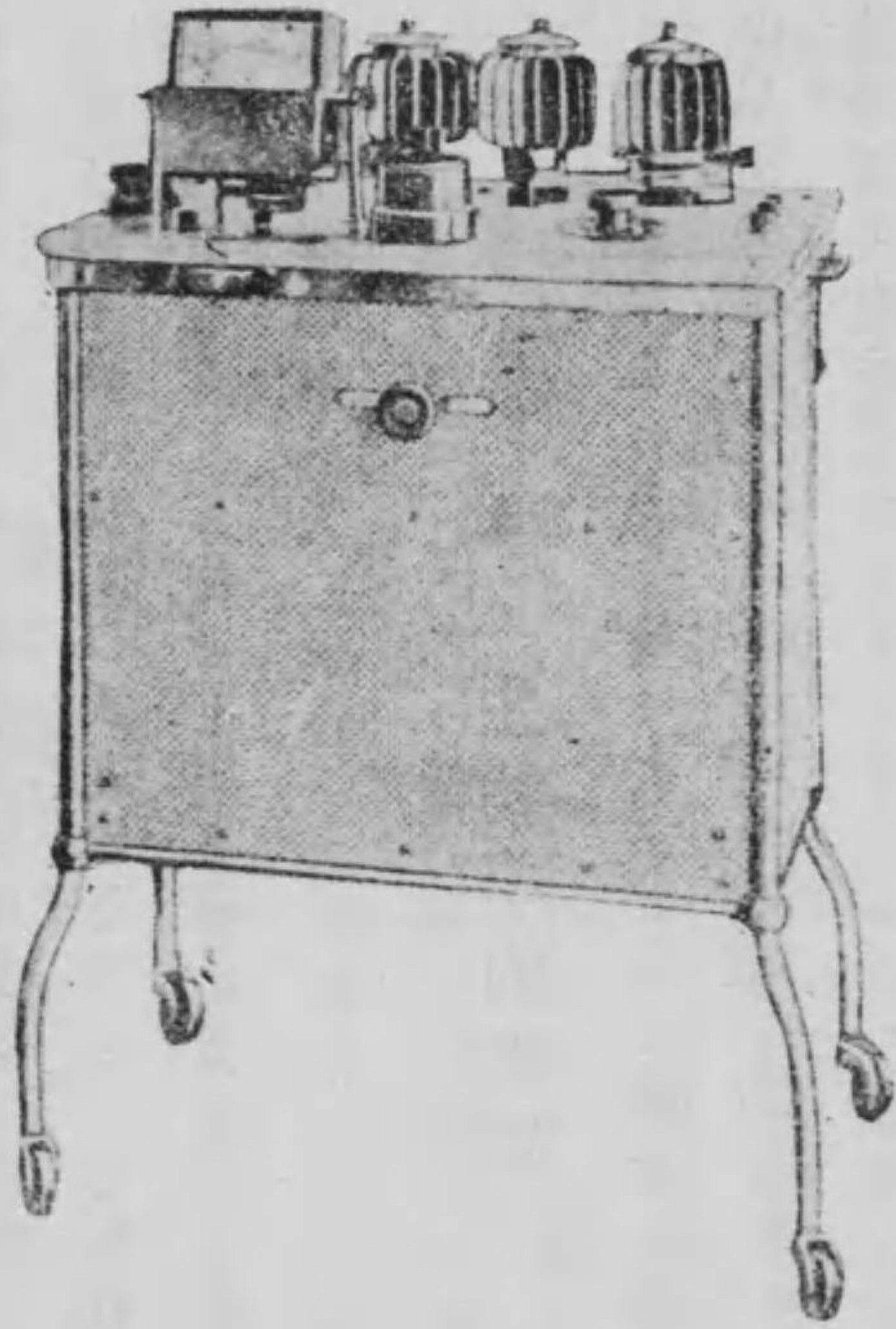
ディアテルミーとの相違

アルゾンバリザチオンは、間歇時間が長く且つ強く制動せられた電流でありまして、一秒間に約百回位の火花放電で生成されるものであります。數百ミリアンペールに達しますと著しい刺戟を感じます。それ故治療上用ゐる熱度などは、到底發生させることが出来ませぬ。

ディアテルミーは、これと異なり、特殊なウィーン氏式火花間隙によりまして、其の火花衝動數は一秒間二萬に達します。讀者諸君、此の衝動數と周波數とを間違へて記憶してはなりません。即ち前記の衝動數で周波數は、一秒間百萬乃至三百萬に達するのであります。身體に熱作用を呈するのみで、全

く知覺運動神經をば刺戟しませぬ。

ディアテルミー装置にはシーメンスハルスケ社製のもの、ライニーゲルギ



機 器 - ミ ル テ ア イ テ

ベルト・ウント・シヤル社製のもの(以上獨逸)の(米國)K S 式アラディアテルミー妹尾製作所のもの、其他ユニバーザルディアテルミー岩本商店のもの等があります。此等

は我が國で専ら用ゐられて居ります。

此のデアテルミーの導子には種々ありますが鉛板から製したものは一等便利で身體によく密着します。又よく密着しないで其の間に空間が有りますと導子から皮膚に火花がとびまして刺戟を感じますから此の際飽和食鹽水に浸した布片を皮膚と導子との間に置きますと此の不快感を除外することが出来ます。

4 生物學的性質

その主なるものを挙げますと、(1)知覺及び運動神經に對する無刺戟作用(2)局所の温作用(3)充血作用(4)微菌に對する作用(5)鎮痛作用(6)新陳代謝作用等であります。

此の内二三のものを解説して見ますと、充血作用は組織に温熱を與へますと其の組織を冷却せんとして該部の血管は大小に拘らず擴張します其

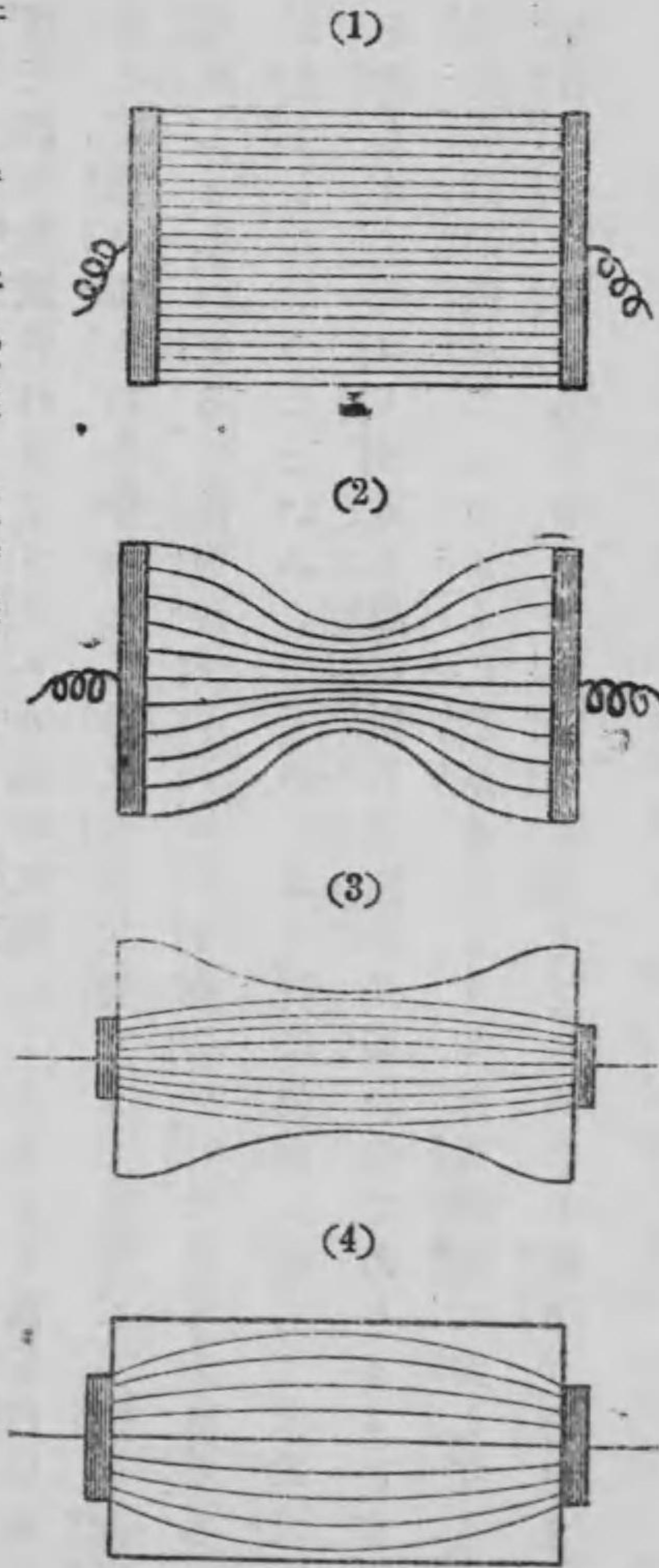
の結果血流が旺盛になりますから實性充血を起すのであります。微菌に對する作用としては(1)淋菌に對し最も偉効を奏するもので淋菌は攝氏四十分で既に撲滅されます。ラクエル氏の試験によりますと關節内に淋菌を注射して數日後之れを穿刺して得た液を培養しましたのに多數の淋菌が發生しました。然るに注射後デアテルミー療法を行つたものは、少しも淋菌が發生しなかつたといふことであります。實に淋菌に對しては、非常な偉効を奏します。(2)コレラ菌も熱に對して抵抗が弱いのでありますから淋菌同様此の透熱療法により直ちに殺滅されます。(3)肺炎球菌に對しても、多くの場合効力が認められます。(4)化膿菌に對しては、あまり効力がありません。

5 操作に就いて

デアテルミーを操作しますには幾分か熟練が必要であります。それで組

織内で本電流がいかに分布され或は作用されるかと云ふ事を明かにする

導子と導子との間に於ける温熱の働きの状態



爲めに、先づ肉塊又は卵白等に就いて試験することがよいのであります。今右圖に於て(1)なる身體横断面について考へますのに、其の兩端に二個の電

導子を置くと假定しまして通電しますと、一極から他極へ均しい稠度で流れますから、此の線内の身體の部分は平等に温められます。(2)なる場合は、中央は兩端より細いのでありますから、例へば腕關節、足關節、電流は圖の如く此の細い部分に密集しますから、其の部分に最も温熱を發生致します。(3)(4)の如き横断面を有する體部に、小な扁平導子を貼じますと、電流が集來することなく、却つて導子のある部分が最も温められます。使用する電流の強度は患者の耐へ得る程度でありますけれども、患者がもし知覺麻痺等起して居る場合は、感じがありませぬから、火傷を起させることがあります。注意を要することでありませぬ。

6 デイアテルミーの治療的應用

本療法の發見以來、未だ數年を経たばかりでありますけれども、多くの疾

患殊に關節疾患、神經痛、坐骨神經痛、脊髓勞、痲毒疾患に對し卓效のある事は學者の異論なき所であります。

【關節疾患】 リウマチス、性關節炎には其の急性、慢性、單數及び多數を問はず有効で、痲毒性關節炎にあつては、痲毒菌の完全なる溫熱殺滅による故に卓效を奏します。尿酸性關節炎にあつては通常著しく奏效し、外傷性關節炎には鎮痛作用を呈します。結核性關節炎には奏效しないのでありますが、脊髓勞性關節炎には屢々良好なる結果を見ることがあります。

【骨疾患】 急性疾患中奏效しますのは骨膜の疾患と外傷に因る損傷であります。骨折後の治療法として卓效を奏しますのはスタイン氏の實驗により明かであり、又、假關節にも奏效致します。

【筋肉及び神經疾患】 筋肉、リウマチスに對し特效があります。又、神經炎及び神經痛は本法の確實に奏效する疾病でありまして、急速な鎮痛作用を呈

するのみでなく、根本的に治癒も致します。坐骨神經痛に對し、著大の效果を奏することは、吾人が時々醫事雜誌上で其の報告に接する所であります。神經痲痺にも亦效があります。

【内部疾患】 呼吸器疾患の内、氣管支カタル、氣管支肺炎、肋膜炎に著大なる奏效を認めます。其の他、氣管支喘息にも使用されます。心臟及び血管の疾患に對しては、心臟瓣膜病殊に僧帽瓣疾患で、既に代償機障礙を呈して居るものに、ラオテンベルグ氏は本法を使用して卓效を認めました。其の他、動脈硬化症、心臟筋肉變質に奏效した報告があります。腎臟炎、殊に慢性蟲樣突起に對する本法の使用は實に偉效を奏します。

【生殖器疾患】 1 男性生殖器疾患 痲毒性尿道炎、痲疾に對して、これまで數多の熱氣療法が試みられましたけれども、未だ奏效した例がなかつたのであります。然るに本法の發明によりまして、效果を認めるやうになりました。

た其の法は、急性の際は、一日二回十五分間宛絨製導子を陰莖皮膚に對側
置いて通電します。此の際尿道内に挿入してある檢温器は四十二度を超え
るのはよろしくありません。次に急性症状の去つた時は、尿道用の特別な
導子、金屬管から出來て居るものを作りまして、これの前尿道部に相當する
部に副管を裝置し、其の副管の側面に多數の小孔を穿け、此の重複カテーテ
ルにより尿道へ、二乃至三%食鹽水を注入しまして、尿道粘膜を伸展緊張さ
せ、尿道外口部を壓迫して、液の流出を妨げ、他の導子で陰莖の外部を圍繞さ
せまして、護謨環で固定して通電します。さうすれば數回で好結果を收める
ことが確かであります。けれども、其の方法が煩雜なために、未だ一般に使用
せられないのは遺憾であります。

痲毒性副辜丸炎に對しては、其の急性症状が去りました後、本操作を行ひ
ますと、硬結を残すことなく、治癒しますが、これは本法を除外して他に求め

ることが出來ませぬ。

其の他陰萎、遺精症等にも使用せられます。

2 女性生殖器の疾患 其の良好を奏しますのは、子宮内膜炎、子宮周圍炎、
喇叭管炎等でありまして、殊に其の痲毒性のものには、效驗が顯著でありま
す。

7 **デアテルミーと他合併療法**

悪性腫瘍、肉腫、癌腫等に對し、先づ本法を施行しまして、其の後X光線治療
法を施しますと、其の感受性が亢進しますから、此等の組織を破壊し、治療の
目的を容易に達することが出來ます。此の理由に基きまして、結核性腹膜炎、
結核性淋巴腺炎、結核性關節炎、慢性關節リウマチス重症の神經痛等に用ゐ
られます。

其の他關節疾患の爲めに、強直に陥らんとして居るものに對し、本法とマッサージとが合併して行はれます。

8 外科的アイテルミル療法

手術的に用ゐるアイテルミーは〇.五乃至二.五アンペアルでありまして、之れを單極電流或は兩極電流として使用します。但し前者は、後者に比較しますと、熱量が少ないのであります。本法を施行します以前に、局所或は全身麻酔を施しまして、兩極電流を使用しますときには、一極は銅板に連続し、此の銅板は患者の寢臺の上に置かれるのであります。他極は患部に用ゐられます。

本法使用の目的は、燒灼する事にありますから、種々な導子がありまして、或は孔腺截斷術に或は子宮摘出術に賞用せられます。而して燒斷面は、焦痂

を作つて、出血致しませぬ。其の病症には、悪性腫瘍、殊に癌腫、その他狼瘡、纖維腫、疣核、痔瘻、膀胱内ポリープ、癰疽、喉頭や咽頭の疾患、軟性下疳、混合下疳、潰瘍、出血面等であります。

「丁」 光線療法

雨の霽れる時、太陽を背にして、遙か中空を望みますと、虹を見ることがあります。即ち其の大彩色輪は、外方から内方に向ひまして、紅、橙、黃、綠、青、藍、紫の色輪が整列して居りますが、これは日光中の光線が、それ／＼屈折の差を有するからであります。試みに三稜鏡をとりまして、試験しますと、光線は矢張り此の七色に分解されます。然し此の外に尙ほ視ることの出来ない光線があります。夫れは紅外線と紫外線とであります。紅外線は主として、溫熱作用を有し、紫外線は化學的作用を有つて居ります。

光線療法は、日光或は人工光線に含まれて居る紫線或は紫外線を治療用として使用しますので日光の身體に必要缺くべからざること、治病に效あることとは希臘のヒポクラテス氏羅馬のギケロ氏が既に知つて居りました然し之れを科學的實驗の下に其の效力を證明し、醫療上に使用致したのは丁抹人フィンゼン氏であります(一千八百九十三年)。

一 日光療法

古代ヒンズース人は既に日光療法に就いての價値を知つて居りましたが之れを盛んに應用し良好な成績を挙げましたのは千九百〇三年で瑞西のライジン山千三百米の高峯に於て、ロリエール氏であります。同氏は之れを主として外科的結核に應用しました。日光光線はスペクトルム(分光鏡)で見ますと、七色に分れますが、其の内、殺菌作用の強いのは、綠青藍紫及び紫

外線であります。此等の有效光線は、振動數が多く波長が短いのでありますから、雲霧水蒸氣等に吸收され易いのであります。だから本療法を施行しますのは、一點の白雲もない晴天に限るので、此の際頭部は充分に日光に曝露しない様に保護しなければなりません。其の時間は五分乃至四十分間位であります。初日は時間短く漸次回を重ねるに随つて時間を増します。其の有効な疾患は、(1)骨結核、關節結核、髓鞘結核、(2)腎臟結核、盲腸部結核、腹膜結核、(3)粘膜炎及び皮膚結核、狼瘡、腺病、性皮膚結核等、(4)結核性淋巴腺炎、肺結核、輕症なるもの、(5)腎結核、膀胱結核、接線結核、其の他、銃創、挫創等、治癒期を遷延させた外傷、面骨折癒合の遅延せる場合、血行障礙より發せる潰瘍、火傷、凍傷の潰瘍、面萎黃、病痛風、リウマチスなどであります。

二 紅光線療法

我が日本に於きまして、古くから痘瘡に罹患しますと、紅染の衣服をまとはせ、紅染の衣具蚊張等を用ひて、其の痘痕を少なくさせ、佳良の経過をとるための目的を達しようとしたのは、諸君の御存知の通りであります。シヤチニエール氏は、麻疹に紅光線を用ひまして、良效を収めました。

三 日光化學線來集療法

日光の化學線が殺菌作用を有しまして、種々の微菌を殺滅することは、夙に證明されました事實でありまして、彼の抵抗力の強い結核菌ですら、日光照射を受けること十五分で既に死滅致します。故に諸君は衣服寢具の類を、時時日光に曝らして消毒しなければなりません。

フィンゼン氏は、日光を特別なるレンズで焦點に集めると共に、其の溫熱線を除きまして、ただ化學線(紫外線)のみを治療に應用し、良結果を奏しました。

が遺憾な事には、日光が太陽から射來します途中、地球の雰圍氣を通過します際、肝心の紫外線が、大半吸収されますから、フィンゼンは工夫を凝らし、ました結果、今日の如く人工光線を使用する様になりました。

四 フィンゼン氏炭素弧光燈

炭素弧光燈は、人工光線中でも最も紫外線に豊富でありまして、これから發射する光を集光管で集め、皮膚に作用させます。電流は直流を用ひまして、五〇ヴォルト・五〇アンペアが適當で、此の装置は、普通四個の集光管を有して居り、天井から釣り下けて置くのであります。

有效なのは、狼瘡でありまして、その他腺病性皮膚結核、結核性潰瘍、紅斑性狼瘡等であります。

五 電氣光線浴

本療法は、ケルログ氏の發明で、人が裸體のまま、其の中に這入る位の大きな箱でありまして、箱の内側に十六燭光の電球が數十個排置してあります。使用法は患者を裸體とし、五分乃至二十分間光浴させ、溫度は適宜に加減するのがよろしいのであります。又電燈球を赤青等の著色のものと取換へ、皮膚の疾患に應用せられ、透明硝子よりなるものは、熱氣療法、發汗療法として使用せられます。

其の使用せられる皮膚病は、一切の搔痒性皮膚病、鱗屑疹、紅色糠疹、急性慢性濕疹などで、其の他神經痛、リウマチスにも使用せられます。

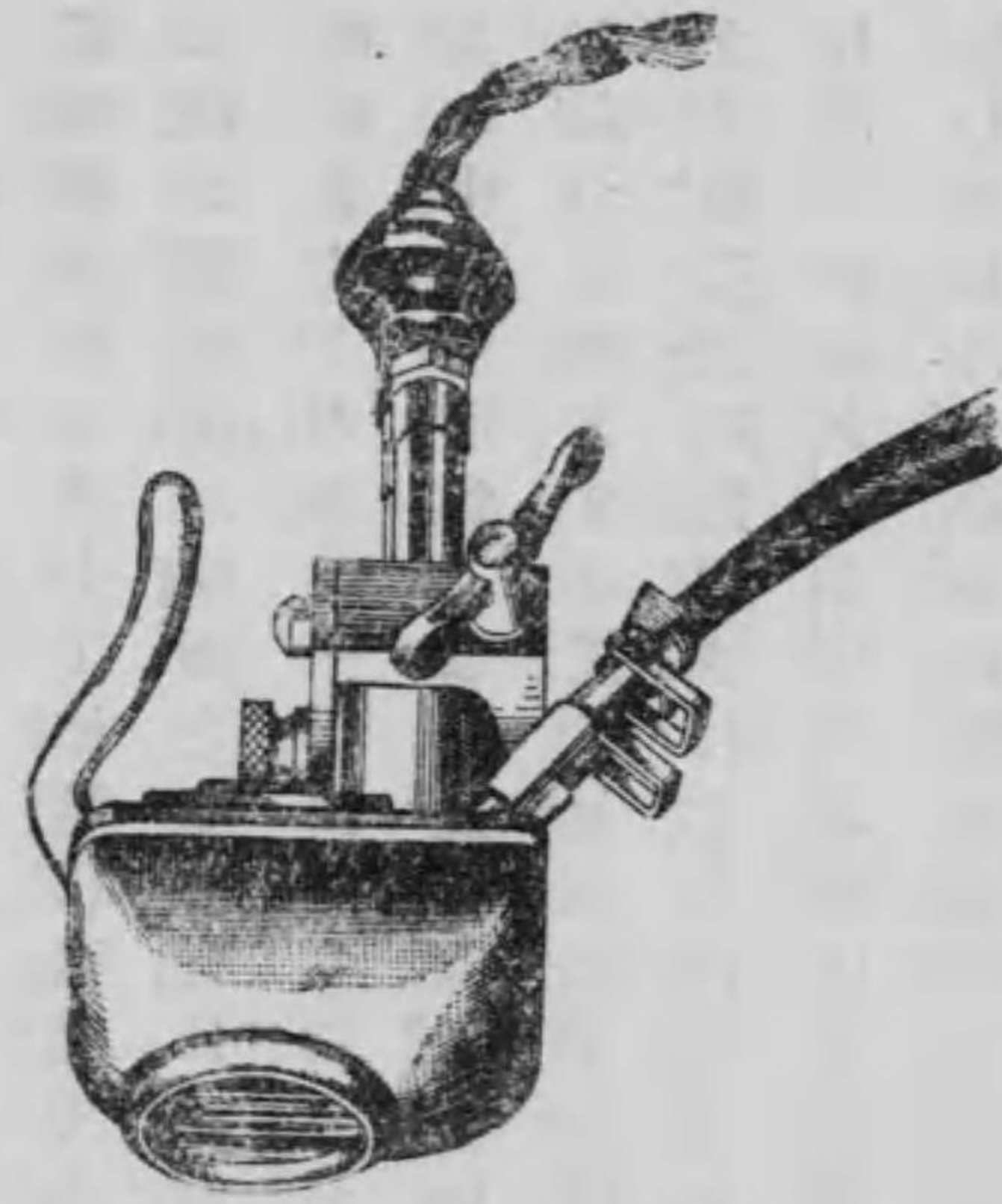
六 水銀蒸氣燈

千八百九十二年アロンス氏は、水銀蒸氣中に、電氣弧光を發生させました。其の構造の大略は、長さ約四呎、直徑一吋位の硝子管でありまして、其の一端に水銀がありまして、他端には鐵で作られた電極があります。管内は眞空で、水銀が消極鐵が積極となる様に直流を送り、或る適當な方法で水銀を少し暖めますと、水銀の一部は直ちに蒸發しまして、充電した蒸氣となり、電流は其の中を通過致します。此の際、蒼白の光を發射致し、其の面に若し赤色の物を以つて來ますと、黒く見えます。此の光は、非常に紫外線に富むで居りますから、治療上に應用されましたが、何分溫熱を發しまして、終に硝子管を溶解しますから、クローマイエル氏は白熾熱で始めて溶解すると云ふ石英を使用しました上、冷却装置を加へ、今日の様には皮膚患者に幸福を與へたのであります。

電壓と水壓とを防ぐためとであります。發光管の兩下端は、水銀を満たしてある陰陽の兩極管に接続します。今電流を通じ器械を斜にしますと、水銀は發光管の中へ流入します。尚ほ傾斜の度を高めますと水銀は兩方から接続します。次いで直立の位置に復させますと、發光管は眞空でありますから、水銀蒸氣のために満たされ強力は青紫色の電光を發射致します。

金屬の箱は、前面に水晶の窓がありまして、光線を射出する底面に一條の彎曲せる處があり、其の一方から冷却するため注入すれば、他方から流出致します。本器を操作するには、第一に水を流通させ、第二に通電するのであります。而して皮膚から一定の距離五乃至一〇センチメートルヲ距てまして、疾患の深淺により、強弱或は壓抵法を應用致します。其の良效を奏する疾

病は、禿髮症、瘡鱗屑、疹毛、瘡濕、疹白癬、潰瘍、其の他壓抵により、狼瘡、紅斑、性狼瘡、表皮瘡、血管腫、酒皸鼻に用ひられます。就中禿髮症に於ては、他に勝る治療



水銀石英燈

七 水銀石英燈 (クローマイエル氏創案)

本装置から發射致します所の化學的外線の深達能力は、フインゼン氏燈に比べますと、實に數倍の強度であります。其の構造は、發光管と金屬箱から出來て居るもので、發光管は石英即ち水晶から出來て居るU狀の眞空管で、其の周圍は、第二の水晶管で被はれて居ります。これは冷水を直接に發光管に觸接させないのと、高度の

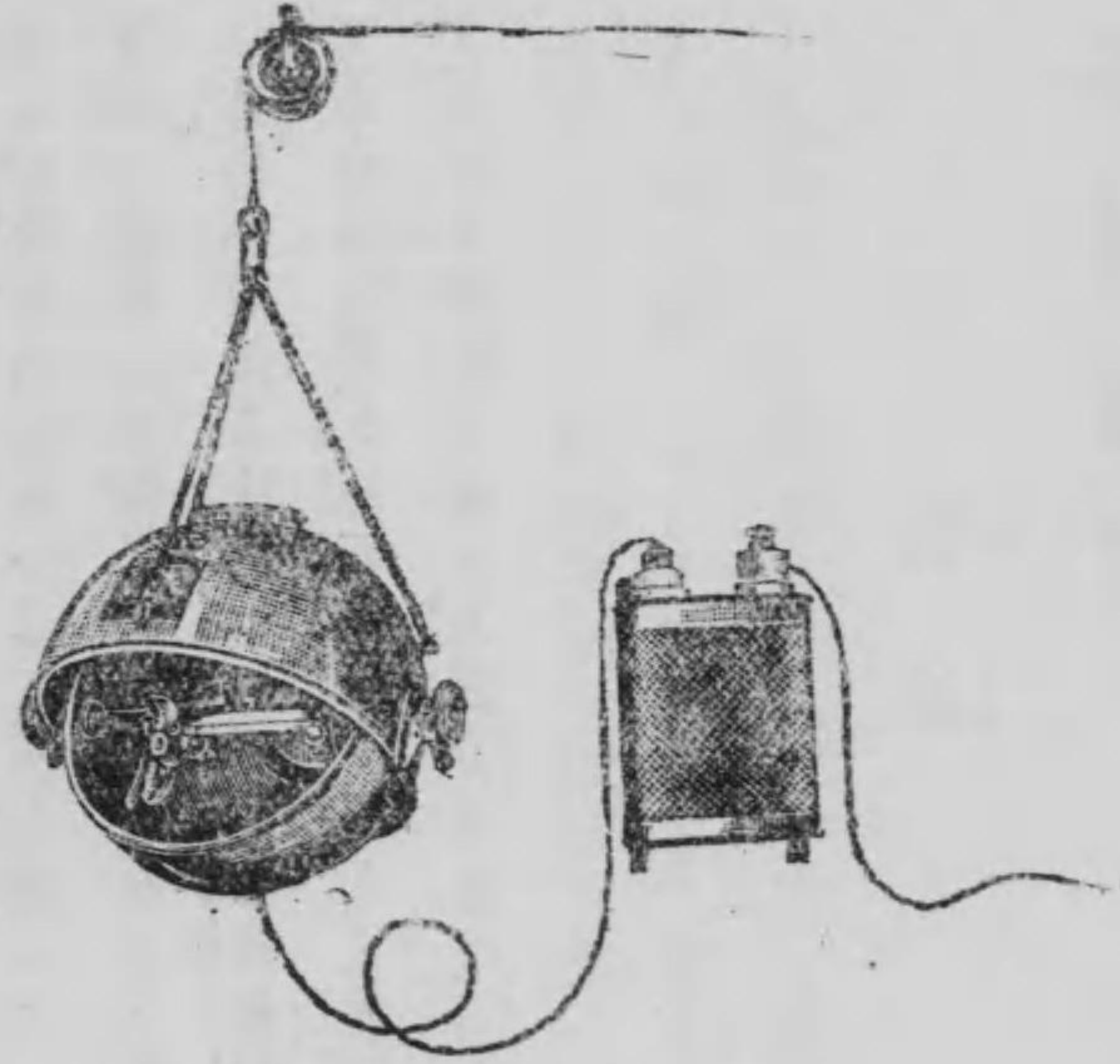
法がない位で、圓形禿髮症、枇糠性脱毛、榮養障礙性禿髮及び陰部の無毛症に對し、效力を發揮致します。

八 ウビオール燈

これはウビオール硝子と稱する特別の硝子から製せられた長さ五〇仙米位の兩端少し彎曲して、其の部分に水銀を入れ、炭素製の電導子を有する真空管があります。使用するには、これを傾けますと、水銀は流れて連續し、次に前の位置に復歸させますと、蒸氣を發生しまして、忽ち青綠色の光を放射します。普通本管を數個連ねて使用します。作用は水銀石英燈より弱く、従つて淺在の皮膚病に用ひられます。

九 人工太陽

本装置は千九百十三年、バツ・ハ・ナーゲル・シユミット、兩氏の考案したもので



陽太工人

ありまして、其の構造は、水晶製の發光管と、金屬製の被蓋から出來て居りました。圖に示してあるやうなものであります。矢張り一の改造せられた水銀蒸氣燈でありますが、ウビオール燈に比して、強力な紫外線を放射致します。水銀石英燈に比して、その長所として、擧ぐべき點は、(1) 一時に廣い皮膚面に照射が出来る

事(2)剥離作用の強いこと(3)水流による冷却装置の不必要であること(4)使用法が簡單で修繕が容易であること等であります。
其の卓效ある疾病は、脱毛症、全身性慢性皮膚病、白癬、頑癬、皮膚結核潰瘍等であり、水銀石、英燈と同じく、矢張り殺菌鎮痛及び吸收作用があります。其の上新陳代謝を亢進させます。

花柳病篇

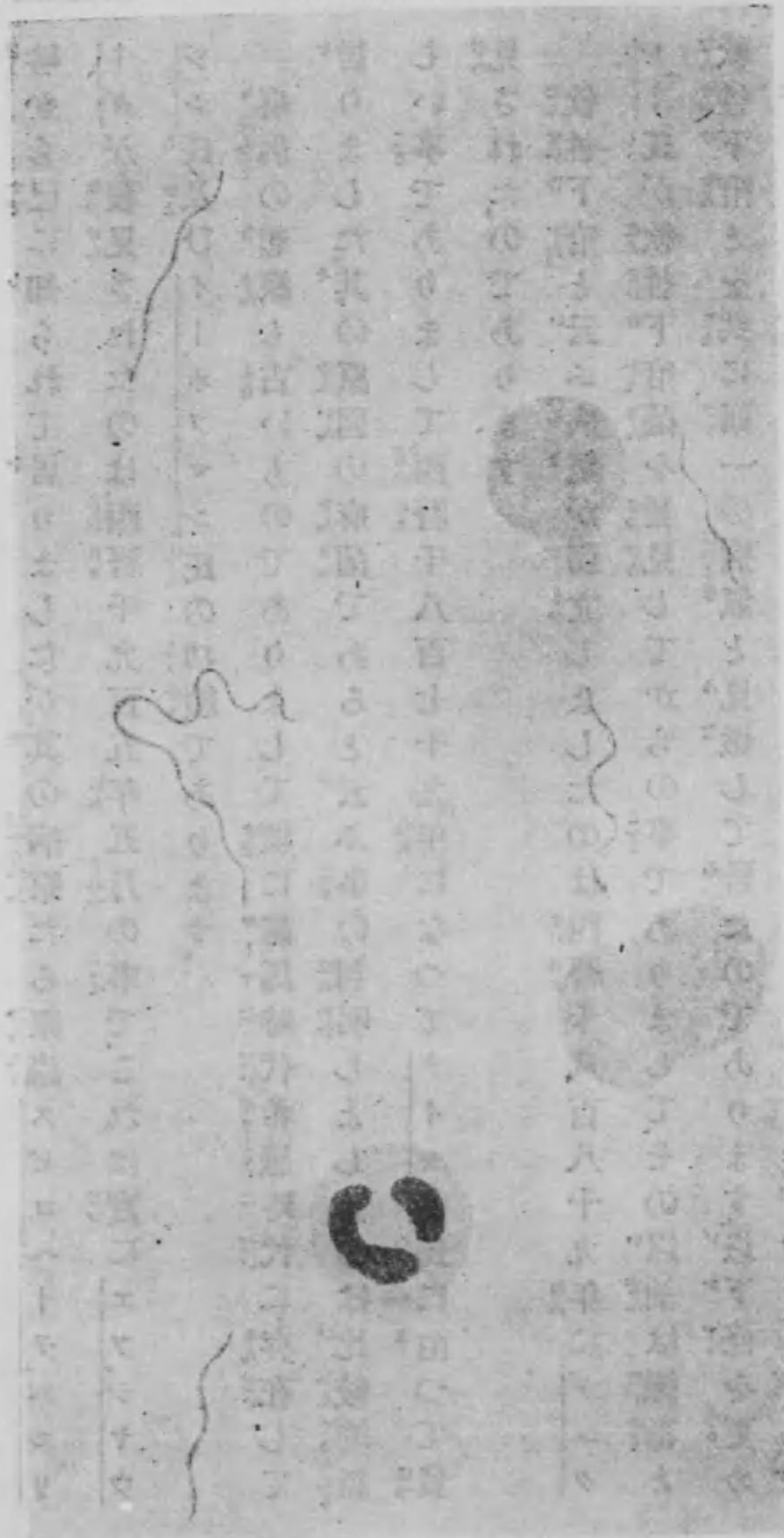
緒論

花柳病とは、微毒、痲病、軟性下疳の總稱であります。此れ等の病氣は花いよ紅に柳いよ緑を増して、鴛舎和樂を唄つてゐるといふ春の様な氣に充ちて居る歡樂の巷を彷徨ふ者に發することが多い所から、かく名づけられたのであります。花柳病は他の急性傳染病に比較して、人の生命を奪ふことが甚だしいのであります。兎角人はこの病にかゝる機會に接する事が多いのでありますから、病氣中の最も恐るべきものゝ一つであります。これがために前途有望の青年達が、其の後半生を無意味に過すものは幾何でありませうか。實に嘆かばしい極みであります。そのみならず、父祖に此の

疾患があつた爲めに不幸生れながらにして身體或は精神に缺陷のある者が出来たり或は折角此の世に生れてもこの病毒の爲めに斃れるものがあるなど數へれば數へる程實に其の結果には戦慄すべきものがあります。本病は實に人類の一大損失であつて國民の健康上及び經濟上より見ても亡國病と云はれるのも所以ある事であります。

微毒は俗に「かさ」又は瘡毒など、稱へられて居ります。この微毒の起原は餘程古いものでありまして西曆十五世紀頃から盛んに流行しました。其の流行には大戦争又は交通貿易等が關係をもつて居りまして微毒の初めの發見は千四百九十三年で有名なコロンブスが西大陸より歸航する時水夫の中に此の病に罹つたものを見出したと云ふことであります。我が國に流行しましたのは西曆千五百五十年頃で支那から輸入されたものであります。それでこれを唐瘡又は琉球瘡と稱へました。其の傳染力の甚しい事は當

螺旋菌(スピロヘーテ、パルリデー)の圖



時から已に知られて居りましたが、其の病原たる原蟲スピロヘーテバルリ
 ーダが發見されたのは西曆千九百五年五月の事で、これは實にエフ、シヤウ
 ジン氏及ヒイー、ホフマン氏の功績であります。

痲病の起原も古いものでありまして既に羅馬時代希臘時代に存在して
 居りました。其の原因の痲菌であると云ふ事の判明しましたのは比較的
 新しい事でありまして西曆千八百七十九年になつてナイセル氏に由つて發
 見されたのであります。

軟性下疳と云ふ病氣が獨立しましたのは西曆千八百八十九年にヂユク
 レー氏が軟性下疳菌を發見してからの事でありまして、その以前は梅毒と
 軟性下疳とを共に同一の病氣と見做して居たのであります。以下條を更
 めて説くことに致します。



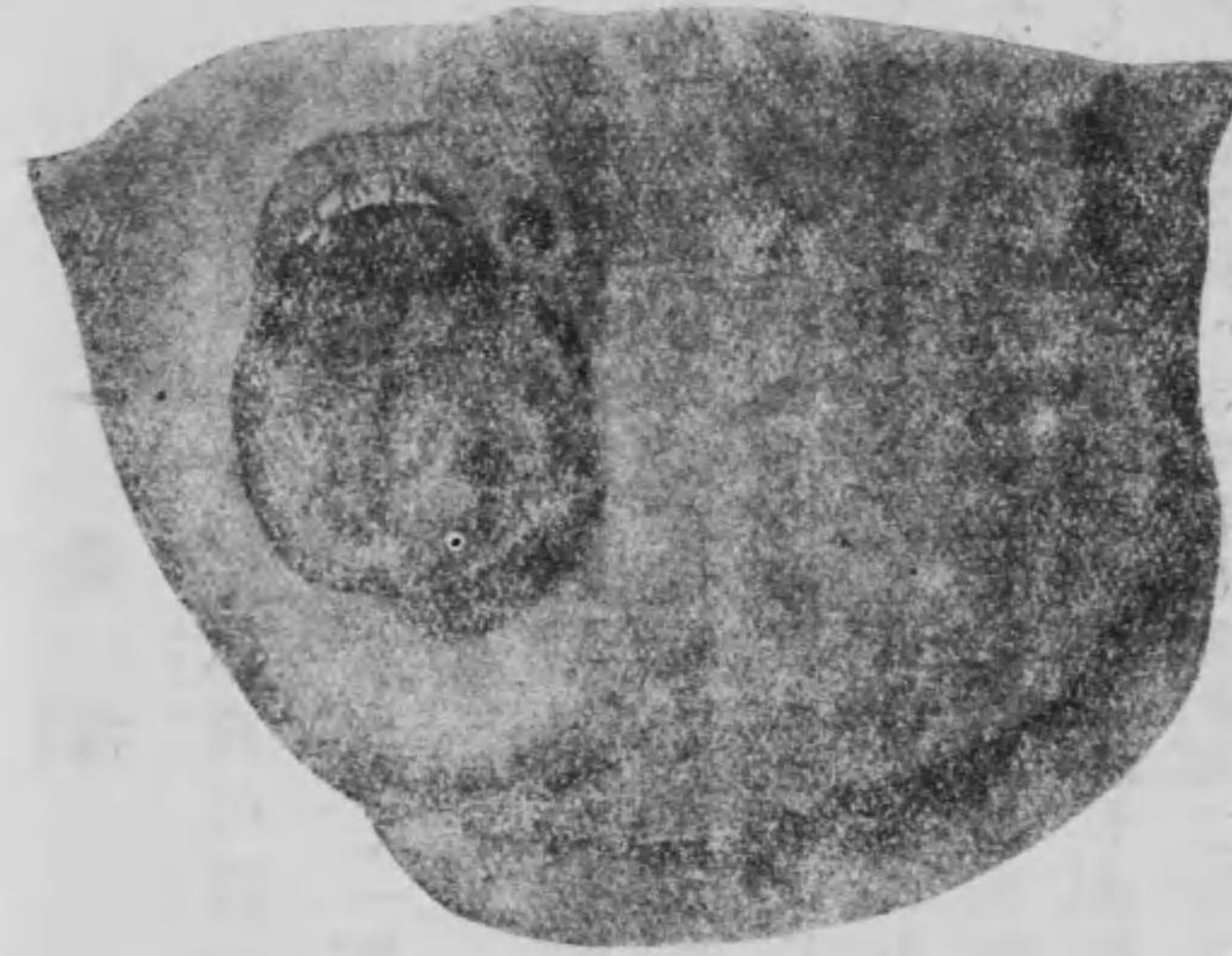
毒徴の面顔

一 微毒

1 微毒の傳染

傳染の場合には種々ありまして一様ではありませぬ今左に項を逐うて述べることに致します。

1 直接に傳染する場合。男女交接の時何れか一方に微毒がある時は他の一方の陰部の皮膚粘膜に於ける小さな疵から病毒が侵入して傳染致します。もとく陰部の皮膚粘膜は誠に傷き易いものでありまして僅かのことで疵が出来ますから小疵は常にあると云つても宜しい。そして眼に見えない表皮の剝脱した様な處からも無論傳染致します。ですから無病のものも有毒者と一度交接すれば忽ち感染するのであります。接吻も亦直接感染の機會を與へます。若し微毒第二期の症狀である所の發疹が唇及び其の附



瘡潰性毒徴の舌び及唇

近に出来て居る人と接吻すれば、健康な人の口腔や唇の弱點ある個處から傳染するのであります。又授乳の場合にも、微毒性の乳母又は母親から小兒に傳染します。時には又微毒患者の患部に觸れた看護者、醫師等が其の手の小さな疵面から傳染する様なこともあります。

2 間接に傳染する場合、これは患者の發疹の分泌物などの著いてゐる道具、即ち茶碗、盃、煙管、手

拭其の他、卷煙草消毒不完全なる醫療器械、種痘器具等を不注意に使用する事から傳染するのであります。此の様に道具が間接に傳染の媒介をする許りでなく、人間其の物が間接に媒介をする事もあります。例へば、或る健康な婦人が微毒患者の男と同衾し、更に他の健康な男と同衾した場合に、此の婦人には感染しないで、第二の男子が病毒を受けたと云ふ様な場合であります。

3 胎盤より傳染する場合、婦人が妊娠の前後に於て微毒に罹つた時に、其の病毒が胎盤から臍帶へその緒を傳つて胎兒に傳染する事があります。此の場合、婦人が妊娠前に夫と共に微毒に罹つて居るか、又は夫婦の何れかに微毒がある時に生れた小兒の遺傳性微毒は、兩親が此の病に罹つた時期と、妊娠との間が遠いもの程、輕いのであります。それ故に兩親に本病があつても、後から生れるもの程、先きの兒よりも健康に近いのであります。しかし

此の事は全然凡べての場合に當辨めることは出来ませぬ時には之れと反對の例を示す事もあります此の恐るべき黴毒の遺傳も傳染後十年以上を経れば最早産兒には影響しないと云はれて居りますが、なほ學者の意見は凡べて之れに一致してゐるわけではありませぬ。

4 精蟲より傳染する場合。男子の精蟲に本病毒があつた爲めに、之れが胎兒に入り次いで胎兒から母體即ち母親に傳染することがあります。又此の病毒のある精蟲から妊娠する時には胎兒に黴毒を傳へること、なります。

5 卵細胞から傳染する場合。卵巢内の卵の中に既に病毒のある時に、其の卵が受胎すれば胎兒に遺傳致します。

6 卵も精蟲も共に病毒があるために、胎兒に遺傳する事があります。

5の場合には、多くは妊娠中に胎兒は死にます。6の場合は兩親の一方に

病毒がある場合即ち4、5の場合よりも被害が劇しい事は勿論であります。

2 黴毒の種別と經過

前章に述べました様に、胎兒が生れる前に於て既に黴毒に罹つたものを先天性黴毒即ち遺傳黴毒と云ひまして、其の他の交接、接吻等の直接傳染のもの、と道具などによる間接傳染のものを後天性黴毒と名づけます。はじめ後天性黴毒に就いて述べ次いで先天性のものを述べる事と致します。

黴毒が身體を侵すのは、第一に陰部の疵でありまして、其の他の皮膚や粘膜の疵が之れに次ぎます。黴毒の感染を受けても、或る時日の間は、何の症候もなく經過致します。之を第一潜伏期と云ひまして、此の期間は普通二週乃至四週間(平均三週間)であります。早いものは九日乃至十日間、遅いものは六七週間位の差があります。此の潜伏期を過ぎてから毒を受けた部分に症

狀を呈して参ります。これを微毒性原發症と云つて居ります。次いで病毒は遠慮なく淋巴腺に侵入しまして此の病毒を受けた局所が硬く腫れます。これを第一期症と稱します。次に五週乃至十週間の第二潜伏期に入ります。この間病毒は血液の中に入つて、全身を隈なく循環するのであります。かく全身に病毒が傳播された場合を全身微毒と申します。斯うなりますと淋巴腺は手を以て觸つて見ればぐりぐりと腫れ皮膚や粘膜に發疹が出來ます。それで一に發疹期と云はれます。次いで骨や筋肉關節等に障礙を起すやうになります。これがこれまでを第二期症と云ひます。其の後身體諸處の組織に護膜腫或は微毒腫と稱する腫瘍や深い潰瘍が出來ます。そして病毒は鼻自耳咽喉骨質皮膚筋肉内臓腦脊髓等の中何れかその一二を選んで其の個處に暴威を逞うしますから、鼻が落ちて昨日の紅顔も須臾にして落莫たる醜貌に變化し或は生れもつかぬ盲目となり或は哀れ精神に異狀を來す等種々の

慘狀を呈しますが、之を第三期症と云つて居ります。斯うなるのは微毒感染後二三年を経たからであります。微毒患者といつても全然この様な定型的の經路を終りまで順序よく踏むものとは限らないで、第二期症で終るものが多く、第三期の症狀の起る事は稀であります。又第一期第二期の症狀が比較的軽いにも拘らず、第三期の症狀が激しく、腦微毒又は脊髓微毒等をひき起す事があります。此の外劇症であつて第一期から第三期までを連續し丁度大河の堤を決したるが如くに速かに慘害を與へるものもあります。これを悪性微毒と云つて居ります。

3 微毒の原發症

微毒に感染したことを自覺するまでには、普通三週間許りの潜伏期がありますが、其の原發症に左の區別があります。

1 初期丘疹。感染後三週間以上を過ぎてから陰部、上肢、軀幹の一部分に粟粒位の赤みを帯びた硬い結節が出来まして、追々皮膚面から高まつて明瞭になります。之が血疹でありまして其の大きさは豌豆又は小豆大であります。此の丘疹は自然に消えますが、それと共に近くの淋巴腺が腫れて硬くなり、次いで全身の微毒が起るのであります。

2 下疳性丘疹。之れは陰部、眼瞼、子宮腔等に前同様大きくなつた丘疹又は紅い斑點が出来、其の表面の皮膚が剥けて糜爛を生じ、次いで痂皮が取れた後は皮膚面より高くも低くもなりませぬ。此のものは三四十日にして癒えますが痕が残つて、皮膚の色が失はれますから斑點になつて見えます。

3 初期硬結。多くは陰部に出来、即ち龜頭、包皮、内面、陰阜、婦人では大小陰唇、陰核、陰子宮頸部に小豆大より銅貨位の大きいで、紅く硬く腫れたものを生じ、後に其の中央部の表皮が剥けて液を少しづつ漏し、其の上に又痂

皮が出来、これを初期硬結と申しまして痛みがありません。これを不潔にして其のまゝに放置するときには潰瘍に陥るのであります。これを硬性下疳と申します。初めは単に一個だけ發生するのが普通であります。時には二つ乃至數個出来ることもあります。これは同時に感染したものであります。此の硬結の發生は陰部とは限らないで、接吻による感染から口唇にも生じ、授乳による傳染から乳房にも生じます。小さい硬結は三四週日にして癒えますが、大きくなつて潰瘍に陥つたものは何箇月も時日を要します。多くの場合には此の硬性下疳と、後に述べる軟性下疳とが混合して所謂混合下疳となつてしまふやうになります。原發症はかく癒り易いものですが、然し之に次いで全身症を起すものであります。微毒が治つたのではありませぬ。茲に注意すべき事は此の原發症の輕重が次いで來るべき全身症狀の輕重と比例しない事であり、硬性下疳を外科的治療

によつて截除けても、それで黴毒が治癒したのではありませぬから、同時に沃度や水銀劑を外用致します。潰瘍に對しては、消毒液で洗滌した後に沃度仿謨、デルマトールの粉末を撒布して繻帶を致します。

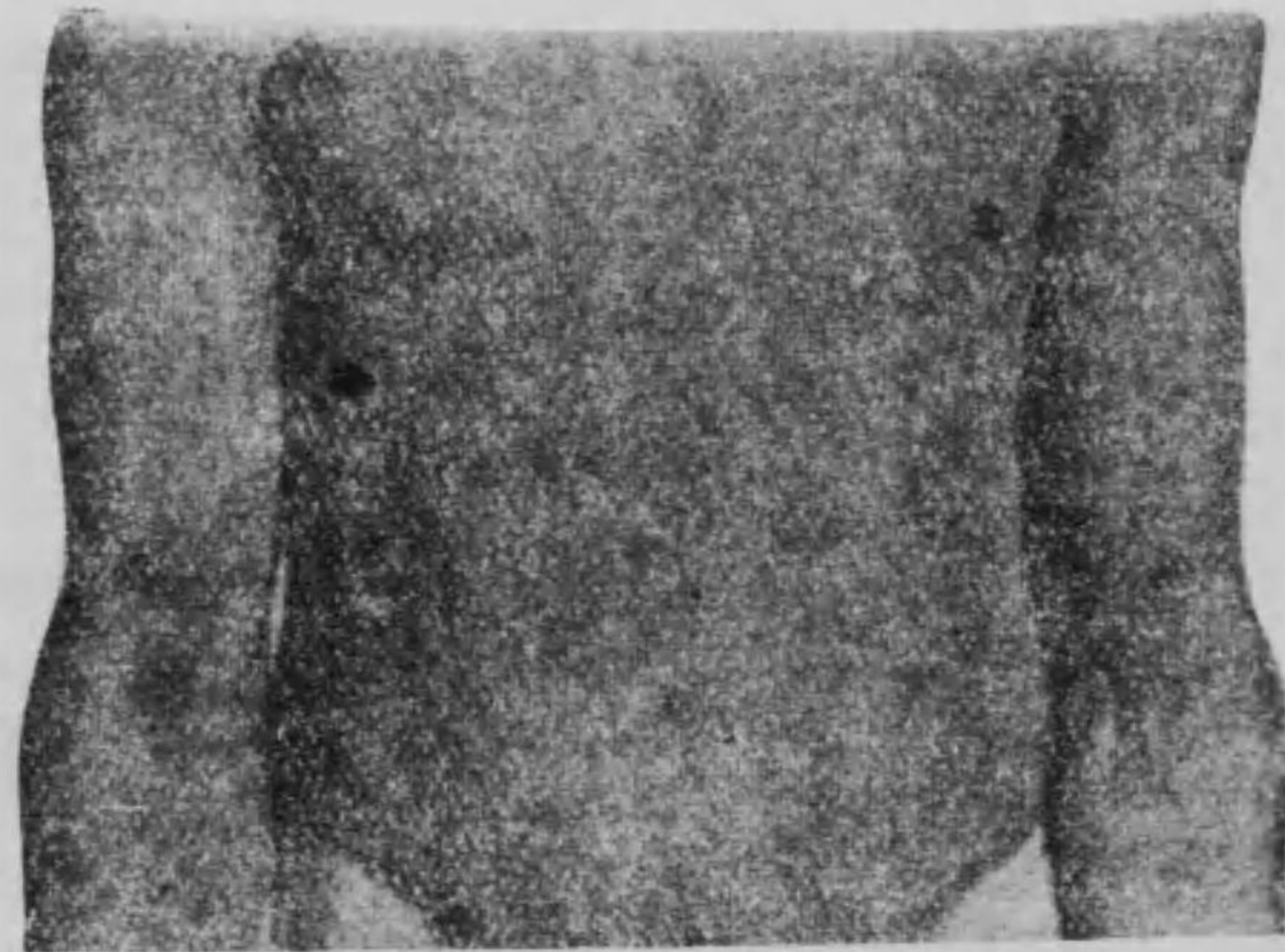
4 淋巴管と淋巴腺に於ける黴毒

原發性に次いで黴毒が全身に傳播せられるのは、抑何によるのかと云ひますと、夫れは淋巴腺であります。陰莖に初期の硬結が出来て一二週間も経てば股の附け根の處にある淋巴腺即ち鼠蹊腺が腫れて、横瘡、指頭大になります。其他身體内部の淋巴腺も同様に腫れるのですが、それは外部からはわからぬのであります。かくして病毒が淋巴管を経て血液の中に入つて全身に亘れば、總べての腺が腫れますから皮膚に近い處のものは直ちにそれと知られます。例へば頸腺、項腺（うなじ）後頭、肘腺、腋窩腺などは、侵され易いも

のでありますから、醫師が診断に際して、先づ此等の腺に觸れて見るのであります。此の中で肘腺の腫脹は第二期症の後までも硬く、豌豆大の大きさを以て上膊骨の下端に於て前端に近い内面に存在して居りますから、肘を直角に曲けて此の點を探ぐつて見れば、直ぐに觸れます。然し此の腫脹許りを見て早計に黴毒であるとのみ斷言する譯には參りませぬ。それは若し手指の傷又は皮膚病などのある爲に、其の部分に腫脹する場合もあるからであります。頸腺は一個以上幾個も相連つて居る事があります。凡べて此の腫脹は數月、長きは數年も経過すれば自然に消滅するのであります。が治療を受ける程早く癒えるのであります。

5 第二潜伏期と發疹期

黴毒に感染して後、約九十日即ち前に述べた原發症を發してから六十五



全身毒瘡性毒疹

をみます。その大きさは小豆大から指頭大位圓形又は楕圓形をして居て、少しく皮膚面から隆起して居ます。時には皮膚と同平面になつて居ることもありますが、其の色は淡紅の蔷薇色を呈します。此のものは僅に一兩日にして暗褐赤色に變じます。發疹の数が少ない時には其の形狀が大きく、無數に發生するときは小さいのであります。發疹の發生する部位は主として脊胸部の兩側關節の屈曲部・掌蹠等の皮膚の柔い處であります。發疹は痛くも痒くも無いのが特異である爲めに、患者は左程氣にも止めませ

をみます。その大きさは小豆大から指頭大位圓形又は楕圓形をして居て、少しく皮膚面から隆起して居ます。時には皮膚と同平面になつて居ることもありますが、其の色は淡紅の蔷薇色を呈します。此のものは僅に一兩日にして暗褐赤色に變じます。發疹の数が少ない時には其の形狀が大きく、無數に發生するときは小さいのであります。發疹の發生する部位は主として脊胸部の兩側關節の屈曲部・掌蹠等の皮膚の柔い處であります。發疹は痛くも痒くも無いのが特異である爲めに、患者は左程氣にも止めませ

日間位にして之を第二潛伏期と云ひますが、此の期に入つては病毒は全身に亘り、身體の皮膚に發疹を生じます。此の發疹のはじめは丁度麻疹の様でありまして、體温は平温よりも一度前後昇ります。それは朝に比べて夕方の方が高くなります。此の熱が三四日つゞいてから下りますと、發疹が代はつて現れて來ます。又熱の發する事がながく、身體各部の關節がリウマチスのやうに痛み、食欲不進で倦怠を覺えるやうなものもあります。

6 皮膚の症状

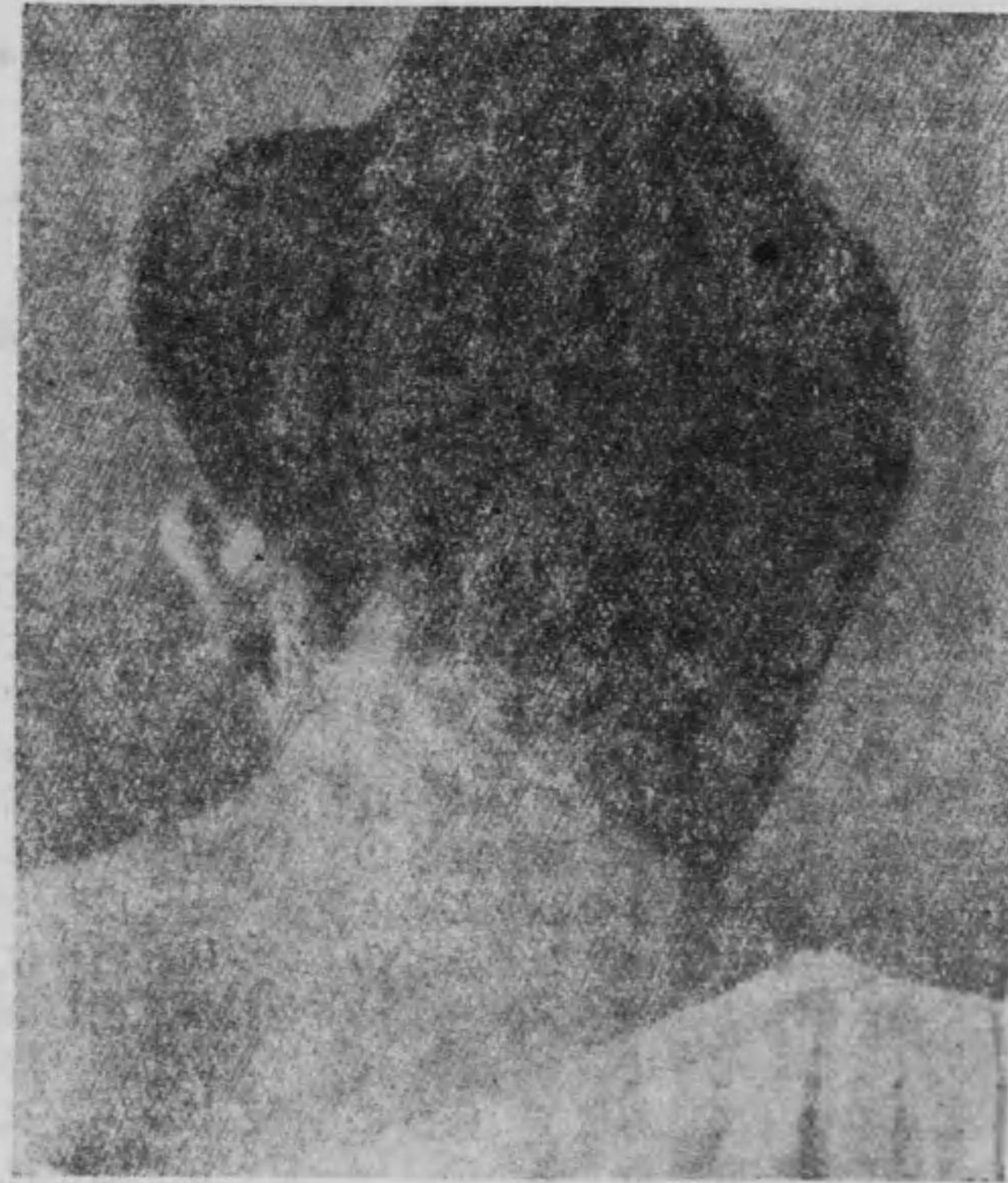
1 斑性毒疹
毒瘡が全身に蔓延したる證として、皮膚に種々の發疹を生じますが、此の發疹は其の後何年も出沒して患者を悩ますのであります。之れを左の五項に區別して述べませう。

1 斑性毒疹

毒瘡患者の九割までは發疹期に於て之れ

ります。これは微毒に必ずつきものの微毒性白斑と稱するものであります。上述の場合のみならず丘疹の吸収後にも現はれ長いのは一二年も経てから漸く消え去るものであります。

2 丘疹生微毒疹。これは色が褐赤色で蕃薇疹とは異つて發疹の先が尖つたり又は球の様に隆起します。其の大きなものは大豆位もあつてこれに觸つて見ると硬くなつて居ります。此のものは數週間も経つと漸次小さくなつて鱗屑が剥け乍ら消えるものと、その反對に蔓こつて隣りの發疹と一つになつて環状又は半輪状を取ります。これは前の蕃薇疹と共に發することもあります。そして發疹が摩擦刺戟などを受ける場合には表皮が破れて濕潤し、遂には銅貨程の大きさに達する事があります。殊に婦人の陰門附近に出來た時にこの様になり易いものであります。これを扁平贅肉と云ひます。其の色は灰白又は帶褐赤色で、皮膚面よりは隆起して居ります。



微毒性白斑

ぬ。そして此のま
ま棄て、置けば、
五六ヶ月で消滅
致しますが、これ
に治療を加へれ
ば半ヶ月位で治
ります。此の發疹
は消失後に痕跡
は残しませぬが、
皮膚の色を失ひ
ますから白斑を
止めることがあ

そして扁平なもの又は乳嚢狀粒狀を爲すものなどであつて薄い膿汁を出します。そして常に濕潤する部分に好んで發生しまして甚だ悪臭を放ちます。扁平贅肉は陰部ばかりではなく、肛門の周圍乳房の下腋窩指趾間(ゆびのあひだ)口角臍などにも生じます。此の分泌膿汁は最も多く病毒を含んで居りますから、これが附著する事に由つて傳染し、害毒を逞しうするのであります。其の大きなものは摩擦を受けなくとも痛みがありまして、癒えるまでには一ケ年もかゝりますから、一旦癒えても又再發する事があります。丘疹の小さいものは粟粒程で、褐赤色を呈し多く集つて居ります。掌面や足趾に出来るものは小豆程の大きさで、其の中央には白く光澤ある鱗屑があります。これが剝落しますときは、赤い斑點を残します。微毒に固有なるは、手掌足趾に此の様な發疹が出来まして、皮膚に龜裂(ひびれ)を生じ、痛みがあつて治り難いものであります。これを微毒性乾癬と申します。

3 膿疱性發疹。これは發疹に膿汁を蓄へて居る豌豆大の硬い褐赤色の膿疱であります。やがて痂皮を生じて其の周圍は炎症を起します。此の疹の出来る處は多くは大腿部又は背部であります。甚だしいものは全身に互つて出来て發熱する事もあります。此の疹は第二期以後に生ずるものです。比較的營養の悪いもの程發し易いのであります。其の小さなものは粟粒大で、關節の屈曲、面鼻の周圍、額髮の生え際などに群生しまして、痂皮が剝落した後は丘疹となり、次いで消失するものであります。これを微毒性面疱(にきび)と申します。

4 皮膚の第三期微毒。微毒傳染後二三年の後第二期症以後に發する晩發皮膚微毒であります。第三期症に屬しますが、時として早いものは六ケ月遅いものは十年後になつて見ることがあります。これを護膜腫と云ひまして、皮膚の護膜腫及び皮下の護膜腫の二つに分ちます。

(1) 皮膚の護膜腫。其の大きさは豌豆大から指頭大位の稍硬い球状の發疹であり、初は赤くて後に褐色となり、其の経過は初徐々に現はれて後にも亦徐々に癒えるのでありますが、癒えた後褐色の痕を止めます。此の護膜腫は顔面や肩胛部、肘部、下肢等に生じまして、一方が治れば隣りへ進み、此の様な事が長く反覆して、大きな潰瘍を作る事があります。之れを微毒性潰瘍と申します。此の様に一方が治つて一方に進む傾向がありますから、護膜腫は輪狀腎臟狀俗には梅の花の様な形を取るのであります。

(2) 皮下護膜症。皮膚の下に發生し、周圍及び深層に擴がるもので、胡桃位から大きなものは鶏卵大に達します。初めは赤く後に褐色となつて硬いものから軟かになり、遂には其の中央部が破れて分泌液を出します。此の護膜腫症も早く手當を施せば吸収致しますが、放置すれば遂に破れて其の組織を破壊するやうになりますから、天稟の容姿を醜惡にする事になります。眼

や鼻に之れ等の經歷を語つて居るものを道路に於て往々見受けるのであります。

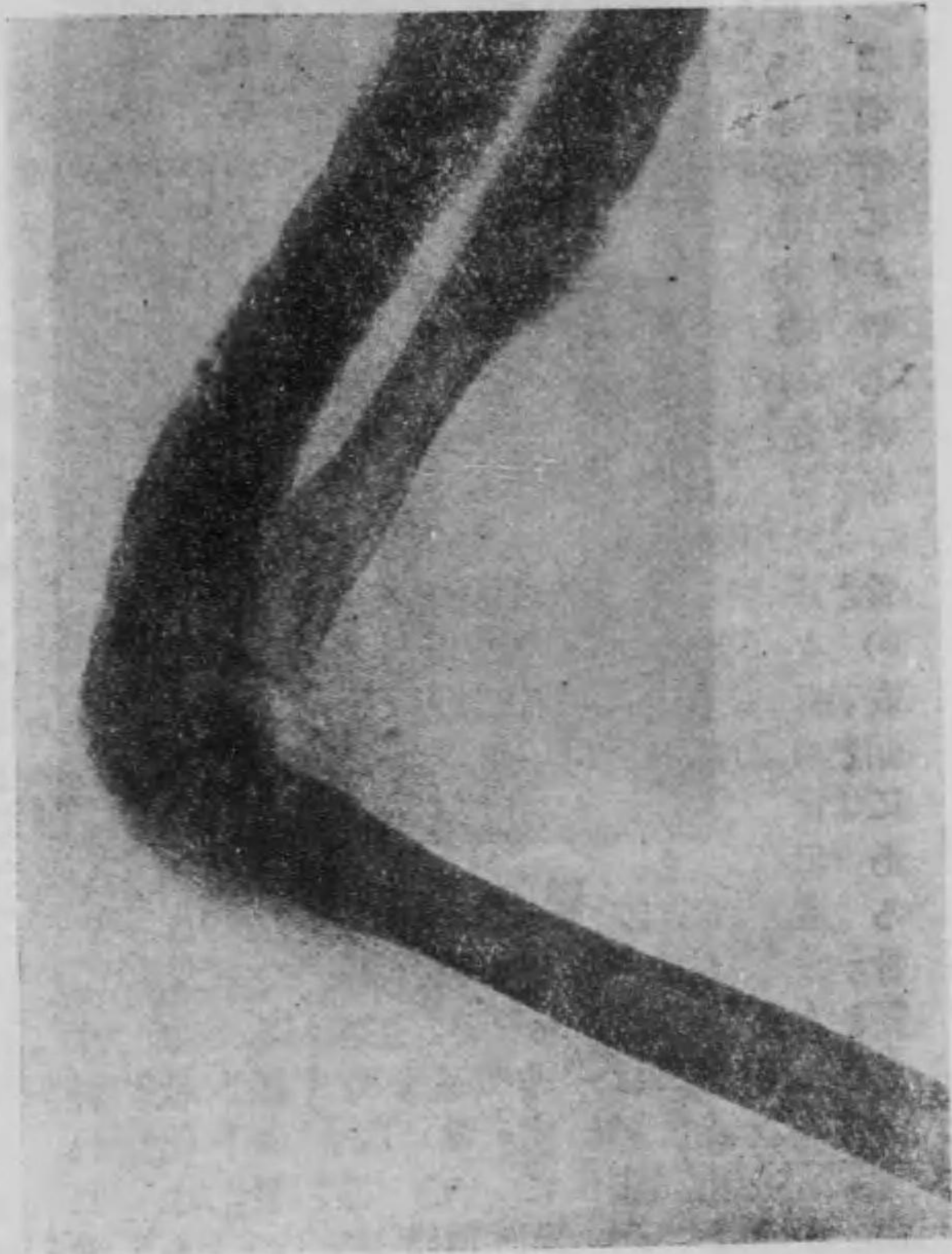
(3) 潰瘍性微毒疹。護膜腫の破潰した時に出来るものをいふので、潰瘍は其の縁邊が截斷した様であつて、その面は灰白黄色、豚脂様の分泌物で以て見ても穢なげに蔽はれて居ります。又痂皮となつて居るものもあり、或は前に述べた様に周圍に更に潰瘍を作つて進むものもあります。此のものは數年に互つて廣く蔓延する事がありまして、やがて痂皮が重なり合ふやうになります。之れを微毒性癩殼瘡と稱します。

7 毛髮、爪甲に於ける微毒

皮膚科に於て述べました微毒性禿髮症と云ふのは、第二期の場合に起つて來まして、頭髮ばかりでなく眉毛、鬚までも抜けて參ります。斯く其の脫毛

は一般に起るもので一部分には局限されるのではありませぬ但し後頭部の毛髪が好んで脱けます爪甲には爪溝炎を起して参りますそれには乾性と潰瘍性とがありすがその乾性のもは第二期丘疹の發生と同時に現はれまして一本の指からはじまつて他に移るものと同時に數個の指に發するものとがあります即ち爪甲が厚くなつて指の臺から離れ其處へ空氣が入りますから白くなつて見えますそしてやがて脱落して終ひますしかし治療が行届けば又元の通りに爪が再生致します潰瘍性のもは第二期の末又は第三期に起るもので膿疱に伴つて現はれます大抵趾あしのゆびの爪の中一個を侵します爪の炎症に次いで皮下に膿をもち潰瘍に陥つて爪は脱落致します。

8 骨及び關節に於ける微毒



炎 膜 骨 性 毒 徹
(著るた見てしらすにて標X)

1 骨膜の微毒
皮膚に微毒の發疹が出来る時分に起るもので皮膚に近くある骨例へば頭蓋骨・脛骨・鎖骨・肋骨・胸骨・尺骨の一個處又は數個所に護膜腫を生じます普通は夜間に痛むものでありますが劇しいものは一日中痛

しますが、鈍い痛みと壓する時の痛みとがある外は、障礙が少いものであります。けれども此の儘に放置すれば骨は脆くなつて了ひます。

3 骨髓を侵すもの。所謂第三期に入れば骨髓に護膜症が出來ます。其中には吸収されるものもありますが、又骨を破り皮膚を破つて護膜腫の潰瘍を現はす事があります。

4 關節を侵すもの。皮膚に微毒疹の發する前後、一箇所の關節に痛みを發して其の部分が腫れます。これが最もよく起るのは膝肘の關節であります。第二期の末、第三期の初めに當つて慢性の炎症が起つて、其の時に滲み出した液が關節腔に溜る場合がありますが、之れを治療せずに棄て置きますと、運動の不自由や關節の固定を招く基となり、第三期の末關節中に護膜腫の出來た場合も同様の結果を來すものであります。

むと共に骨に腫瘤を生じます。皮膚は赤く腫れて此の部分に熱を感じます。又徐々に來るものは痛みが少ないのですが、其の部を壓すと劇痛を覺えます。



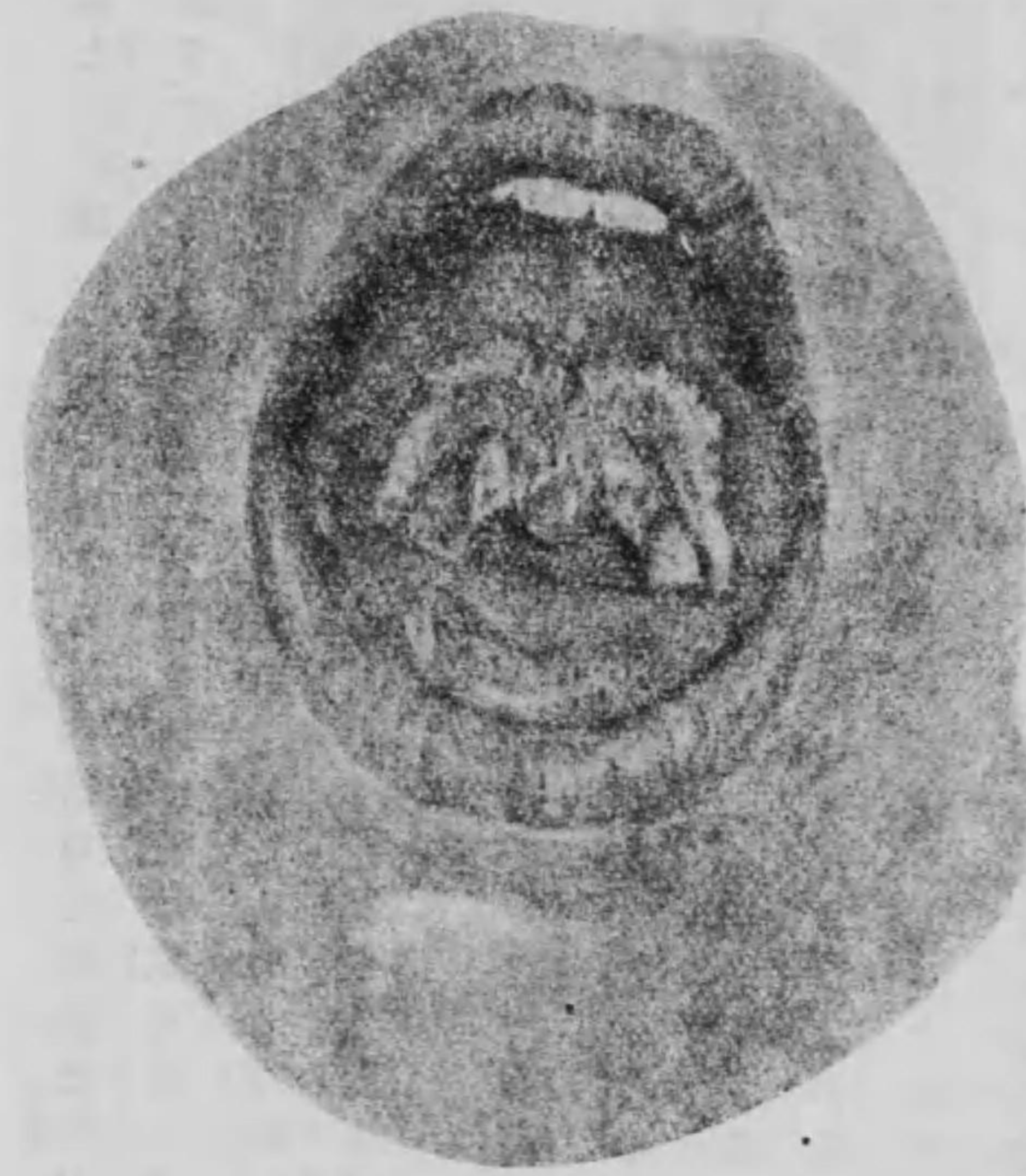
圖の毒徹骨頭前

陥る事があります。

2 骨質に於ける炎症。骨の表面にある骨膜又は骨髓の炎症に次いで發

す。腫れた骨膜につままれる骨は軟化する傾きがありますから、段々骨が腐つて骨の用を爲さない様になります。又第三期に入つて骨の表面にある骨膜が非常に膨れて其の部分の皮膚は腫脹の大きくなるにつれて青赤色となり、次いで潰瘍に

(1) 紅斑性のもの、この微毒疹は小豆大以上の形で赤色の斑をなし唇舌頰の内面から軟口蓋咽頭に及んで出来来ます。此際には發熱して咽頭の渴を覺えます。紅斑から粘液が出ますと上皮は糜爛しますから、談話食事に障礙を及ぼします。此のものは大抵輕らくして癒えますが、時には喉頭から鼻腔等までも侵すことがあります。(2) 丘疹性のもの、これは小豆大の圓形赤色の疹でありまして、後に白色となり、上皮が破れ筋肉が露出します。前のものと同様に時を経れば癒えるものですが、不養生にして煙草酒其他刺戟物を取る時には潰瘍性に變化するのであります。(3) 潰瘍性のもの、これも前述の様な症状から移行行くものでありまして、劇しくなれば口腔に疼痛があるのと、腫脹のために口腔の運動が妨げられます。此等丘疹性潰瘍性のものは傳染後一二年間は屢々再發を繰り返しますから、其の唾液などには常に病毒を含んで居て機會を得て他人に傳染するのであります。其の他護謨臘は軟



9 消化器に於ける微毒

咽頭の微毒性潰瘍

1 口腔及び咽頭を侵すもの。口腔や咽頭に發疹が出来るのは皮膚に發疹の現はれる第二期即ち全身に病毒の傳播された時であります。之れにも紅斑性丘疹性潰瘍性の別があります。

口蓋扁桃腺咽喉の壁等に發生しまして時には穿孔しますから患者は常に呼吸の困難を感じるやうになり談話の障礙又は食物が口腔から鼻腔の方に抜ける等の不快を伴ふのであります此の口腔の穿孔を來して談話の時鼻聲を發する様になるのは微毒の特徴であります更に此の附近の動脈を侵して出血を起したり頭蓋骨を侵し延いては腦を害し遂には患者をして死に至らしめる事があります。

2 腸肝臓を侵すもの。其のうち直腸には鶏姦によつて初期硬結を來す事があります又第二期第三期の毒に侵された時には潰瘍を生じそれが癒痕收縮をしたときには直腸の狭窄を起して便通の障礙を現はして参ります肝臓に護膜腫の出來た時は肝臓の膨大に由つて右側腹部の方から腹部が膨満しましてその部には壓感及び疼痛があります後肝臓が萎縮に陥りますから血液の循行が妨げられて腹水を現はし又は脾腫脾臓のはれを起すのであります。

10 呼吸器に於ける微毒

1 鼻に來るもの。第二期第三期に於ては鼻に發疹を生じ次いで硬結を來しますが最初に鼻の粘膜に第二期の紅斑を生じますさうすると患者は鼻の中に搔痒熱感を覺えます發疹が奥の方に廣がつて行く時は鼻汁を多く漏らし嗅覚にも異常を呈して参ります丘疹は下鼻道に生じますがすると鼻汁が多く粘膜が腫れまして空氣の交通を妨げます長いものは數ヶ月も續いて症状が進みますと鼻汁は膿の様になり潰瘍に陥る事がありますしかし丘疹だけでは鼻の落ちる事はありません第三期に發する護膜腫は鼻中隔の骨と軟骨との境を侵し段々壞疽に進みまして茲に鼻の破壊は起るのであります數月乃至數年に互る長い月日の間には粘膜徐々に腫れて

空気の交通を妨げる事となり、鼻汁の流出は次第に増し、護膜腫が破壊し、鼻の膿を分泌し、鼻骨の壞疽を起しますから、鼻汁をかむ時に其の骨片を混する様になります。重症のものは鼻の變形を來し、生れもつかぬ醜貌となつて呼吸及び言語の困難に生涯なやまされるのであります。時には此の骨の壞疽が口蓋骨から腦に達して、腦膜炎を起す事もあります。又は鼻腔粘膜の萎縮に因つて鼻腔の擴大を來す事もあります。鼻に此の種の症狀があれば、微毒に對する全身療法を講ずると同時に、鼻腔は防腐液を以つて十分に清潔にしなければなりません。

(2) 喉頭の微毒 此の部分は全身に病毒が傳はつて他の症狀が現はれる時に直ちに來るものもありますが、多くは傳染後十数年の久しきを経てからはじまるのであります。其の紅斑は皮膚や口腔等に出來ると同時に出來まして、喉頭は赤く腫れ、咳嗽、咯痰が頻りに出て、喉頭に乾燥を覺えます。そし

てだんく、聲が嘎れて參ります。微毒に由つて聲が嘎れる事はよく知られてゐる事であり、ます。護膜腫が後に潰瘍となつて軟骨を破壊する時は、喉頭の狭窄を起して、聲が嘎れ、咳嗽が出来ますが、甚だしいものは聲門を塞いで呼吸を絶止させる事があります。これは全身療法と共に頸部を温かにし、煙草、高聲の談話、其の他喉頭に刺戟を與へるものは十分に避けねばなりません。更に進んでは氣管、氣管支、肺臓も微毒に侵されるものであります。

11 泌尿器並に生殖器に於ける微毒

1 腎臓を侵すもの 第三期には慢性腎臓炎及び護膜腫の症狀を起します。腎臓炎の徴候としては尿量を減じ、顔面の浮腫、頭痛、嘔吐、下痢などを催します。又著しい症狀なくして徐々に現はれるものもあります。而して膀胱や尿道は微毒に罹る事は稀れであります。

2 辜丸を侵すもの。第三期に好んで参ります。辜丸は徐々に固く腫れ出し、大きなものは小兒頭大に達するものがあります。普通痛みはありません。ぬかく徐々に侵害を及ぼして、終には生殖力を失はしめるのであります。

3 女性の生殖器を侵すもの。前に述べたもの、外第二期に於いて丘疹が外陰部に出来まして、摩擦や濕潤の爲めに剥皮糜爛を経て濕疣となります。此の時治療を怠つて居りますと、病毒は漸々に深部に達します。腔部には護膜腫が出来、其の癒えた後には腔の狭窄を起します。子宮には初期硬結及び第二期第三期の微毒を發生します。又卵巢や喇叭管には護膜腫を生じます。乳房は原發症を起し、第二期には濕疣を發し、三期に於いては護膜症が出来、皮膚を破つて潰瘍を生ずる事があります。

12

血行器に於ける微毒

血液循環の源泉たる心臓は、微毒の第二期にも侵されますが、第三期に至つて心囊及び心臓筋肉内膜等に炎症を起します。就中心臓の筋肉には護膜腫の生ずる事が最も多いのであります。斯く心臓が侵されると、脈搏は多くなり呼吸促進いきぎれ喘息胸部狭窄等を起します。それに皮膚は蒼白となり、浮腫が伴ひます。そして本病が進む時は卒然死に赴く事があります。血管は其の壁がだんく固く厚くなつて弾力を失ひ、微毒性動脈内膜炎を起し、遂には血管閉塞して恐ろしい手足の腐る脱疽を發するやうになります。腦の動脈に動脈瘤を生じて破壊する時には卒中を起すのであります。患者は殊に夜間に頭痛の劇烈を覺えます。

13

眼に於ける微毒

眼瞼及び眼の結膜には初期硬結第二期に丘疹及び第三期に護膜腫の生

する事があります。微毒に由る角膜實質炎は多くは先天性の微毒によつて起るものでありますが、又後天微毒からも参ります。虹彩炎は主として微毒に因つて起ります。第二期の始めに一眼を侵し、次いで他の一眼に及ぶもので、微毒性の虹彩炎は時々起り易く、眼瞼や結膜が腫れ、角膜の周圍に充血を來します。虹彩は變化して、瞳孔は小さくなり、患者は痛みを覚え、光射に對しては眩惑を覺えます。其の他視力が衰退して物が朦朧と見えることがあります。中には虹彩に丘疹の出來て居るものもありますが、之れ等は早く治療を加へないと治療してからも害を残します。微毒性脈絡炎は第二期第三期に起るもので、症状は物を視る時ちらちらと閃光を感じたり、暗點が見えたり、無色のものを着色物と見たり、夜盲になつたりしまして、經過の良くないものであります。同じく網膜炎は視力が衰へて來て脈絡膜炎に似た症状を呈しますが、遂には失明するものも少くありません。眼に於ける微毒は毒眼と

稱へられて甚だ恐しいものであります。早く療治を加へれば比較的容易に癒えるのであります。

14 耳に於ける微毒

第二期の微毒が外聽道に發した時には、乾いて居た丘疹が濕疣に變じ、常に膿汁を分泌します。所謂耳だれであります。甚だしいものは全く聽力が失はれます。此の場合には鼓膜に充血を起し、次いで穿孔して、中耳に其の炎症を及ぼす事があります。から注意して耳内の清潔を保ち、療法を加へなければなりません。中耳内に急性の炎症が起りますと、聽覺が衰へて、兩側の顚顫部に痛みを發します。そして耳と咽喉を連絡して居る處のオースタキ氏管に炎症が起れば、聽覺に障礙を受けて耳鳴りを覺えます。若し迷路に起れば、劇しい耳鳴りと共に、聽覺が不良になり、なほ同時に眩暈、嘔吐を發します。此

の時手當が後れますと聾者となります

15 神経系に於ける微毒

脳膜炎即ち脳微毒は其の侵害された部分によつて症状を異にしますが、通常頭痛を發します。此の頭痛にも強いもの、弱いもの、時々起るもの、始終痛み通すもの、或は頭全體のこともあれば、又一部分のこともありまして、眩暈不眠症嘔吐思慮記憶の減弱などを起して参ります。神経のうちで動眼神経が侵された場合には、眼瞼を開く事が困難となつたり、斜視になつたり、瞳孔が開いたり致します。視神経が侵されるときには、視力が減じ又は盲目となります。其の他嗅神経聴神経三叉神経などが侵されると、嗅ぐ事や聴く事に障害を發します。そして三叉神経が侵された時は、顔や舌の半分は神経痛の起るものであります。脳髓が侵された場合には、先づその血管が侵され更に

脳實質に護膜腫を生じます。其の侵される部分によつて種々の器官に麻痺を起しますと昏睡に陥つて遂に死にます。麻痺狂と稱するもの、多くは微毒が其の原因となつておこる一種の精神病であります。治癒するものは少数であります。慢性に進んで二三年のうちに多くは死亡します。初めは頭痛暈眩不眠食慾の減退等の不定の症状があつて、やがて患者の性格を變じ、智力其の他の能力を減じます。患者の精神は誇大的又は沈鬱となり、進んで麻痺を起して死に至るものであります。脊髓を侵されると脊髄膜炎、脊髄炎、壓迫性脊髄炎脊髄癆などが起りますが、此の脊髄癆は微毒によつて、かなり多く發する病であります。患者は疼痛智覺の異常反射機能の亢進を起し、脊髄癆には反射機能全く消失し、又肛門括約筋膀胱筋の麻痺によつて排便排尿の障礙を來します。背髄癆は慢性症であつて十數年にも及びます。下肢の急劇な疼痛身體全部に壓しつけられる様な感じがあり、皮膚が障礙され膝

の 髓 反 射 が 失 は れ 次 い で 歩 行 が 困 難 と な り 身 體 に 動 搖 を 起 し 遂 に は 下 肢 の 麻 痺 陰 萎 膀 胱 麻 痺 呼 吸 困 難 な ど の 症 狀 を 呈 し て 死 に 至 り 一 般 に 脊 髓 に 於 い て か ぶ る 症 狀 の あ る 微 毒 性 の も の は 治 療 し 難 い も の で あ り ま す 。

16 惡 性 の 微 毒

微 毒 の 中 で 其 の 惡 性 の も の は 實 に 經 過 が 急 激 で あ り ま し て 恰 度 大 河 の 決 する や う に 又 悍 馬 の 狂 ひ 奔 る 様 に 忽 ち 重 症 に 陥 り ま す そ れ 故 第 一 期 に 次 ぐ 第 二 期 は 殆 んど 現 は る 暇 が な い 位 で よ し あ る と す る も 其 の 期 が 甚 だ 短 い の で あ り ま し て 傳 染 後 數 月 を 出 で な い で 潰 瘍 護 謨 腫 等 を 全 身 に 發 し 其 の 他 各 器 官 の 故 障 が 相 次 い で 現 は れ て 參 り ま す 凡 べ て 體 質 の 弱 く な れ る も の 例 へ ば 老 人 妊 婦 酪 酩 者 な ど に こ の 惡 性 微 毒 が 多 い と 云 ふ 人 が あ り ま す が 一 方 に は 反 對 に 強 壯 者 に 多 い と 云 ふ 人 も あ り ま す 泰 西 の 一 學 者

は 父 母 に 微 毒 が あ れ ば 其 の 子 は 此 の 症 に 對 し て 免 疫 性 を 得 て 居 つ て 微 毒 に 對 する 抵 抗 力 が 強 い が 全 然 微 毒 の 無 い も の 子 孫 は 此 の 病 毒 に よ つ て 劇 烈 な る 病 症 を 呈 する も の で あ る と 云 つ て 居 り ま す 此 の 惡 性 微 毒 の 初 期 は 硬 結 が 普 通 に あ る 事 も あ り 又 早 く か ら 組 織 が 侵 さ れ て 壞 疽 の 様 な 症 狀 を 呈 する こ と も あ り ま す 一 般 に 經 過 が 猛 烈 で 忽 ち 患 者 を 斃 す 事 が 多 い の で あ り ま す そ し て 通 常 の 微 毒 に 對 し 効 力 の 著 し い 療 法 を 本 病 に 施 し て も 效 を 奏 し な い こ と が あ り ま し て 實 に 危 險 な 性 質 の も の で あ り ま す 以 上 は 後 天 性 微 毒 の 普 通 起 り 易 い 場 合 に 於 ける 大 要 で あ り ま す が 次 に 先 天 性 の も の に 就 い て 概 略 を 記 す こ と 致 し ま す 。

17 先 天 性 微 毒

こ れ は 人 が 生 れ ぬ 前 に す で に 受 け て 居 る 微 毒 を い ふ の で あ り ま し て こ

れに胎内に於ては其の親から毒を受けて居るのみで生れてから其の症状を發するもの又は子宮内に於て既に發疹を生じて居るものなどがありすが、何れも黴毒性の原發症を缺いて第二期及び第三期様の症状を呈するものであります。黴毒は父母から其の子に遺傳致しますが、孫にまでは及ぼさないのであります。其の遺傳する途筋は前に述べた通りであります。症状に於ては遺傳性のものと後天性の第二期第三期の徴候とは大同小異であります。まずから詳述することを略して其の異なる點を述べて見ませう。

先天性黴毒は膿疱疹及び潰瘍などの起るのは稀れでありまして、大なる水疱及び出血性の發疹を生ずるものが多いのであります。初生兒の皮膚は一般に赤いものですから、紅色の斑點は明らかに見分ける事は困難であります。温浴後に於てはこれを明瞭に視ることが出来、先天性のもの、丘疹は形が大きくて膚のこすれる場所に濕疣が出来、頭部や顔面に發した。

ものは膿を持ちます。これには生れた時既に發生して居るものと、其の後漸次に發生するものとがあります。一般に出産後二三ヶ月の間に黴毒症狀を視る事が多いのであります。これを早發性先天黴毒と云ひまして、生後數年にして起るものを晚發性遺傳黴毒と云つて居ります。大きな水疱の出来るのはその重症たる事を示すものでありまして、始め掌蹠に丘疹や紅斑が出來て、それが速かに水疱となります。天疱瘡即ち疹の中に水様の液體と膿とを交へて居りますが、これが破れますと、赤い皮膚の面が現はれて常に濕潤して居ります。此れ等の發疹は、其の他全身一般に處を嫌はず蔓延つて粘膜炎をも侵しますから、小兒は一二週間に於て斃れるのであります。又此の種の小兒は鼻の粘膜を侵され潮紅して居りまして、水様の鼻汁を洩らします。それに膿の様なもの混り、時には血液を混じて居ります。此の分泌物が乾きますと、鼻腔を塞いで呼吸の困難を起して參ります。それ故小兒は不機嫌

となり段々に營養不良を來して死に至るのであります。又喉頭・肺・口腔・四肢などの骨や關節の障礙頭骨の變化を受けますが、就中特有な障礙は齒の發育が非常に不良な事であり、心臓にも護謨腫の出來る事があります。血管は脆く且つ弱くなつて皮膚の下に溢血することがあります。之れを出血性微毒と稱します。呼吸器が侵された場合には速かに死亡するものであります。眼は二歳より十歳位の小兒に角膜實質炎を起すことが多いのであります。角膜の周邊に充血と濁濁を生じまして、之れがだんだん中央に向つて進んで遂には角膜全體が灰白色に、乳のやうに濁つて參ります。本病は微毒の療法によつて癒えますが中には失明する者もあります。耳も又六歳から十七八歳の間に迷路を侵されて、其の甚だしいものは聾者になります。重症のものは子宮内で既に死んで流産となり、或は死産・早産又は出産後間もなく死ぬるの結果に陥ります。之れ等は皮膚に水疱などの症狀を呈して居て、



先天性微毒のハッチンソン氏歯

一見してわかるもの、又は内臓を侵されて死ぬる者などがあります。此の先天性微毒に三つの特徴があります。これはハッチンソン氏の擧げて居る所でありまして、(1)ハッチンソン氏歯を有つて居ること、主として上顎骨第一門歯(但し永久齒)に就いて、あります。その側縁は並行して居なくて、下の方で重なる様になつたり、又は離れて居ります。そして咀嚼面は半月狀に缺損を生じて居ります。(2)角膜實質炎にかゝれること。(3)一側又は兩側の耳聾あること等であり、ます。遺傳微毒は如何にして豫防すべきかと云ひますに、勿論親たる者が微毒にかゝらぬ様に注意するのが第一であり

ます、それ故にもし微毒のある者は結婚前に於て醫師の治療を受けて最早遺傳の憂が無いと認めらるゝまで、健康に復さなければなりません。これにはワツセルマン氏の血液検査が必要であります。微毒に侵されたものが微毒の治療を受けるならば、其の胎兒にも効果の及ぶものであります。

18 微毒の豫防法

前にも述べた様に微毒は患者の使用した食器、他の器具からも傳染されますが、多くは不潔の情交に由つて感染致します。故に豫防として不品行を慎む事が第一であります。不品行を續行するならば一方に豫防法を講じたとして、其の豫防法は何にもなりません。絶対に病毒を有する虞れあるものに接近しない事が最良の豫防法であります。尚ほ注意すべき豫防法について其の二三を述べて置きます。

1 結婚 結婚の前に男女互に其の資産人格などを調査する事は一般の風習であります。これと同時に健康状態、殊に此の種の病氣の有無を詮索して、一生の大事を決する人は未だ少ない様であります。少ない計りでなく結婚後に本病を知つても平然として居るものすらあります。此の結果を思へば實に寒心に堪へないものがあります。前章述べた様な各症状や、其の患者の経路を讀まれるならば、誰れしも大いに警戒する所があります。微毒が一度家庭の中に侵入する時は、其の不幸は此の上もない事であり、ます。如何に巨萬の富を累ね榮華の夢を結ぶとも、子實に不具の者を出しては、幸福も根柢から覆されてしまひます。それで結婚前に於て充分に双方の健康を精査せねばなりません。

2 乳母の選擇 乳母を雇入れる場合には、其の健康診断を嚴密に行はなければなりません。何故なれば家庭に於て父母共に健全であつて、其の祖先

以來の血統の正しいのを誇つて居ても、若し他から雇入れた乳母に微母があつて哺乳を受ける愛子に傳染させないとも限らないからであります。又健康な婦人が他人の子に乳を與へる時にも十分に注意を拂はなければなりません。乳母としてではなくとも、婦人が親しい人の子に己が乳房を含ませぬ事などは、よく見る所でありますが、偶々其の小兒に遺傳其の原因によつて、微毒性の病氣がある時には、乳を呑むに當つて傷付き易い乳房から其の微毒菌の傳染する事があります。其の他皮膚の發疹などから間接に感染する恐れもあります。

3 種痘 この種痘に關する注意は醫師のなすべきものであります。かの種痘の際に一人の微毒性の小兒から他の健康な小兒に種痘の針を以つて病菌を直接に傳染させることがありますから、十分に器械の消毒に注意しなければなりません。この種痘の際に傳染したものを種痘微毒と云つて居

ります。しかし現今に於ては此の様な不注意は全く無いのでありますから、決して種痘を恐れる事はありません。今は只斯かる傳染の機会もある事を記したまで、あります。

4 其の他の場合 最初にも此の事に就いては、概要を記して置きました。が、煙管の貸借、酒盃の獻酬、小供の玩具、共同洗面器及び手拭類などは間接に傳染の機会を與へるものですから、充分注意を拂はなければなりません。

19 微毒の養生法

始めて陰部その他に硬結、丘疹などの出來た場合には、自己診断による姑息的手段を取らないで、早く専門醫の治療を受けねばなりません。早ければ、截除腐蝕注射の方法で、病毒を全身に廣がらせないで、消滅させることが出來ます。既に全身に蔓延つた微毒であることを自覺しながら、障礙が少な

いために今は今とは放置するものがありますが、放置すればするほど、其の病の根を深くするので治るべきものまで、態々難治に導く事になります。現今の進歩した醫術に於ては、時期を逸しなれば、十分に治療の効を奏するものでありますから、早く適當な療法を行ふ事が必要であります。治療と同時に營養物を攝取して體力を盛んにすることは、病症を抑へる點に於て、缺く可からざるものであります。酒煙草は攝生して止めなければなりません。殊に酒は、病毒の蔓延を助け、其の刺戟は發疹の經過を悪く致します。煙草は、鼻腔及び咽喉を侵されたものに取つては、甚だ有害であります。身體の清潔は、病氣の有無に關らず、必要事でありませんが、殊に本症に罹つたものは、その局部や手指は洗滌及び消毒を充分に行はなければなりません。そして口中は五十倍鹽素酸加里液などで含嗽しなければなりません。殊に食後には、怠らない様に致します。何となれば、微毒療法に用ゆる水銀劑はよく口腔内殊

に齒齦に炎症を發するからであります。又それに口腔内には微毒疹などを發することがありますから、清潔を保つ事に注意しなければなりません。體力の減退は、病勢の發展を助ける事となりますから、感冒などに罹らぬ様に用心をして、なる可く劇しい運動や勞力を要する事を避け、身體を安靜に保つことが大切であります。殊に皮膚に發疹のある時には、肉交は他に傳染させる事と、病症を重らせる事と、又軟性下疳の混合傳染や、痲疾などを併發し易い事などに由つても、之れを絶対に禁止しなければなりません。一度微毒に罹つた者が、何時になれば他に傳染させる危険がなくなるかと云ひますと、治療法を加へて充分に驅微したもので、傳染後三ヶ年間は結婚を許すことが出来ないであります。そして結婚に際しては、ワツセルマン氏の血液検査を行つて、全く無菌となつた事を確めなければなりません。又男子の包莖は、花柳病に侵され易いのでありますから、手術を受ける必要があり

ます。微毒から起る神経衰弱症に微毒恐怖症と云ふものがありますが、これは微毒の感染を恐怖する結果來るのであります。自分が過去に於て其の病に近づいたと云ふ記憶のあるために事實に於ては傳染して居らないにも拘らず感染を豫想したり又は既に罹つた様に自ら信じて果ては憂鬱症に陥るのであります。之れに反して恐る可き事を知り乍らも鼻の落ちたり、脊髄微毒に罹つたりするのは偶々運の悪い人になるのである位に考へ高をく、つて充分に治療をくはへないものは自ら病をして難症に陥らせるのであります。

20 微毒の豫後及び療法

微毒は早期に適當の治療法を加へれば治癒するものであります。賣藥や素人療法は却て有害な場合があります。全身の淋巴腺が腫脹たり膿疱疹を多

く見るものは重症でありまして、少しの蓄微疹や丘疹の出來たものは先づ軽い方であり、悪性微毒はもとより豫後が不良であります。本病も概して強壯なものは治り易く、羸弱いものは治り難いのが一般であります。まして他に合併症などがあればその危険は云ふまでもありません。

【局所療法】硬性下疳には水銀軟膏を塗ります。數週間續ければ漸々消散致します。又附近の淋巴腺の腫脹横疹に對しても同様であります。硬性下疳を切り取つても、何の効能もなく、次いで第二期の症状が現はれて参ります。これは手術する前に既に微毒の病毒が全身に廣がるからであります。發疹のあるときには其の場處を清潔にして、分泌物は之れを消毒した脱脂綿で拭ひます。扁平贅肉のある部分は、二%の食鹽水を以つて洗つて甘汞又はデルマトールを撒布して縛帯します。凡べて發疹や分泌物を處置した手指は消毒しなければなりません。又使用した脱脂綿の類も健康な者に觸れな

い様に注意しなければなりません。局所療法と同時に全身驅微療法を施す事が必要であります。

【驅微療法】 微毒には特效薬として水銀劑及びサルヴァルサン(六〇六號)が
あります。これ等は微毒の原蟲スピロヘーテ、バルリダを殺す働きをもつ
て居ります。これと同時に本病には沃度劑が缺く可からざるものであつて、
本劑は微毒に由つて身體全部に生じた毒素を體外に驅逐する作用を持つ
て居ります。此の中六〇六號は初期第二期に効果が著しいものでありまし
て、水銀劑は各期を通じて用ひられ、沃度劑は重に第三期に用ひられます。
1 水銀劑の使用法 本品は注射塗擦内服浴治法、その他吸煙法懸囊法等
に用ひられますが、此の中最も良いのは注射及び塗擦の二法であります。
(1) 水銀劑注射療法 此の方法は一日一回又は數日に一回行ふ許りで、患
者は自分の職を執つて居る事が出来すから便利であります。しかし稀に

は注射した部位に疼痛及び膿瘍等を生ずる事があります。其の用ひられる
藥品は昇汞、撒里失爾、酸水、銀青、酸化汞、アズロール等でありまして、此れ等
を溶したものを患者の臀部の筋肉中に注射するのであります。注射後に暫
らく其の部分の筋肉を指を以つて揉みます。

- (處方)
- 1 昇汞 〇・一
 - 格魯兒那篤留(食鹽) 一〇〇
 - 蒸溜水 一〇〇
 - 2 撒里失爾 五〇
 - 酸水 五〇
 - 巴拉賓油 五〇
 - 3 甘汞 五〇
 - 阿列布油 五〇
- 混和して注射五日毎に一回行ふ
- 良く振盪して毎週一回一筒宛注射
- 同上
- (2) 水銀劑塗擦療法 此の方法は最も良いのであります。が嚴重に塗擦規

則を守つて十二週間繼續しなければなりません。先づはじめに患者を入浴させ、又は塗擦する局處を酒精を以つて拭いて、水銀軟膏大人に於ては三〇、小兒には〇五乃至一〇少量づゝを手指を以つて靜かに平等の壓力を加へ乍ら皮膚面に塗擦するのであります。一局處に約十分間位すりこまなければなりません。此の時、毛のある部分には成る可く塗らない様に致します。これは皮脂腺の炎症を恐れるからであります。塗擦は患者自身に行はせるのが適當であります。健康な者が塗つてやる場合には、指サック又は悪麻仁油紙を以つて指を包み、それで水銀軟膏を塗るのであります。塗擦した部分には軽く繃帯して置きまして、翌日の同時刻は前日の塗擦面を酒精を以つて拭ひ去つてから再び同様に塗るのであります。塗擦の部位は次の順序を守らねばなりません。第一日に左側の上膊の内側及び前膊屈側第二日に右側の上膊の内側及び前膊屈側第三日に左側の胸及び腹部第四日に右側の

胸及び腹部第五日に左側の大腿の内側第六日に右側の大腿の内側第七日に塗擦を休み入浴して軟膏を洗ひ落します。以上を塗擦の第一週と稱します。次いで第八日目からは再び以上の方法を繰り返すのであります。そして鹽剝水の含嗽を行ふ事は前に述べた通りであります。(3) 水銀劑内服療法。これは不確實であります。只僅かに一時的輕快を見る許りであります。

(處方)

昇汞
甘草末
甘草黑

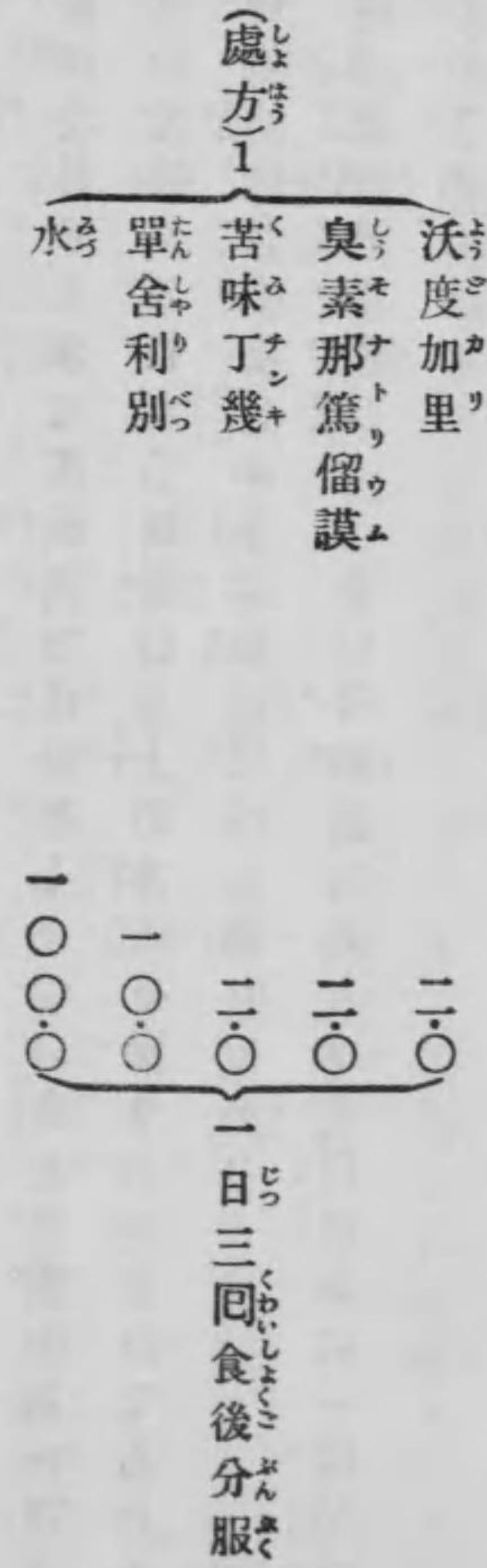
〇一
各適宜

三丸として一日三回一丸宛服用

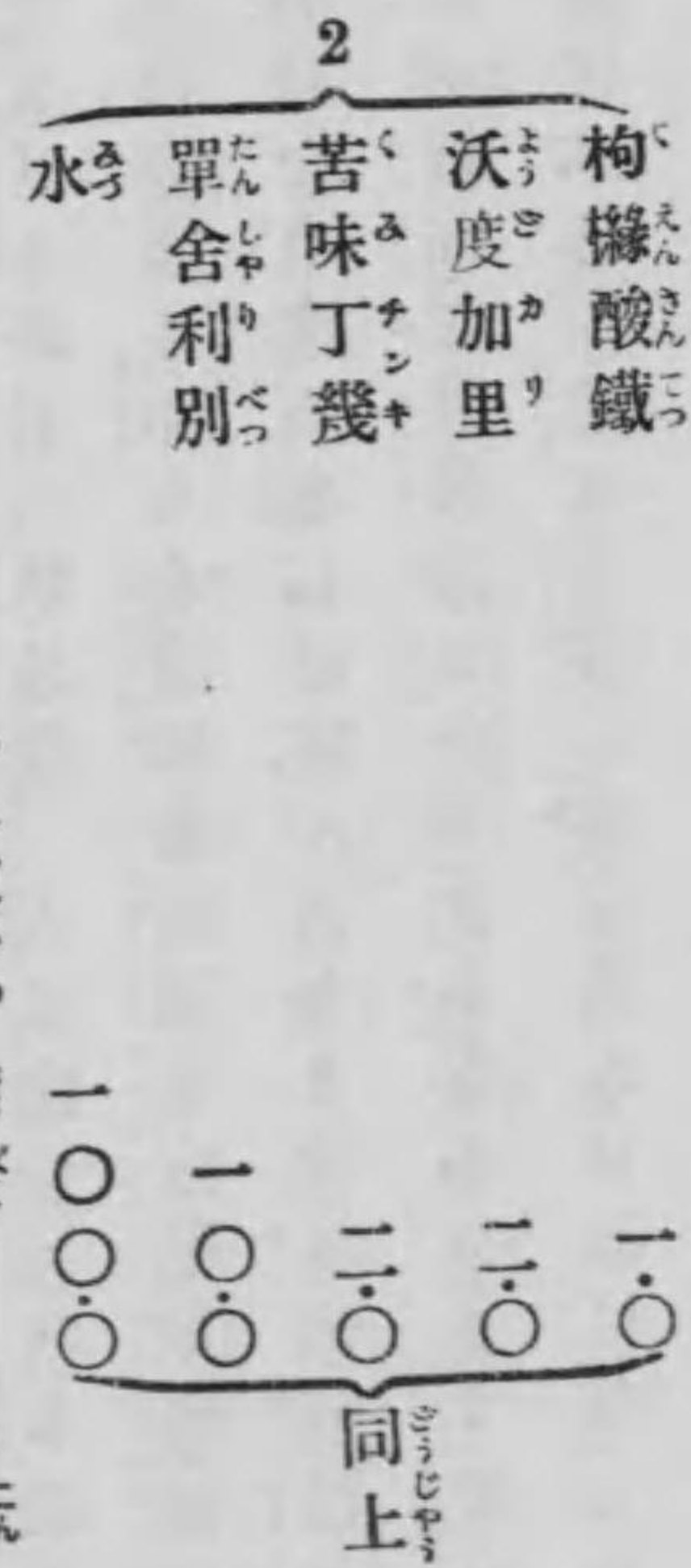
(4) 水銀劑の吸入及び懸囊療法。内服療法と同じく、その結果が不確實でありますから、現今に於ては殆んど用ひられませぬ。これは錫皿の上に辰砂五〇、甘汞五〇を置いて、下から酒精燈の火焰で熱し、その際發散する水銀の

蒸氣を吸入させるのであります。或は水銀劑を袋に入れたものを頸に掛けて、其の蒸氣を吸入する方法もありません。

2 沃度劑の使用法。水銀劑と共に用ふる事は前に述べた様であります。主に用ひられるのは沃度加里であります。同時に健胃劑を用ひます。或は服み易くするために臭素那篤留謨を加へることもあります。又患者が貧血を起した時は鐵劑を加へることを忘れてはなりません。



其の他昔からヂットマン氏煎劑(瘡瘡木サルサ根)の服用が試みられて居ります。



3 サルヴァルサン(六〇六號)の使用法。本品は黄色の粉末でありまして、極めて酸化され易いものであります。これを溶して皮下靜脈内又は筋肉内に注射する時にはスピロヘーテ、バルリダーを殺す事が出来ます。サルヴァルサンにはネオサルヴァルサン(九百十四號)其の他和製のサルヴァルサン等續々製出せられて、其の使用法も漸次改良されて居ります。

サルヴァルサンの量は一回の注射に當つて、體量一グラムに對して、〇・二乃至〇・二五瓦が極量でありまして、これを過ぎる時は中毒に由つて死亡します。それ故に普通は體重一瓦に對して、〇〇〇八乃至〇〇〇一を用ひて居ります。本品の注射は熟練た専門家に依頼しなければなりません。又サルヴァルサンが效力があると思しき時、只一回の注射で治るわけには参りませぬ。初期のものでも二回位は行はなければなりません。第二期第三期となれば、三回以上十回も行ひ同時に水銀劑の注射も使用致します。

(サルヴァルサン注射の禁忌症) 人に由つては、本品を注射して却つて有害なものがあります。即ち心臟病、動脈硬化症、糖尿病、慢性腎臟炎、結核、肺氣腫等の病氣を有する者には害があります。その他注射後の副作用として、局處の硬結、神經痛、瘰癧、發熱等を來す事があります。充分に醫師の注意を守つて注射後は六時間位は安靜に寢て居なければなりません。又身體の過勞、飲

酒入浴等も有害でありますから避けなければなりません。總べて驅微療法を行つた時には、ワツセルマン氏の血液検査法に由つて全く治療したかどうかを診断しなければなりません。此の微毒に對して世の人は温泉浴を唯一の療法の様に考へて居る様であります。勿論驅微法と同時に入浴すれば効果はありますけれども、夫れのみには依頼して醫療を仰がぬ時には徒らに治療の時期を逸するものであります。單に湯治に委して醫療を顧みないのは無智の甚だしいものであります。

二 下 瘡

1 軟性下瘡

下瘡に軟性と硬性との二つがあります。後者は微毒初期の硬結でこれは前章に於いて既に述べた所であります。軟性下瘡は同じく陰部に出來て其

の局部を侵蝕するものでありますが、微毒には關係の無いものであります。即ちヂユクレー氏の軟性下疳菌が原因となるのであります。此の病菌は軟性下疳の潰瘍や横痃の膿汁の中にありますから、此の汁が他に附着する時は忽ち傳染するものであります。此の菌は濕潤した處では二週以上も死にませぬが、乾いた處では一二日にしてその傳染力を失ふのであります。本病は陰部以外に發する事は稀れであります。交接によつて此の病菌を受けた場合は傳染後二三日龜頭冠狀溝繫帶及び陰唇腔口等に粟粒大の皮膚の隆起が出來て、段々に膨脹して水泡様となり、それが破れて潰瘍となります。潰瘍の周囲は赤くなつて濕潤して居ります。汚い分泌物が出て、それが乾けば痂皮が出來ます。潰瘍は後には次第に治癒して、周圍の紅色が浸潤と共に減退し、潰瘍面の不潔な被膜に代つて良い肉芽が出來て、だんく瘻痕に變じて快癒に向ひます。自然に放置して置けば五六週の後には治ります。軟性

下疳は陰部に出來るのが普通でありまして、大抵は早く癒えます。横痃を發した時には之を癒すに時日を要します。軟性下疳の患者が同時に硬性下疳の混合傳染を受けて、全身微毒を發するものがあります。發生して時日を經ないものは截り取り、或は焼灼法搔爬法腐蝕法などを施して、其の後に防腐繃帯を施すのであります。

(下疳の懷疽性及び蛇行性) 壞疽性下疳又蠶蝕性下疳は軟性下疳中の重症のものであります。一は軟性下疳を不潔のまま、放擲して置く時、炎症が盛んになりまして、非常に腫れて血液の循環を妨げる爲めに壞疽に陥るのであります。多くは包皮の内部に出來まして、それが陰莖の皮膚にまで及ぼして腐れ落ちることがあります。婦人に於いては小陰唇に出來ることがあります。一は下疳の部分が腫れないうちに潰瘍面に壞疽が出來まして、周圍へ蔓延して陰莖を蠶蝕致します。それ故に劇痛不眠、食慾不進などを來します。

が潰瘍から出血してその甚だしい時は危険に迫る事があります。蛇行性下疳と云ふのは下疳の潰瘍が漸々次へ次へと進み行くと共に前のものは漸次に癒えるものでありまして、陰阜、陰囊、大腿及び腹部迄も蔓延して治り難いものであります。

【療法】軟性下疳は早く治療を加へれば全治するのであります。しかし先きにも述べたやうに、微毒と一様に混合傳染を來す時には、種々の症状が現はれて來ます。初めには安静を守つて、總べて局處の刺戟を避け潰瘍の部分に石炭酸を以つて腐蝕して、其のあとに沃度仿留謨、デルマトール、ヨデオール、アイロール等を撒布して、繃帯を施します。或はアイロール軟膏を貼布致します。壞疽性潰瘍を生じた時には、一層局處の清潔を守つて、鉛糖水の冷罨法を施して、デルマトールを撒布致します。蠶蝕性潰瘍の時には、其の部分に外科的に鋭匙を以つて掻き取るか、烙白金で燒灼いたしまして、前の方法を

施します。淋巴腺が腫脹した時には、鉛糖水の冷罨法、或は溫罨法を行ひ、化膿すれば切開致します。

2 横 痃

横痃は一般によこね又は便毒と云つて、軟性下疳又は淋毒に續發する淋巴腺の炎症であります。炎症は股のつけねにある鼠蹊腺に起ります。しかし更に進んだものは股淋巴腺にも腫脹が現はれます。兩側に出来ることも、又は下疳の出來て居る同じ側又は其の反對の側に出来ることもあります。病根の場處たる陰部の淋巴管は此の鼠蹊部の淋巴腺に續いて居ります。から、かく腫脹するのであります。此の部の淋巴腺の数は定まつては居りませぬが大なるものが十個許りあるが常であります。軟性下疳の初期に於て鼠蹊腺に少しの痛みが起つて、脚を十分に伸ばすことが出来なくなり、從つ

て歩行も困難となります。一二日の後には體温は上りまして、鼠蹊部を探つて見ますと、淋巴腺が一個腫れて居るのが分ります。これを壓せば痛みを増します。此の時分には未だ局部の皮膚が赤くなつて居りませぬから、身體を安静にして適當な治療を加へれば癒えますが、不攝生に由つて忽ち病勢を強め、腫れて居る所の皮膚は赤くなり、腺の周圍にも炎症が起つて、遂には其の腫脹した腺が癒着して固定します。此の場合には最早歩行などは出来なくなり、ますます次いで膿を持つて皮膚は紫色を帯びた赤色を呈して、痛みは最も劇しく、極點に達し、やがて皮膚が薄弱になつて自然に破れ、膿を出すやうになります。之れに由つて痛みは除かれ、其の痕に孔が開いて數ヶ月間も少しづつ膿が出て、後に治癒するものと、壞疽に陥つて治り難いものとがあります。まずかく横痃は大抵は経過よく治癒し得るものであります。體質の虛弱なものは此の爲めに命を取られることがあります。横痃であると斷定が出

來た時は初めに安静を守ることが大切であります。そして赤く色の付かない時分なれば、沃度丁幾や灰白軟膏、イヒチオール等を塗つて氷で冷すことを第一にせねばなりません。これでも治癒の方に赴かないで、炎症が進んで行けば、注射器を以つて膿を吸ひ出して、あとに一〇%沃度ホルムグリセリンを注射するとか、或は切開して中を掃除し、其の後硝酸銀液を注射して、繃帯を施すとか、或は又腺を取り去るとかするのであります。

三 痲 病

【原因】花柳病中では痲病が最も多いのであります。これは獨逸の醫學者ナイセル氏の發見した痲菌に由つて起る接觸傳染病であります。此の病菌は饅頭を二つ合した様な形をもつて居る重球菌で、男女生殖器の粘膜炎、直腸粘膜炎、結膜などを侵し易いものであります。痲疾の膿の中に多量に存在して

居ります。此の菌は日光に晒せば五分間位で死にますが、粘膜に附着する時は其の繁殖が非常に猛烈であります。

1 男子の尿道に於ける痲疾

急性と慢性の區別があります。共に傳染経路は不潔の情交であります。稀には痲毒が附着して手拭着物等からも傳染する事があります。

【急性痲疾】始め痲疾のあるものと交接して感染し、一時間乃至二日以上を経て尿道口や其の附近に搔痒及び灼熱を感じ同時に陰莖に緊張の感や、重く刺すやうな痛みを覚え、又蟻の匂ふ様に感じてまゐります。其の他、睾丸に鈍痛を感じることもあります。更に尿道の数を増し、尿は常よりも温く出て、放尿の後には殊に痒みや痛みを覚えてまゐります。これが三四日續いて後尿道口が腫れて、常に尿道から白色の粘液の様な分泌物を出します。そし

て尿道が遠くなりますが、それは此の粘液によつて尿道口が塞がれるからであります。尿道時には灼感が激しく、尿の中には綿糸状の痲糸を混じて居ります。尙ほ症状が進む時には分泌物が多くなり濁つた乳汁の様な液を漏らし、患者は絶えず尿意を覚えて苦しみます。これに次いで化膿期が來ます。と、尿道は非常に腫れて赤くなり、膿汁は黄色又は綠色となつて來ます。そして包皮が腫脹した時には尿道口の外翻を來します。尿道のある前に殊に劇しい痛みを發するものでありまして、これは尿道の粘膜が腫れ、その筋が收缩する爲めに尿道が狭くなり、其の上上皮が剥けて居る故であります。放尿の時に痛みが激しくて、綿の上など柔かなもの、上でなければ放尿が出來なくなるものもあります。斯うなると尿の線は非常に細くなつて來ます。患者は痛みと尿意の爲めに安眠を妨げられ、其の他頭痛、食欲減退、便秘などを來し、中には發熱や脈搏の回数を多くすることがあります。これは痲病の

極點に達した時でありまして、感染してから二週間目頃に始まつて約十日許り續きます。右の症状に次いで退歩期に移ります。即ち症状が漸々に減じ、尿道の炎症は尿道口から軽くなつて行きますが全く癒えるまでには三四週間乃至二ヶ月を要します。以上述べました所は尿道の前部に起つた急性の症状に就いてありますが、此の間に治療や養生が不完全である時には、は、病毒は尿道の奥へくと進んで遂には尿道の後部まで侵すこととなり、ます事實かうなるものが八九分を占めて居ります。此の後尿道炎が急に始まつた時には、前尿道炎症に於て漏した所の膿は減じ、或は全く無くなり、ます。しかし尿道の奥の方に灼感疼痛を感じ、或は會陰部に壓感を覺えます。尿道の数は一層増しまして、其の度毎に劇しく痛み出る膿汁には血液を混じります。甚だしい時には尿が全く血の様に赤くなります。これは血液が尿道の奥から膀胱に入つた場合でありまして、膿汁は尿道の口へ出るよりも、奥に

入つて膀胱中に入り易く従つて尿に混することゝなるからであります。右に述べた理由によつて尿道炎が前部にあるか又は後部にあるかを検査するには、二個のコップに尿を排泄せしめる方法が最も簡便であります。即ち放尿の始めに於ける三分の二を一つのコップに残りの部分を他のコップに各別に取りまして、第一コップの尿が濁つて第二コップの尿が透明であれば、前尿道炎のあるものと考へ、兩つながら濁つて居る時には後尿道炎であるかと考へてよろしい。又第二の尿が第一のよりも濁つて居る時には膀胱炎又は腎臓炎と知るべきであります。此の試験は夜間に尿を十分に溜めて翌日の早朝に行ふのが宜しいのであります。これをトンプソンの二杯検査と云ひます。後部尿道炎の症状は前に述べた様なものであつて、甚だしいものは尿が全く出なくなり、直腸には痙攣を起すことがあります。

【慢性痙攣】これは急性のものから移行行くのでありまして、時々粘液を

漏して病状がよくなつたり悪くなつたりいたします。何故に急性のものが慢性に移り行くかと云ひますに、療法を早く中止する事や、注射液が強過ぎ、不適当であつたり、刺激性食物を攝取したり、其の他色慾の不謹慎過劇の運動又は一般に身體が弱くて、腺病質であること等が原因をなすのであります。慢性のものは、其の急性のものにあるやうな腫れや痛みは無くなつて、只屢々尿道口も分泌物に由つて閉ぢられる位であります。此の分泌物は陰莖の根もとより尖端の方へ指で壓して行つて始めて出るものを認め得る程のものもありませんが、それでも尿中を検査すると粘液膿球などによつて成る糸状の物質乃ち麻糸を含んで居る事がわかるのであります。尙ほ患者が自ら感ずる程度の症状としては、尿道の一部分に痒みを感じ、灼熱の感じがありまして、會陰、肛門、睪丸に於ても之れを感じますが、更に放尿をして終つたすぐあとで尿道に痙攣と痛みとを發します。凡べて男子の尿道に於け

る麻疾は慢性におちいりやすく一度慢性となりまると、長時日を要して尙ほ治癒し難いものであります。急性麻疾の際に十分なる養生をし治療を遂げたならば、五六週間で癒えるのであります。若し治療を忽にするると慢性となり、後には尿道狭窄を起す事があります。幸に自らも注意し、醫師の手當も行き届いて、病勢が減じ、快癒疑ひなきまでの良結果に向つて居たものでも、一寸した不攝生の爲めに病状が後戻りをする事がありますから、深く注意しなければなりません。醫師の経験によりまると、不潔の交接後麻疾の症状が早く起つたものは癒り方も早く、又患部が尿道の口に近い者少部分であるものも比較的癒え易いのであります。急性麻疾の末期に於て薬のあまり奏效しないものは慢性に變じますので、膿が急に少なくなり、又は漏れなくなるのであります。これは喜ぶべきことではなく、後尿道炎や副睪丸炎などを起す前兆と云つてよいのであります。慢性は急性に比して苦痛が少

ないからとて其の症状が凡べて軽いものとは云へませぬ却つてその重いことを示して居るのであります。慢性は急性の症状により其の度を一步進めて難症に陥つたのでありますから取りわけ醫療が必要であります。

【豫防法】 微毒と同様に公衆衛生の上には公私娼婦の取締りを嚴重にして常に其の衛生状態を監視しなければなりません。尚ほ必要なことは個人の道徳的觀念を高めて不潔な場處に近寄らない様にすること第一であります。其の他姑息的の豫防法としては交接に際して一回の射精で満足する事交接を中絶させない事交接後直に放尿して尿道内の不潔物を流し去る事ルーデサツクの使用、月經中の交接を禁止する事又は交接後に於いて石炭酸溶液を尿道内に注入し又はプロタルゴール溶液、硝酸銀液の一二滴を尿道内に滴下する事等があります。がしかし此等の方法は絶対に感染を豫防するわけには参りませぬ。

【攝生法】 本病は殊に身體及び精神の安靜が必要であります。なる可く床の中に居る様にして、症状の激しくないものでも、疾走乗馬自轉車旅行長時間の直立などは禁じなければなりません。止むを得ず外出する時には提舉帶を用ひて患部の動搖摩擦を防ぎ、分泌物の他に傳播しない様に致します。提舉帶の代りとしては日本従來の懐鼻禪に綿花を當て、使用致します。患者は一日數回微温湯を以つて陰莖を洗ひ、此の際に襯衣、禪衣等に不潔物が附着してゐたならば清潔なものと取り替へます。そして分泌物が附いた物は一切消毒しなければなりません。精神の亢奮は夢精及び勃起を誘つて病状を重くするものでありますから、患者は劇場、寄席等の出入を禁じ、劣情を誘發する所の小説類を讀まない様に注意しなければなりません。

【飲食物の注意】 食物は直ちに病症を左右するものであります。が本症にとつては一般に美食は有害であります。成る可く淡泊(あつさりした)で消化

し易い滋食物を取ります。これには牛乳、粥、重湯、葛湯、野菜、果物、麵、麩、豆腐等を選びます。總べて刺激性の飲食物例へば、酒、サイダー、炭酸水、シトロン、ラムネ、コーヒー、濃い茶、其の他、芥子、胡椒、わさび、唐辛、カレー、山椒、脂肪の多い食物、鹽物、酸味の強いもの等は有害であります。飲料として適當なものは牛乳、番茶、麥湯等であります。又は林檎、梅實等を砂糖煮にしたものは、便秘を豫防するために必要であります。本病に於て便秘のあるときには、病狀を重く致しますから、一日一回は便通が無くてはなりません。若し無い時には、ヒマシ油一五乃至二〇〇を頓服し、或は硫苦一五〇を水二〇〇〇に溶して、一日三回食前に服用又はカスカラサクラダ錠を服用致します。此の反對に激しい下痢がある時には、早く止めなければなりません。入浴は醫師の許可を得てからでなければ、有害であります。海水浴は絶対に禁止致します。

【療法】 炎症が劇しく疼痛の甚だしい時には、局處に硼酸水又は一%の鉛

糖水を以つて冷罌法を行ひ、更に氷嚢を貼てます。痲病は多數に見る病氣であります。素人はよく自身に尿道注入療法などを試みるものであります。が、これは多くの場合有害であります。却つて病毒を奥の方に送つたり、又は不適當な藥液の刺戟に由つて、長く尿道加答兒が残つたり致します。そして患者自身が自暴自棄に陥る事があります。

【急性前尿道注入療法】 尿道の中に痲菌を殺す藥液を注入して同時に尿道加答兒を治する目的であります。プロタルゴールには殺菌作用があつて、尿道を刺戟せず、深い處まで達する事が出来ます。ですからよく使用されます。

(處方) 1

プロタルゴール
偲里設林

〇六%食鹽水

〇五乃至二〇

〇五乃至一〇

二〇〇〇

一回五〇宛一日三回尿道注入

2

アルゴニン

一五乃至二〇 一日三回注入

蒸溜水

一〇〇〇

3 アルバルギン

〇・一乃至〇・二

蒸溜水

一〇〇〇

一日二回注入

右の123の薬品は温めた食鹽水又は蒸溜水に溶して、黒色瓶に入れて光線の作用を防ぎます。其の他注入用として次のものがあります。

4 硫酸亞鉛溶液(〇・五)

二〇〇〇

よく振盪して二時間毎に注入

沃度仿膜

五〇

5 硝酸銀

〇・一乃至〇・五

一日一回注入

蒸溜水

一〇〇〇

これを注入した時は尿が減ります。硝酸銀は尿道粘膜を收斂させて膿の分泌を少くします。此の薬品は尿道の表面にだけ作用して深い處の痲菌を殺す事は出来ませぬが、殺菌力は強いものであります。亂用すれば尿道の狹窄

を起します。

6 硝酸銀

〇・一乃至〇・五

鹽酸コカイン

〇・一五

グリセリン

二〇〇〇

蒸溜水

一八〇〇

同様に用ひられます。此の中にはコカインが含まれてゐますから、尿道の疼痛を鎮めます。

疼痛を止めるためには、痲醉薬をプロタルゴールに加へて注入致します。例へば、一%のベタオイカイン、三%安知必林等であり、其の他殺菌薬として、次のものがあります。

7 石炭酸

一〇乃至二〇

蒸溜水

一〇〇〇

長く存在して居る時には専門家に由つて尿中に現はれて来る麻糸の有無
 麻菌の有無を鑑定して貰つて治療を受けるのです。案外治療の效が
 早く現はれます。慢性には多く攝護腺の慢性炎症を伴つて居るものであり
 ますから其の按摩法が必要であります。指にサツクを箝めてオレーフ油を
 塗りこれを肛門に入れて攝護腺の部分輕輕に按摩して攝護腺液の分泌す
 るまで毎日行ひます。その他ブリーヂーを尿道内に毎日一回づゝ入れて尿道
 の狭窄を防ぎ或は既に狭くなつた所の尿道を段々擴張致します。それ故に
 ブリーヂーは追々と其の太さを加へるのであります。患者は此の時に激しい
 疼痛を感じたり又は尿道の反射的收縮のために通る可き管のブリーヂーも
 通らない事がありますからこの時にはコカイン水を尿道内に注射し又は
 モルヒネの皮下注射等を行ひます。

【麻病内服薬】

(處方1) (サンタール油)

○五膠囊一個に入れ一日三回食後に服用
 此の薬は吸収されて再び尿道を通過して外に出る時に尿道面に作用し
 て麻菌の發育を妨げる目的に用ひられるのであります。内服薬ばかりで
 は不十分であります。

2 ザロール 一五 一日三回食後に服用
 乳糖 一五

3 ウワウルシ葉煎 五乃至一〇〇
 苦味丁幾 二〇 一日三回分服

4 臭素那篤溜膜 一五
 樟腦 〇一 三包に分ち就眠前に一包頓服

右の薬品は神経を鎮め勃起を防ぐ效があります。

【ワクチン療法】急性及び慢性瘰癧病及び其の合併症に用ひられます。これは瘰癧病の分泌物から作つたものでありまして、其の注射に由つて大いに軽快するものであります。普通はアルチゴンが用ひられます。

5
カ、オ脂
イヒチオール

○一
三〇
○一
肛門座薬一個の量尿意頻繁なる時一日二三個を用ふ

2 男子尿道瘰疾の合併症

其の合併症中男女共通の病症は後章に述べますから前には男子のものみに就いて述べておきます。其の併發症を起す場合に二種ありますが、一は刺戟の爲め、一は炎症の爲めであり、即ち反射的刺戟の爲めに淫慾が盛んになり、陰莖の勃起を促し、又は疼痛などを發するものと、炎症が其の隣

接して居る所の種々の器官又は全く離れて居る器官などに及んで、これを炎症に導くものとあります。今細別して之れを述べて見ませう。

1 龜頭包皮炎 包皮の狭い時には瘰癧の毒が其の包皮内に溜り易い爲めに起るのでありまして、時には包皮が壞疽に陥ることがあります。これは包皮が箱頓して龜頭を絞ることが甚だしい場合であります。

2 尿道周圍炎 尿道粘膜の炎症が周圍にある結締組織に及んでここに炎症を起すのであります。が病症が進めば膿瘍となり又は穿孔することになります。

3 淋巴管炎 尿道の背部の淋巴管及び其の近くの腺に炎症を起して小さい横痃の様なものが出來ます。

4 副睪丸炎 之れは最も多い合併症でありまして、普通は本症の始めから三四週間後に起ります。藥液の注入による刺戟又は外傷が其の原因とな

ることがあり、又は痲病に對する攝生を怠つて、歩行運動提舉方法を取らなかつた時などに起り易いのであります。症状は惡寒發熱三十九度以上、頭痛嘔吐等があり、副睪丸には疼痛が劇しくて、陰囊は緊脹して光澤が出来僅に物が觸れても聲を擧げて叫ぶ程痛みを覺えます。通常一側の副睪丸が障礙されるものですが、次いで他側にも炎症の及ぶ事があります。
5 攝護腺炎。後部尿道炎から起る事が多く、會陰部に疼痛と灼熱を感じ、又惡寒高熱を現はします。排便中に稀薄牛乳様の液をもらし、又は膿をもらします。化膿が直腸膀胱に進んだ結果死に至るものがあります。

3 女子の痲疾と合併症

痲疾が婦人を侵す場合は、尿道と子宮頸部の粘膜が主でありまして、腔の粘膜が犯されるのは、若年の女子に多いのであります。膿様の液を分泌する

ことは男子の痲疾と同様で、其の發する處は尿道であります。又子宮口からも分泌することがあります。腔子宮外口などに、腫脹を來し、陰唇は炎症を起して後には糜爛することがあります。排尿の時に疼痛があつて、灼熱を覺える上に、尿意が頻りに起り、痒みを感じますが、その痒みは姪慾を促すと共に、遂には疼痛に變ずるのであります。其の分泌物に由つて汚染された箇處に炎症を起させることは、男女とも同様でありまして、患者は起居不自由を來します。尚ほ膀胱輸尿管腎臓子宮周圍組織及び其の他骨盤臓器に蔓延するものとあります。併發症は男子の副睪丸炎に對するもので、痲毒性バルトリン氏腺炎であります。これに罷ると一側の陰唇に劇痛があり、腫脹して遂には化膿を起します。女子の痲疾も慢性症になり易いのであります。そして此の症あるば、月經異常子宮變形ヒステリー等を來す様になります。そして此の症ある婦人が分娩する生兒は、眼を侵される憂があつて中には生れ乍らに盲目と

なるものが多いのであります。又産褥に於ては腐敗症を來して重症に陥る事があります。療法としては朝夕二回に昇汞溶液千倍で靜かに腔を洗滌つて其の後へ明礬・ヨードホルムを塗つた綿タンポンを挿入します。時には子宮頸の擴張手術・子宮腔の搔抓術・化膿部の切開等を要します。

(處方)

明礬 沃度訪謨

一〇〇

豫防法は男子と同様でありますから其の條を参照して下さい。世に無垢の處女にして結婚のために本病の傳染を受けて樂しみなく望み少ない生涯を送る様になるもの、多いのは誠に悲惨な事であります。婦人麻病合併症は大様次に述べるやうなものであります。

1 陰門炎。これは久しく炎症が續いて腔まで及んだものであります。それで、温浴又は洗滌によつて常に清潔にし、デルマトール等の撒布藥を撒布

し、尙ほ綿に此の藥をつけて當て、置きます。炎症の劇しい時には安臥させ、鉛糖水の罨法を施し、その後撒布藥を用ふるのであります。

2 婦人の尿道癩。俗に消渴と申します。女子の尿道は男子のに比して廣く短いから、男子に比して癩疾に罹ることも少なく罹つても治療がし易いのであります。それで自然苦痛も少ないわけであり、しかし尿道の廣い爲めに膀胱加答兒を起し易い傾があり、癒り易いとは云へ攝生治療すべて男子と同じに心得なければなりません。

3 バルトリン氏腺炎。バルトリン氏腺炎は腔口の兩側にある腺であります。これがこれに炎症が來るのであります。そしてこの炎症に急性と慢性との區別があります。急性は大小陰唇が急に腫れ、歩行の困難を覺えます。が更に病狀が進めば化膿を起します。そして横痃を發することがあります。慢性のものは苦痛がなくて、單に其の局部を壓せば膿が出てそれで認めら

れる程度のものであります。急性症は薬液で罨法を施し、化膿したものは切開せねばなりません。慢性のものは腺及び排泄管を切除致します。

4 膣炎。これは若い婦人に多くて、重症のものは粘膜が剥けて居ります。始め症状を呈してから一週間又は十日位で病勢が其の極點に達しますが、養生がよければ次第に癒えます。少し軽快に向つてゐる所へ不衛生をすると慢性に陥るものであります。

5 痲疾性子宮内膜炎。急性のものゝ慢性のものゝとありますが、何れも粘液や膿汁を分泌し、月經の異状、其の他疼痛などを起します。時には痲疾が奥へ進んで、喇叭管や卵巢などを侵して危険を醸す場合があります。婦人病、子宮内膜炎の部参照。

4 男女共通の痲疾合併症

1 膀胱加答兒。これは尿道に於ける痲疾が奥へ進んで起るもので、急性、慢性の二通りがあります。急性膀胱加答兒は、恥骨の後部に痛みがあつて尿道會陰の部分に進み、尿通は一時間以上十回以上も催す様になります。然し放尿の時には十分に尿を排泄する事が出来ませぬ。尿意が劇しく頻りであるに拘らず、其の量は極めて少いのです。それを強ひて出さうとすると、劇痛を感じ、出る尿には血液や膿汁が混じて居ります。寒さまたは濕氣の多い季節に尿閉症を起して尿が自然に出なくなることがあります。此の場合にはカテーテルを使用して放尿させなければなりません。もし其の儘に棄ておくと劇痛嘔吐を發し、終には尿毒症などを起すのであります。本症は一、二週間て治るのが常ですが、不衛生によつて慢性に移つて行きます。慢性症は急性症より移るもので、尿通は依然として頻繁でありまして、しかも尿は膿のごときものとなり、放尿の終りには特殊の粘液を出します。かくて數月乃至

數年に亙つても治療し難いものとなり、養生の第一としては刺戟物の飲食を遠ざけて身體の安静を保ち、感冒等に罹らぬやうに注意して醫療を仰ぐのであります。

2 直腸を侵す麻疾。女子なれば麻疾の膿が會陰を傳つて肛門に傳染します。又麻疾あるものの鶏姦によつても起る事があります。そして直腸粘膜は腫脹して疼痛を發するとともに肛門の表皮は剥け、又臭氣のある分泌液を漏しますが時には血液を混じます。

本症には坐浴、座藥、注入藥などを用ひ、流動食物を取ります。便通は初めは疼痛を誘ひますから、止める様にして、輕快となつて後下劑、浣腸によつて便通させます。

3 麻疾に由る結膜炎。麻毒の着いて居る指又は手拭などから眼に毒が入つて起るものであります。進んでは角膜までも侵される事があります。

初生兒には分娩の際に、母體から病毒を受けるもの、又は沐浴の時に手拭盥などから受けるものもあります。先にも述べました様に本病は盲目となる原因の一つであります。

【膿漏性結膜炎】初めは前と同じであります。第一期と稱する急性加答兒の時期には一時的に劇しい炎症を現はした後、眼瞼結膜の乳頭が腫れて紅くなり、角膜は周圍が高くなつて黄色の汁を漏します。そして患兒は眩惑、疼痛、發熱を覺え、眼のなかに異物が入つて居る様に感じます。體温は三十九度以上にも昇つて二三日の後化膿する様になります。之れを第二期と稱しますが、此の時には角膜に炎症を起して失明するものもあります。膿汁は此の時に益々多く流れ出ます。此の時期を過ぎますと、だんく、治療に向ふものであります。此の間は約五週であります。角膜を侵されることは麻毒症の普通の経過には無い事が不幸中の幸とも云ふべきであります。最も劇烈

な症状を取るときは右に述べた外に眼球の全部が炎症に陥ることがあります。

膿漏性の結膜炎が起れば、暗い室に静臥させ、便通を整へ五千倍の昇汞水、過満俺酸加里水、硼酸水などで眼を洗ひ、良き方の眼は消毒したガーゼなどで蔽うて、傳染を防がねばなりません。

初生兒に此の炎症のある場合は、分娩後數日の中に起るもので、眼瞼や結膜が腫れて白黄色の膿を出します。小兒の場合などは、殊に自家療法などで満足すべきではありません。應急の手當をして直ちに専門醫に治療を仰ぎ、一方傳染と云ふ事に留意して、良い方の眼や家人の眼に傳染しないやうに注意することが肝要であります。初生兒の該症に對する豫防法は、沐浴後先づ清冷な水を以つて眼瞼を拭つて五千倍の硝酸銀溶液一滴を眼の中に滴らすことでありまして、産婆などは必ず行ふものと成つて居ります(小兒科篇

及び眼科篇参照。

4 痲疾より來る癱瘓質斯。痲病患者が關節・筋・腱・骨膜・粘液囊・神經などに癱瘓質斯のやうな症状を來す事があります。此の中で關節殊に膝の關節はよく侵されるものであります。其の他、足・肩・腕・指なども侵されます。痲病を受けてから二十日許り経つてから、關節が腫れ、痛みが激しく、皮膚には何の變化もなしに腫脹が増して來て、關節内に液が溜ります。體温は昇つて三十九度以上になる事があります。大抵七八週間で癒るものであります。關節が強張つて、屈曲運動が妨げられる事が多いのであります。普通の癱瘓質斯は一つの關節許りでなく、同時に多數の關節に痛みを覺え、その痛みが處々移つて行くものであります。が、痲毒性のものに在つては、一つの關節を侵す事が多いのであります。

【療法】初期には安靜を守り、疼痛ある關節に氷嚢をつけ、沃度丁幾イヒチ

オールアルコールの塗布又は麻菌ワクチン注射を行ひ、その他一般の痲病に對する處置を行ひます。稍輕快したならば關節の強張る事を防ぐために按摩温浴等を行ひます。内用薬は沃度加里サリチル酸曹達安知必淋等を用ひます。

四 生殖器病

1 男性交接不能症(陰萎)

【原因】一般に重症に罹つた後の體力の衰弱、萎縮病、糖尿病、陰莖丸の疾患、其の他中毒、モルヒネ、アルコール、煙草、臭沃度、手姪房事過度、神經の感動、脊髄癆、神經衰弱症等之れが原因をなします。患者自分が陰萎症と思ひ込んだ結果、遂に眞の陰萎となるものもあります。陰萎の種類は色々であります。が、先天的生殖器の不完全畸形又は精神衰弱者、老衰者などの全然生殖慾の

者、手姪又は房事過度の爲めに生殖慾はありながら陰莖の勃起せぬ者、精神の感動により一種の恐怖心及び想像心が強い爲めに交接時に臨んで俄に不能となり、或は早く射精したりするもの等であります。概して老衰者、先天的のもの、は治療しませぬが、他の病氣から來たものは其の原因が除かれるならば治療するものであります。早く治さなければ患者は憂鬱に陥り、厭世の結果終に自殺などを思ひ立つやうになります。

【療法】他の病氣が原因して居るものは、第一に其の病氣を癒すべきは勿論であります。冷水摩擦、殊に下腹部の冷水摩擦は甚だ有効であります。青年時代には屋外の運動を盛んにして、堅固な意志を築き上げて、手姪を慎まなければなりません。本病が起つた時には成る可く刺戟物の食物を避けて、滋養物を取り、十分に睡眠しなければなりません。薬品は次の物を用ひます。

(處方) ヨヒンピン 溶液(1%)

五〇〇

右を黒色蠟に容れ一日三回五乃至十五滴宛内服致します或は一%溶液の注射を行います。

還元鐵
鹽酸規尼涅
(處方)
甘草末

〇三
〇一
適宜

右を丸丸に製して一日三回食後三丸宛貧血症を起した時に與へます。其の他攝護腺の冷却電氣療法等が行はれます。

2 男性授胎不能症

これは射精不能及び無精の二原因によつて起る病氣であります。射精不能症は射精管が閉塞がる時でありまして其の原因には痲疾の結果尿道狹窄を起したものの攝護腺が肥大して尿道を壓迫して居るもの、包莖

神經性の障礙又は膀胱の手術によつて之れを招くものなどがあります。無精症とは分泌物を射出しても其の中に睪丸の分泌液を含んで居ないもの、即ち精液を缺いで居るものであります尿道痲疾の爲めに副睪丸炎精系炎を起したものに参ります。本病は到底治療の見込みがありません。

3 遺精

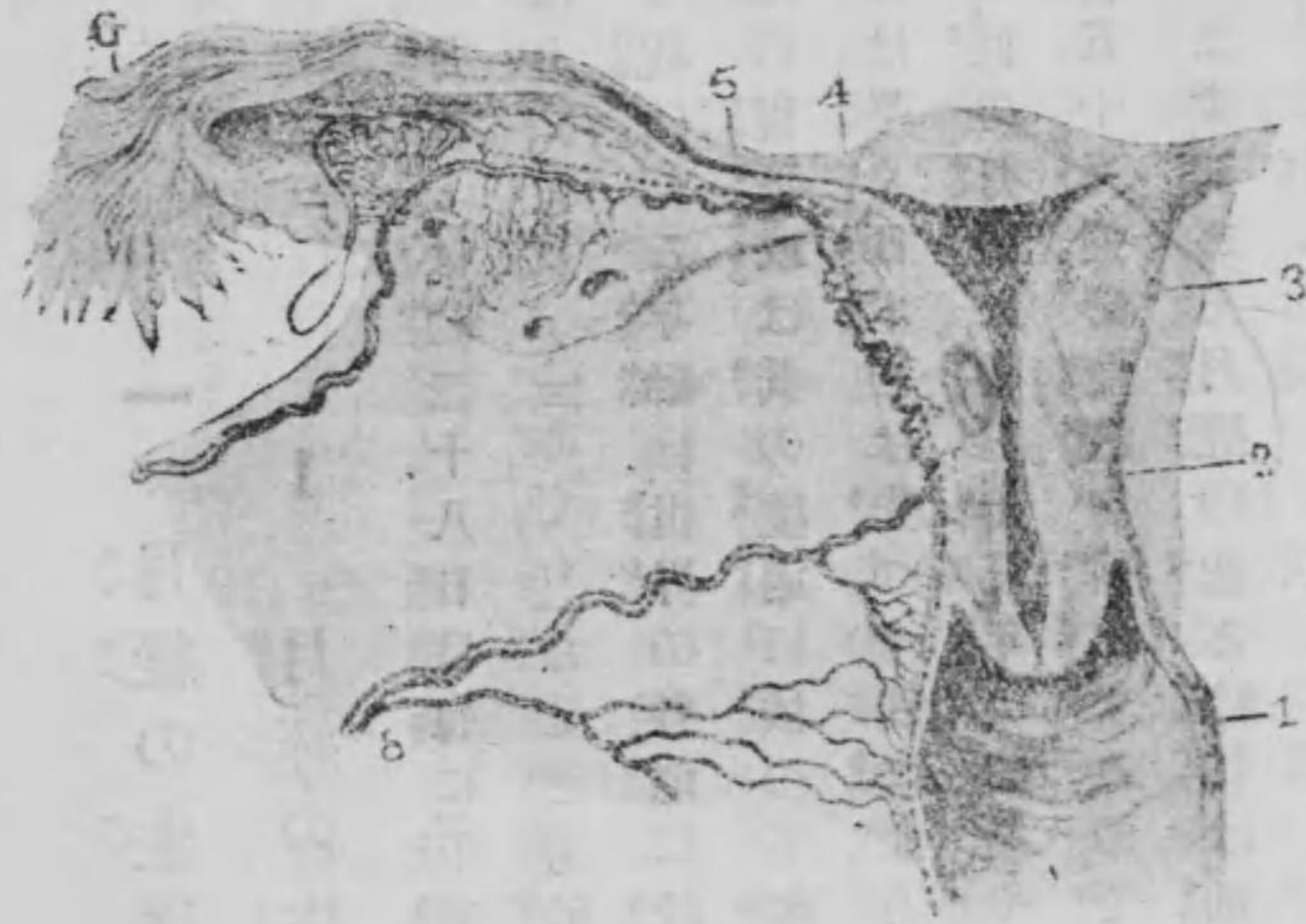
これは交接に何の關係もなくして生殖器の分泌液を漏らす病であります。本症の原因は交接不能症と大差ありません。即ち房事過度手淫平常精神過勞アルコール茶煙草の濫用に原因するものであります。夜間健康者が猥褻な夢を見たり或は之れに類する想像などによつて陰莖勃起と共に精液を漏すことがあります。此の時は醒めてから何の症狀をも遺しません。それ故これを生理的遺精と申します。此の事は人に由つて違ひますが概して

りは、十分自己の攝生によつて治す事の出来るものであります。精神の修養に心を置き一方身體を鍛錬する爲めに柔道、劍術、野球、其の他いろくくの男らしい運動をしなければなりません。斯うして心身共に健全であつたならば、かゝる忌まはしい病魔に襲はれることなく自然の示して居る中道を歩むことが出来るのであります。不品行な者がこの花柳病に悩むのは正しく、荒淫漁色を誡める天の制裁であります。

婦 人 病 篇

緒 論

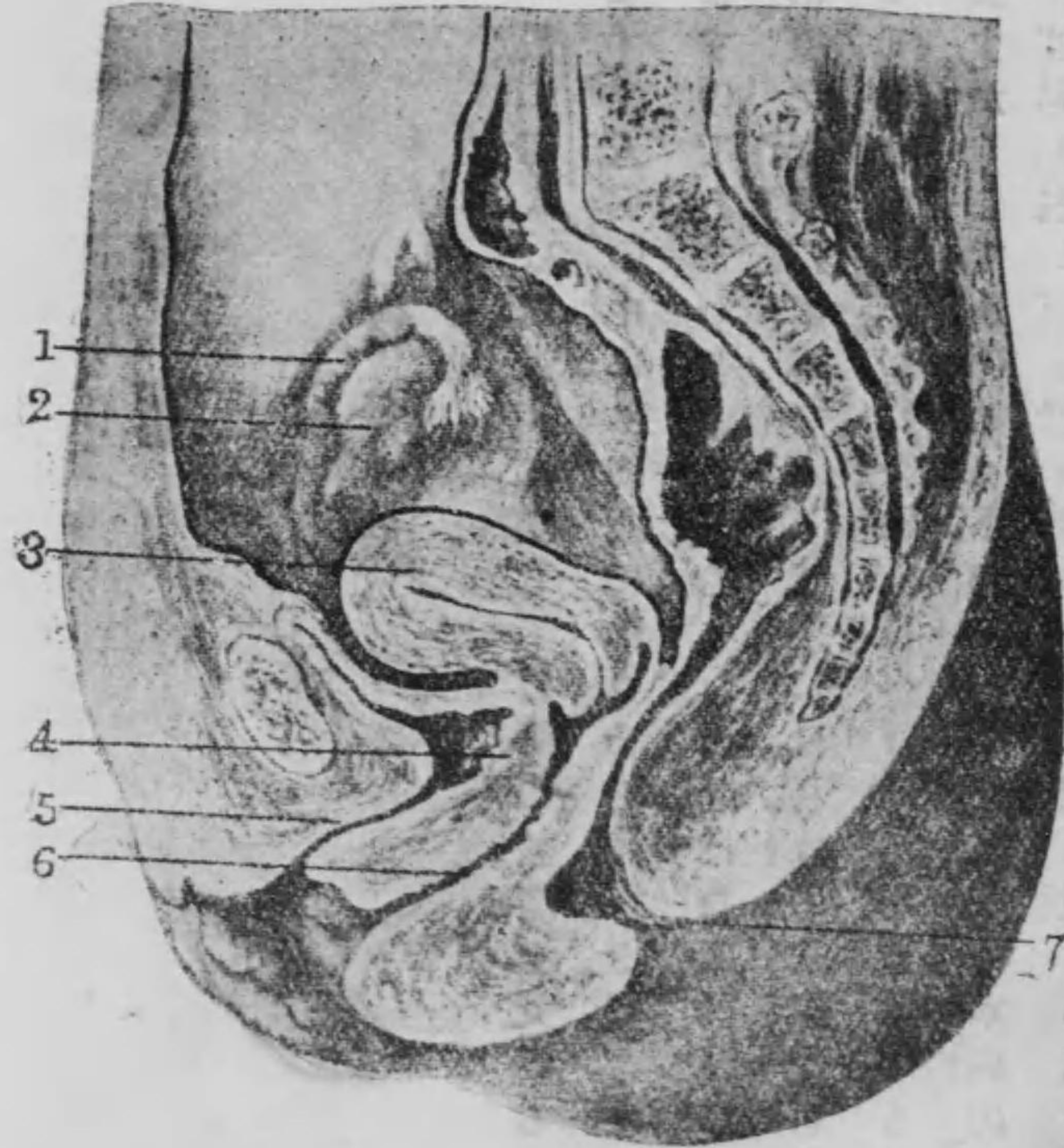
一般に婦人は、婦人病に際して醫師の診断を受けることを忌む傾向があります。婦人病の中には初期にはさまで不快を覺えず、凌ぎやすいものもありますので、あまり苦痛の劇しくない間は、自家診断によつて素人療法を試み治療を賣藥に求めなどして遂には種々の病氣を併發したり、又は難症に陥つてもとく速かに全治し得べきものを難治のものとする様な事があります。かくして春の如く平和であつた家庭も、本病の涙に曇つて、遂には生涯を陰鬱の裡に過し、愛の絆のいとしい兒も設けることが出来ず、甚だしきは



圖型模斷縱器殖生内子女

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 膈 | 2. 子宮頸 |
| 3. 子宮體 | 4. 子宮底 |
| 5. 輸卵管開口部 | 6. 剪綫 |
| 7. 卵巢 | 8. 子宮動脈 |

生命を奪はれるものさへ
 あります。茲に婦人病の大
 要に就いて記しませう。如
 何に多くの忌むべき病症
 が平素の不攝生から起る
 べきか、其の結果は如何に
 恐るべきものであるかを、
 各病に項を分けて述べよ
 うと思ひます。



るせ示てし斷縱を盤骨子女
 形状び及置位の器殖生内

- | | |
|-------|----------|
| 1. 膈 | 2. 卵巢 |
| 3. 子宮 | 4. 子宮膀胱窩 |
| 5. 尿管 | 6. 膈 |
| 7. 肛 | |

一 月經の生理及び其の病態

1 月經の生理

月經とは、約二十八日毎に子宮から出血することを名づけたもので、はり二つきやく三めぐりなどとも云はれて居ります。破瓜期即ち月經の初めて現はれる年齢は、世界の各地に於て、皆相違があり、寒熱の差、其の土地の文化の程度、或は其の境遇に依つて多少異つて居ります。一般に熱帯地方の者には早く、日本では先づ十四歳より十六歳の間に始まる者が多數であります。此の月經は約三十三年の間續くもので、毎月三日乃至八日間、百瓦から二百五十瓦位の血液を排出するのであります。此れは人によつて差異があります。初めて月經の起る時には、前に何の異常をも感じないもの、久しく下腹部に痛みを覺えた後に月經を見るもの、或は胃の障害を來し頭痛疲勞を

覺え、又は乳房の痛みを覺えるものなど種々であります。

月經の終止を告げるのも、其の初めが不定であると同じく、突然に歌むものもあれば、又次第に其の度を減じて、四五十歳の間に止むものもあります。月經が一二日位で歌むことは稀であります。若しも斯かる場合があれば、夫れは子宮に何かの病氣がある爲めであつて、注意をせねばなりません。婦人は月經のある時に、身體に不快を感じる位が普通であります。時として頻りに尿意を催したり、又は下腹、外陰部の痛み、緊張の感を覺えたり、或は月經と月經との間にも腰薦骨、胸、胃、頭などが痛み、生殖器に病氣のある婦人は、此れらの症狀が一層劇しく、月經毎に大病人の様になるものがあります。年老いて、月經が全く止まつた時は、外陰部も、腫も、子宮も、全く萎縮してしまふのであります。

2 月 經 の 病 態

月經が普通の状態でない場合を、(1)全く月經の無いものと、(2)月經の多過ぎるものと、(3)月經時に困難あるものと此の三様に區別する事が出来ます。

【無月經】破瓜期後月經の絶無なるもので、これに一時的のもの、持続的のもの、とがあります。一時的の無月經は、妊娠中授乳中に起るもの、外に、貧血、結核、胃病などの患者及び傳染病に罹つた後、脂肪過多の人、身體の營養障礙のある場合、精神感動即ち非常な恐怖や悲哀などの爲めに起ることがあります。通常月經の量が漸次少なくなつて、月經を見る事が遠くなり、四五日續くものが一二日にも減じ、遂には時々月經が歇んで又舊に復し、或は殆んど百日間も經て、普通に復るのであります。無月經のものは、平素月經のある日になつて、頭痛、腰痛、胸の痛みなどを感ぜ、又鼻、肺、胃、腸等の出血を見ることがあります。

あります。之れを醫師は代償的月經と稱へますが、昔の人は、女の血(經血)はなほは夢にもいゝなど云つて居りました。病氣から起る無月經は、其の病氣の治療と共に恢復します。子宮の發育が悪いための無月經でも、又治療に依つて醫する事があります。無月經となつたものは、この間専門醫の治療と同時に、規則的に養生をして、食物運動轉地など、凡べての強壯法を試むべきであります。持続的の無月經は、子宮や卵巢に缺點があるか、又は其の發育が悪い爲めであり、生涯を通じて無月經のものでも、やはり色慾のあるものは、少なくなないのであります。又分娩と分娩との間三四年月經を見ないものも、あります。

【月經の過多】これは月經の量が多くて長く續いた爲めに健康を害するので、其の病狀は急に多量の出血があつて、月經の持續中にも其の排出の度が非常に不平均であつて、其の爲めに急速に貧血を來し、種々の身體障礙を

來すものでありますが然し單に月經多量ばかりで直ちに驚くことはない
のであります先づかゝる場合には左の原因の有無に注意するのが必要で
あります即ち慢性の便秘甚だしい精神の感動營養不良脂肪過多肺心臓肝
臓胃等の内臓の病氣生殖器の病氣等は其の原因となるもので營養不良か
らは最も起し易く分娩の頻繁と流産房事過度も又其の原因であります月
經過多の症狀は通常疼痛はなく知覺過敏頭痛羞明を覺え無暗に靜寂を欲
し嗅覺の異狀などを伴ふもので長く續く場合には疼痛を覺え貧血又はヒ
ステリーを來すものが多いのであります此の治療は先づ其の原因を考へ
て夫れて除去せねばなりません

【月經困難】月經の前又は月經のある際に子宮の疼痛下腹部の不快感其の
他粘液(白帶下)の排泄尿意を頻りに催すなど色々の病狀を呈し後日常の食
事や仕事にも妨げを來す様になつた時には最早一つの病氣となつたもの
でこれには次の如く四様の種類があります

1. 特發性のもの。生殖器其の物には何の異常もなく月經の前日に於
て精神沈鬱食事不進其の他前述の様な症狀を現はす外に痙攣などがあり
又皮膚の紅斑水泡を見ることがありますがこれ等は月經が現はれると同
時に減退するものであります
2. 充血性のもの。これは前のものに反して子宮又は卵巢に慢性の病氣
があつて其れが原因となるので特發性と異なる症狀は子宮が大きくなつ
た様な感じ腔の熱感動悸頭痛眩暈等を覺え時々出血を起します
3. 膜様性のもの。これは子宮内膜炎が原因で時々習慣的に起り前述の
様な月經困難を覺えると同時に粘膜の斷片様ものを排泄して非常に疼
むもので一年位から長いものは十數年にも互るのであります
4. 器械的のもの。これは生れながら子宮頸及び腔の狹窄せるもの又は

其の肥厚癥痕苛腫などの腫物及び子宮頸の位置の轉移處女膜の強韌などの爲めに一時月經が妨げられるので月經前から痛みを覚え劇しく月經が通じて快くなると思へば、また妨げられて痛みを覚え、かくして月經の終りになつてやうく平常に復する事が出来て、やれ嬉しいと思ふと次回の月經の時に再び此の痛い經驗を繰り返さねばならぬのであります。

凡べて月經困難は分娩後自然に治癒するものと、分娩の後から起るものとの二様があります。

此の疾病のある婦人は月經前には心身を安靜に保ち、腹部以下を温かにして成るべく床に就き攝食して便通を整へる事も必要であります。又X光線療法も行はれます。

二 妊娠と無子

1 妊 娠

生活して居る精蟲が精液と共に腔内に射入せられ、一方には健全なる卵が卵巢から出て、喇叭管内に入り、漸次子宮腔の方へ送られ、入つて来た精蟲と會合すれば、茲に妊娠を見ます。相會した卵は漸々變化して、子宮粘膜に包まれ、次第に發育を遂げるのであります。之れを妊娠と稱へます。此の精蟲と卵との會合する箇處は不定であります。普通は子宮腔であります。子宮口が開いて居ない場合には、精蟲は自分の運動によつて、腔から子宮頸子宮腔から喇叭管の奥にまでも達して、此の喇叭管の中、或は腹腔内でも相會する事が出来るのであります。併し妊娠するには、精液はさまで奥の方に送られる必要はありません。精蟲は若し腔内に長く止まつて居る時には、腔の分

分泌物の爲めに生活力を減殺せられるのであります。

2 無子(不妊)

無子とは妊孕することの全然出来ないものを指して云ふのであります。前に述べた様な妊孕の作用があれば茲に謂ふ無子ではありませぬ。即ち婦人の卵に妊孕を起させる事の出来ない男子は無子であり、又妊孕すべき卵がはじめから無いか、又は有つても精蟲と會合すべき場處に出す作用を缺けるもの、または妊孕した卵を發育させ得ない婦人は無子であります。故に無子の原因は男女の何れにか存するので、男子の精液に障礙があるか、婦人の卵に障礙があるか、何れかであります。而し稀には男女双方にこの原因が同時に存することも無いとは限りませぬ。

普通精液内には多數の精蟲を含んで居りまして、精蟲は活潑に運動して

居りますが、若し精蟲が缺けて居るか、又は運動をしない場合、即ち病弱の場合には卵を妊孕させる事は出来ませぬ。

無子に就いて調べた統計の一例によれば、夫婦百に對し、無子の夫婦十五を算して居るものがあります。そして此の無子の原因にも種々ありますが、醫師の僅かな治療によつて、子宮の位置を整へ、又は内膜搔爬を行つた位で、妊孕し得たためしもあります。また男女何れに無子の原因を多く有つて居るか、と云ひますに、九十六組の無子の中、其の二十九人は、男子に精蟲がなく、百三十二組の無子の夫婦中、四十二人の男子に精蟲の無かつた例があります。即ち無子の比例は、女二に對し、男一であります。

進んで妊娠障礙の場合を、左に少しく述べて置きます。

1. 男子の精液に障礙を與へる場合、即ち(1)陰門や膣に閉塞、又は缺損あるもの、處女膜の閉塞するもの等は、器械的に精液射入の障礙を受けますから

妊娠が出来ませぬ。或は陰門の後方に偏して居るもの。腔の短廣弛等に過ぎるもの。其の他子宮腔等の位置形状等に異状ある場合には、妊娠が妨げられます。(2)腔内の粘液は、精蟲の運動を弱め、或は止める事があることは前に述べてあります。若し其の分泌物が酸性である時は、全く精蟲を殺すのであります。それ故に此の場合、精液射入の前に當つて稀薄なアルカリ液を少量腔内に注入すれば、腔内の酸を中和してよく受胎する事が出来ます。又これと反對にアルコール性液、エーテル、石炭酸、脂肪性油及び揮發性油類等が腔内にある場合、又子宮内膜炎の分泌物の多い時は、妊娠を妨げるのであります。中性鹽類及び薄いアルカリ液例へば、重曹水、薄い砂糖液に少しの腐蝕加里を加へたものなどは、精蟲の運動を活潑にして、妊娠を助けるものであります。

2. 婦人の卵に障礙を與へる原因。婦人の卵巢に於ける卵の健全は、精蟲の

活動と共に、妊娠の一要件であります。卵の健全は、卵巢の完全によるものであります。偶々卵巢の病氣のある場合でも、妊娠するのは、其の一部の健全な場處から産んだ卵子の賜で、僥倖と謂はねばなりません。此の卵子は、卵巢から出て、喇叭管へ進まなければ、妊娠し得ないのであります。卵巢に故障があつて排出し得ない時、又は喇叭管に故障があつて卵の入り得ない時等は、淋毒性疾患に多い共に、不妊娠を來します。慢性の子宮の炎症は、流産の原因をなし、前述の膜様性月經困難は無子の原因となります。

三 外陰部の疾患

外陰部の疾患を分つて、先天的に異常のあるもの、後天的に異常を來せるもの、外部の障礙によつて異常を來せるものに區別することが出来ます。

外陰部に損傷を受けるのは、多く分娩の際に、會陰部が裂ける場合であります。これが、これは分娩の後速かに専門醫に就いて、縫ひ合せて貰ふべきであります。これが十分に癒えない時には、將來子宮や膈の脱出を招く原因となるので、後にとり返しのつかぬ事にもなります。其の破裂した傷が肛門まで達して居るものも、居ないものも、共に膈の後部壁の面に裂傷を認めることが出来ます。肛門まで達した場合には、直腸迄も影響を受けて裂傷を招きます。

2 外陰部の損傷

居るものもあります。此の外に肛門閉鎖の様に陰門が全く閉塞されて居るもの、會陰が缺けて居て腸と陰部とが相通じて居るもの、膀胱が膈の中に口を開いて居るもの、尿道の前壁が缺けて居るもの、尿道が膈の方へ向つて非常に廣くなつて居るものなどがあります。



畸形の女子生殖器

- 1. 早脣陰
- 2. 移行部
- 3. 陰唇
- 4. 移行部
- 5. 陰莖

1 外陰部の畸形

甚だ稀に男女の外陰部を一人で兼ねて居る薄倅兒があります。それは事實に於ては女性でありながら、其の陰核が極めて大きいために、丁度男子の陰莖のやうに見えるものと、事實は男性であり乍ら、陰部の外觀が女子の様に見えるものがあります。時には眞の半陰陽であつて、卵巢と睪丸とを兩つながら備へて居るものもあります。此れ等の人は普通身體も不十分なものであります。又た極めて稀には完全なる發育を遂げて

が出血することは少いのであります。何れにせよ、其の儘放置して癒えるのを待つたり、又は手當の後に養生が悪かつたりすれば、前述の脱出を招くこととなるのでありますから、十分に注意して完全なる縫合手術を受けなければなりません。其の他高處より墜落したり、又は強姦などによつて、傷を受けることはまゝある例であります。極めて稀な事實であります。

3 陰門の變形

手淫と云ふ嫌疑すべき悪習慣は、大小陰唇の肥大を來すものであります。また腎臓病に於ける全身水腫と共に陰門が水腫を來して非常に膨大することがあります。また陰唇ヘルニアと云つて、腸が鼠蹊管から大陰唇の内に降つて來ることもあります。

4 陰門炎

これは外部から處女膜に達するまでの部分に起る炎症を謂ふのであります。外傷の爲めにおこる外不潔が原因となつて刺戟を起し、これに由つてもこの炎症を起します。其の他手淫交接過度、痲疾傳染、妊娠中、肛門内に於ける蟻蟲、陰部の皮膚病、全身病、糖尿病なども皆この炎症の原因となるのであります。此の患症は最初患部が赤くなつて腫れ、膿汁を漏し、日を経るに従つて其の色が薄くなつて非常に悪臭を放ち、膺の入口にも糜爛を起すことがあります。本症は一に痛痒症と云ふ位で急性慢性何れも痒さが甚だしく、掻き破つて潰瘍の出來ることがあります。初めは痛みが強く、次第に痛みは皮膚尿道に及び、放尿の時に堪へ難い苦痛を覺えます。痒さは分泌物の刺戟の爲めに起るのであつて、普通十日乃至二十日間も立たなければ治癒せず、小

兒は之れよりも長いのであります。慢性は痛みと痒さとが交るゝ苦しみ
 を與へ、夕方などは特に甚だしく局部の温かくなつた時、酒類を飲んだ時、精
 神の亢奮した時等は、其の痛痒の度を昂めるのであります。本病が極度に達
 する時は、遂に神経性となり、或は憂鬱症に陥るのであります。本病養生法の
 第一義は清潔であつて、同時に豫防法が肝要であります。けれども既に此の
 疾患あるものは、清潔は勿論、消毒薬又は收斂薬(三%硼酸水、單寧酸水、重曹水、
 石炭酸一〇水一〇〇〇二%リゾール水)の微温湯で、一日二三次宛陰門を洗
 滌し、腔に灌注を致します。

5 陰門に於ける新生物

【肉腫】 陰門に出来る種々ある腫瘍の中で、數種を述べる事と致します。

【肉腫】 外陰部に出来る場合は極めて少ないのであります。萬一出来た

とすれば、癌腫等と同様甚だ危険性を帯びたものであります。速かに專
 門醫の治療を請はなければなりません。

【癌腫】 陰部皮膚の表面に出来た時には、表面は潰瘍の様になつて、底部に
 硬い結節が出来、次第に周圍に廣がつて、其の一部が破潰しますと、惡臭を放
 つて出血し易いのであります。劇しく痛むものもあれば、さまで烈しくな
 ものもあり、これは發見次第、逸早くも醫師の切除手術を受けなければ、
 手術の時期を失ふ様になります。

【囊腫】 腔の入口にあるバルトリン氏腺に出来るのが普通でありまして、
 中に粘液を貯へ、指で壓しても痛みはないのであります。陰門の形を色々
 に變化致します。

【脂肪腫】 大陰唇陰阜の部分に生ずる柔軟なもので、此の腫瘍が大きくな
 る事は實に速かで驚くべき大きさに達する事があります。

【纖維腫】此の腫瘍は稀でありますが、普通大陰唇に出来て、其の大きなものは起居に差支へる程になりませんが、手術によつて切除する事が出来ます。【乳頭増殖】麻毒の刺戟が原因となる事が多いのでありますが、中には處女にも發しますし、又妊娠中別に原因なく發することがあります。主に陰阜、大小陰唇に生じ、時に肛門にまで及ぶ場合があります。其の腫瘍は白く絨毛の様で、後には圓く大きなものとなります。治療法としては、切除するか、又は灼いて除きます。

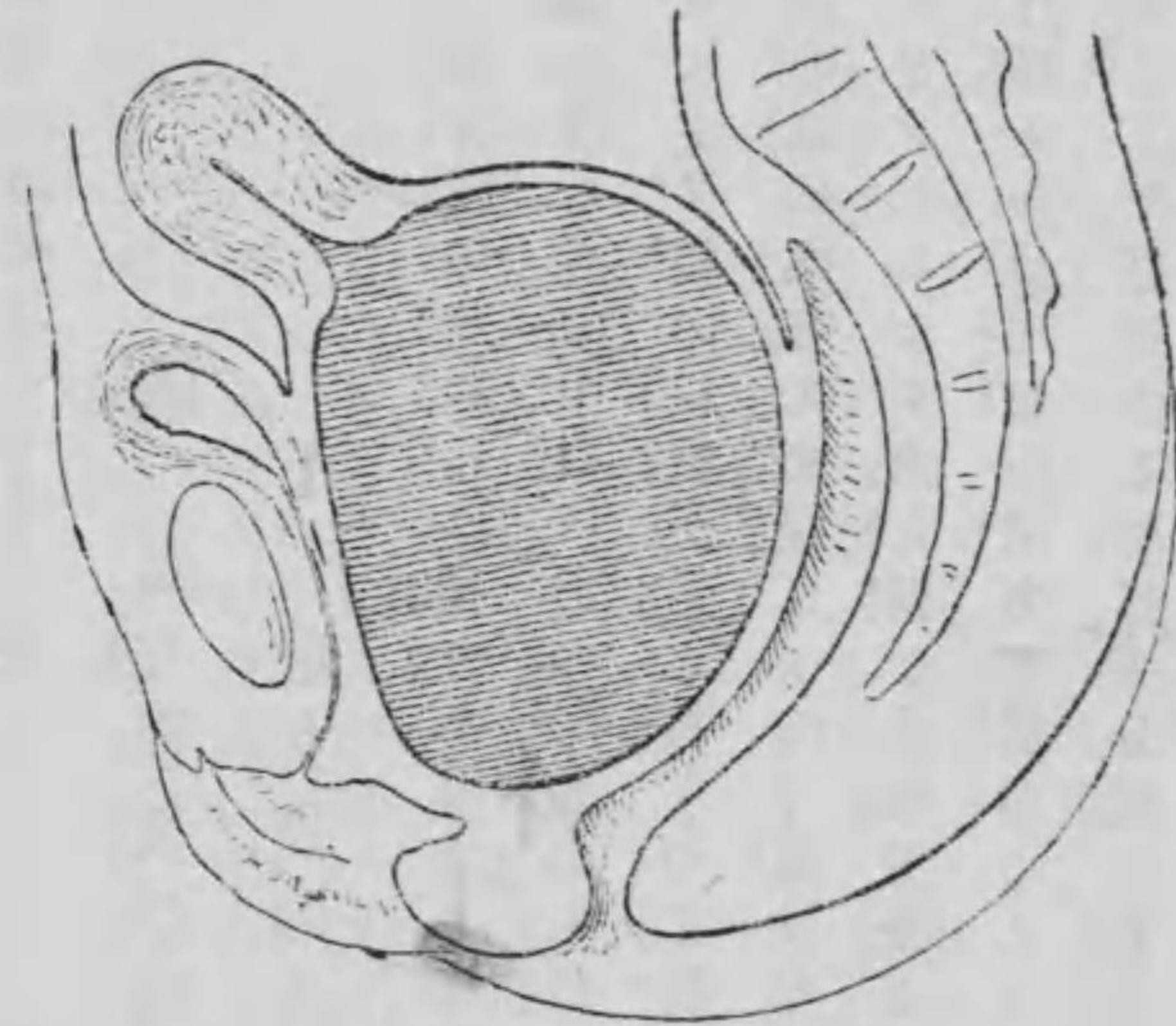
【象皮病】最初は僅かに大陰唇が肥厚する位であります。遂には驚く様に大きなものとなり、其の表面が潰瘍となつて居る事もあり、普通の外皮と變らない事もあり、又は表面が凹凸して居る事もあります。又時としては、月經妊娠の際に痛み、月經閉止頃になつて、歩行にも差支へる程に増大して、股間に垂下することがあります。これは醫師の手術によつて切除するより外

治療の方法はありませぬ。

四 處女膜及び膣の疾患

1 處女膜の疾患

處女膜の畸形には種々ありまして、處女膜の全くないもの、僅かに痕跡を認め得るもの、中央にあつて膣の入口を左右二つに區劃せるものなどがあります。又膜の組織が常と異なつて居るものには、血管の非常に多いもの、或は非常に柔軟で交接によつて裂けないもの、籠の様に處々に穴のあるものなどがあります。處女膜が柔軟で全く断裂しない時は、内部よりの分泌物と月經との排出口を閉ぢて居ることになりますから種々の障礙を起し、若し幸にして妊娠する時にも、分娩に差支へるのでありますから、かかる場合は手術を受けなければなりません。全く膣口を閉塞して居るときは、月經の排



鎖閉口膈は或鎖閉全完の膜女處
れらげ妨が出流の血經にめたの
圖型模るせ示をるせ溜猪に内膈

泄を妨けて、膈内に血液を
滯らせ膈の周壁に血液が
浸潤しなどして、處女膜を
切開して見ても、血液は普
通のもの、やうに流出せ
ぬ事もあり、膈内の血
液が益々停滞すれば早く
切開して、排血の途を作ら
なければ、月經毎に頭痛發
熱、その他種々の症狀を起
し、又長く停滞して居ても
のは自然に破れて、敗血症

を起したりいろ／＼危険な結果を來します。

2 膈の外傷

最初の交接手術の不成績、其他の理由によつて外部より障礙を受ける場合もありますが、普通は矢張分娩の際に起ります。此の際の障礙に膀胱膈、直腸膈、及び子宮膈の三種があります。

1 膀胱膈 これは生殖器と共に膀胱にも損傷を受けて、此の二つの間に孔が出來たので、これは分娩の際骨盤の狭小なもの、又は狭小でなくても、産兒の頭と骨盤との間に挟まれて、壞疽組織死を來した時に、其の部分へ孔があくのであります。又醫療器械の不適當な使用の結果、及び癌種の侵蝕も、又其の原因となります。此の孔は、小さいものは毛髮の太さ位でありますが大なるものは殆んど膈壁の破壊とも云ふ程の傷が出來ます。又他の部分に

も見る事があります。分娩の際この損傷の出来たものは、数日をへても尿が知らずくの間漏れ出て、其の尿は悪臭甚だしく近寄るものをして不快の感を催させ、醫師は對座したばかりで其の悪臭に由つて膀胱腫瘍なる事を斷知し得る程であります。此の悪臭のある尿は、尚ほ股間の皮膚を刺戟して炎症を起させ、次いで種々の全身病の起因を作るものであります。から十二分の清潔法を講ずる必要があり、本患者にありましては、その月經は一時閉止しまして、治癒後に於て再び開始するものもあります。瘻孔が小さくつて自然的に治癒するものは、不幸中の幸であります。若しさうでない時は、醫師の手術を受けなければなりません。しかし穿孔が深い處にあつて手術が不可能の時には、已むを得ず適當の蓄尿器(小便囊)を備へるより外に途はありません。

2 直腸腫瘍 分娩の際に腫と直腸との間に、損傷を受けるより起るのが

常であります。前述の膀胱の場合に比べれば稀であります。其の症狀は恰も膀胱に於けると同じく、糞便及び瓦斯が直腸から腫に入つて、茲から漏れるのであります。

3 子宮腫瘍 子宮の一部分に損傷を來して普通の頸管を通らずに、何れかの破れた孔と腫と癒着して出来るもので、多くは單獨に來る事はありませぬ。

3 腫の畸形

腫腔が全然無いと云ふ場合には、大抵は子宮も亦無いのであります。腫の開塞してゐるものに、先天性のものと、後天性のものとがあつて、其の開塞の有様に次の四種類あります。(1)腫が入口に於て閉塞して居るもの。(2)子宮口の處が閉塞して居るもの。(3)何れの部分も全部閉塞して居るもの。(4)雙腫即

ち膈を左右の二つに分つ隔膜のあるもの等であり、膈の全部閉塞してゐる場合には、従つて子宮も不完全であり、月経は無いのであります。然し月経が無いからとて、身體の方には障礙はありませぬが、膈のみが閉塞して居る場合には、丁度處女膜の閉塞によつて來る時の様に種々の故障が起りますから、醫師の手術を受けなければなりません。又、双膈の場合に、膜が一方に偏して居れば、他方の膈はよく生殖の目的を達する事が出來ますし、其の隔膜が極めて柔軟であれば、生涯氣附かずに過ごす事があります。

4 膈 炎

此の原因は、梅毒の感染が其の主なるもので、不潔不良なる栓塞や醫療器械を膈に施した時、手淫、子宮内膜炎の帶下、子宮に於ける腫瘍の排出物、強い薬品の刺戟など之れに次ぎ、陰門の炎症や肛門の蟻虫も亦其の原因となり

ます。少女が陰門や膈に加答兒症を起した場合も、大抵梅毒傳染の結果と見てよいのであります。稀には生れながら兩親の微毒を受けて起る可愛想なものもあります。此の病症は急性と慢性との別がありまして、慢性症は多くの婦人が患部の刺戟をおこして來るまで、氣付かずに過ごすものであります。

急性の膈炎は、初めに粘膜炎が腫れ、熱氣、抑壓の感、疼痛、尿頻數を覺えて、交接及び便通の際に痛みが激しく、分泌物は多量多様になり、血液、粘液、膿液を混ざることがあります。この症状が半ヶ月も繼續する時には、慢性となつて、帶下があり、同時に前記の症状は薄らぐのであります。次第々々に身體蒼白色となつて、食欲の不進、便秘、交接時の不快感を起します。此の養生法は、局處を清潔に保つ事が第一で、全身に營養を十分に與へ、月経時は安靜を守り、便秘を解いて、酒類や刺戟性の食物を禁止し、膈は三%の硼酸水、重曹水、一%

單寧酸水二%クレゾール石鹼液を用ひて一日二三回洗滌致します。痲毒性のものは分泌物が眼に入らない様に注意し、五千倍の昇汞水を以つて洗ひます。

内服薬としては、鐵劑や肝油を用ひ、その他轉地療法、温泉療法等も効果があります。

5 膣 瘻

此の原因は處女が最初の交接の際、無理に膣に受ける損傷に基づくのでありまして、膣口が非常に狭い時、又は處女膜が強靱で破れ難いときなどに、瘻瘻性の疼痛を覚えるのであります。稀には結婚後時日を経てからおこるものもありますが、其の多くは初婚の場合でありまして、これは、膣の入口に於ける感覺が非常に鋭敏となつて、膣以外に骨盤底、肛門、大腿背部の筋肉に

まで瘻瘻性の收縮を起し、膣に物の觸れる場合又は其の場合を想像してすら、この瘻瘻を起して非常の痛みを感じるのであります。故に本病の婦人は、男子の近接を厭ひますが、偶々同衾すれば瘻瘻を起し、其の結果は各部の炎症及び疼痛を招くのであります。爲めに婦人は男子の接近を恐れると共に、神經過敏となり、兎角憂ひに沈んで、精神上に非常の苦悶を來すやうになります。養生法としては、交接は勿論外部よりする、陰部の刺戟を絶対に避け、温湯の坐浴、腰湯、膣の灌注法を行ひ、同時に食物にも刺戟性のものを禁ずる事が必要であります。その他精神上の安靜を保つために、白砂青松ながめよ、い邊に轉地するのもよく、又は温泉に赴くのも宜しいのであります。かくして瘻の過敏性が薄らいで之れに觸れ得るに至つて十分なる診察を行ひ、非常に知覺の過敏な瘻の一部分を截り取るのであります。

6 腔に於ける新生物

乳頭腫、纖維腫等其の種類は種々ありますが其の小さいものは豆粒大か



腔壁囊腫 (圖るたし表てけかを鏡宮子)

のであります。これ等は目に見えぬ程すこしづゝ其の大きさを増すのであり
ますが、遂には交接や分娩を妨げる事となり、之れを除くには手術によら

ら、大きなものは幼児の頭大位にも達します。最も多く見ますのは囊腫と稱するも

なければならなくなります。又悪性の新生物は癌腫と肉腫であります。此れ等は稀であります。腔に發生した癌腫は子宮部のそれよりも蔓延し易く、忽ち重症となつて、手術も其の他の治療も効果のあがらない場合が多いのであります。から必ず治療を忽にしてはなりません。

7 腔の異物

手淫に使用した物、妊娠を防ぐ目的で挿入した異物、即ち綿塊、草根等の腐敗、残存、醫療の目的を以つて腔内に挿入した物の残存、例へばカテーテルのさき、肛門から入つて來た所の蟻虫、或は精神病者等が挿入した針、竹片などであつて總べて、異物に附着して居る不潔物に由つて腔内に加答兒又は炎症、腐敗等を起すのであります。これ等に對する處置は異物を悉く取り去り、腔内を洗滌するのであります。

五 膀胱並に尿道の疾患

1 膀胱加答兒(膀胱炎)

【原因】 痲毒菌、大腸菌、葡萄球菌、球菌、結核菌、連鎖球菌の傳染に由つて起り、其の他異物の侵害、子宮病、產褥手術後、腎臟及び尿道疾患に次いで起る事もあります。

殊に婦人の尿道は廣く短い上に、常に細菌がおほく存在して居りますから、少しの原因に由つても膀胱の方に細菌が送られて、炎症をひき起し易いのであります。

產褥中に起るのは、妊娠中長い間壓迫をされてゐた膀胱が分娩と共に急に壓力がなくなり、長い間疲れて居た膀胱の括約筋は働きが鈍くなつて尿は長く溜る様になり、従つて亞爾加里性酸酵を起して分解し、これに細菌が

繁殖して發病するのであります。

手術後に起るのは膀胱の悪性腫瘍(癌腫)の剔出とか、婦人科的の開腹術を受けた後に、カテーテルに由つて排尿させる時に其の消毒が不完全であつたり、或は度々使用する刺戟に由つて發病の原因を作るのであります。

【症状】 主なる症状は膀胱部の抑壓の感、下腹部の重苦しい感じ、疼痛、尿意頻數、排尿時及び其の後の疼痛又は不快感、灼熱の感等でありまして、體温は普通僅かに昇るに過ぎませぬが、時として惡寒を伴ひ三十九度以上四十度にも及ぶ事があります。この時は膀胱から進んで輸尿管、腎盂にまでも加答兒の及んだものと考へられます。

本病は尿が濁濁して、其の量を減じ、時には血液を混じ、漫性のもものは尿中に膿を混じます。又疼痛とか排尿時の不快感などは、或る時は輕快し、或る時は増加し、かくして數年間存在する事があります。大腸菌による急性の膀胱

加答兒は、全身障礙を來すこと殊に強く、重症のものは尿が非常に濃厚となり、膠様褐赤色を帯びて居りまして、其の中には血液粘膜を混じて、惡臭を放ちます。

尿の中の粘液膿液等に依つて尿道の閉塞される時は、炎症は次第に上行して腎臓炎を起す恐れがあります。

【療法】 安静に臥床して、淡泊な食物を選び、硼酸水を以つて膀胱の洗滌を行ひ、或は一〇%デルマトール肝油乳劑二〇〇を一日一回膀胱内に注入致します。内用薬としては次のものを用ひます。

- (處方)
- 1. ウバウルシ葉煎(五〇) 一〇〇〇
 - ウロトロピン 一五
 - 2. ザロール 三〇
 - 乳糖
- 一日三回分服
- 一日三回食前分服(尿消毒の目的)

2 尿道加答兒

【原因】 淋毒の傳染癌腫による分泌物の刺戟尿道カテーテルによる損傷、産褥等に原因するのであります。

【症状】 主なるものは排尿時の疼痛尿意頻數等であります。

【療法】 淋毒によるものは、プロタルゴールの尿道座薬を用ひ、一般に安静を守らなければなりません。女子は尿道狭窄を來す事は稀であります。若し狭窄を起した時には、器械を用ひて段々に擴張致します。

3 尿道の新生物

尿道の新生物に血管腫と云ふものがあります。これは小さいものは豌豆位、大きなのは胡桃位ありまして、尿道の口から突出して居り、大きなのは排

尿を妨げて疼痛を發し、或は熱感を覺えますが、小さいものは何等の自覺症もありませぬ。之を除くには矢張り醫師によらなければなりません。

六 子宮の疾患

子宮の異状に就いては位置形態疾病等其の種類が多いのであります。元來子宮は胎兒の生育してゆく最も大切な處であります。先天的疾患あるものは兎も角も、妊娠の以後不注意不攝生の爲めに、母體のみならず千金にも換へ難い胎兒をして、生れながらにして虚弱ならしめ、或は不具者たらしめるもののあるのは實に慨嘆に堪へない次第であります。

實に世の婦人は一般人の使命を完全に果す爲めに、衛生思想を常に養つて置きたいものであります。國家の強盛は國民の體質の強健に因り、國民の體質如何は母の健康の如何に因るのでありますから、國民の母たるべき婦

人は各自自個の衛生に留意して、強健な國民を産出するに力むべきは國家に對する婦人の天職であります。

1 子宮の畸形

畸形の種類を挙げれば左の如きものであります。

- 1 子宮が二つあつて、各別に子宮として完全に發育して居るもの。
- 2 子宮が二つあつて、頸の部分だけが相合して居るもの。
- 3 子宮の體に二つの角、二つの腔があつて、頸と膈とは相合して居るもの。
- 4 子宮腔のみが二分され、膈は一つのもの。
- 5 子宮腔の一部に中隔のあるもの。
- 6 子宮腔は一つで、子宮口が二つに別れて居るもの。
- 7 子宮體の一侧に角を備へて、卵巢喇叭管などを備へ、無角の他側には此

れ等の附屬して居ないもの。
8 子宮缺損即ち喇叭管・卵巢・膣などは存在して居て、子宮は痕跡のみを止めて居るに過ぎないもの。

2 子宮の萎縮及び閉塞

1 子宮の萎縮 之れに二種あります。即ち一つは、身體の他部分は發育して居ますが、子宮のみが發育不完全なものと、他の一つは子宮が病氣、其他の原因によつて萎縮したものであります。

【症狀】 子宮萎縮は多くは結婚後に不妊娠又は月經の異狀によつて氣が付き、初めて醫師の診斷を乞ふのが常であります。かゝる婦人の特色は脂肪が多くつて、年齢に比し、いつまでも若々しく肥つて居る事であり、但しいつまでも若くて肥えて居る人は皆子宮の萎縮して居るものと速斷する

ことはできません。月經の時期には、數日間下腹部の痛み、膣内分泌物の多量、或は頭痛、血、嘔、麻、質、斯の様な症狀及び神經衰弱等を呈するものであります。此の症狀が數年も續くもの、或は消滅すると同時に、急に老態に陥るもの、又は劇しい出血を見るものなどがあります。

【療法】 貧血から來た萎縮ならば、滋養物の攝取、殊に鐵劑等を用ひ、脂肪の過多なものは、鑛泉水及び下劑を用ひ、運動、海水浴等を行つて、脂肪の減少を計り、或は鹽湯、溫湯の坐浴等も效驗があります。要するに子宮に於ける血液の循環と、其の部分の筋肉、粘膜炎の發育を良くするのが第一であります。

2 分娩後の異狀 之れには種々の場合があつて、子宮の筋が脂肪に變化した爲めに弛みを來すもの、月經の閉止の頃のやうに、子宮が萎縮するもの、大きさは普通であり乍ら、妊娠初期の子宮の様に緊張力がなく、柔軟になるものなどであり、ます。産婦が不養生の結果、萎縮を來した時には、子宮は平常

の大きさの三分の一となり、しかしこれはやがて健康を回復して月經を見る様になり、生殖機能を營む様になれば再び原狀に復することが出來ます。

本症には授乳を廢して滋養物を攝取し、坐浴を行ひ温湯の腔内灌注、子宮按摩法などを試むべきであります。

3 子宮閉塞。此の閉塞の位置は子宮に又は頸管内に起り、先天性のものは極めて稀であります。

これによつて起る障礙は、月經の排出を妨げる爲めに下腹部の緊張、痛み、不快の感じを増し、時には嘔氣を催し、或は貧血、兩便の故障などあります。一時月經の止ると同時に、症狀の全く消え去ることもありますが、次ぎの月經時に於て子宮の擴大又は其の破裂を起すことがあります。

此の破裂が子宮の壁から腹部に向つて行はれた時には腹膜炎を起しま

す閉塞は多くの場合、分娩時に於ける損傷からやがて癒着したものが多く、或は微毒其の他の原因によつて發する場合もあります。何れにもせよ、手術によつて切開を受けねばなりません。

3 子宮の轉屈

子宮は生理的に身體の少しく前方に傾いて體と頸とは角を上部にして、下方に開いて居るものであります。そして附近にある直腸や膀胱が始終其の形を變化しても、其の影響を受ける事は殆んどないのであります。若し子宮が病氣に罹るときは、其の形が種々に變化し、前轉、後轉、前屈、後屈、前位、後位、左位、右位、其の他側方に轉屈を來しなどするのであります。これ等の各位置を次の各項に涉つて順次述べると致します。(1) 先天性又は妊娠、産後以外の場合に起れるもの。(2) 妊娠中に起れるもの。(3) 産褥中に起れるもの。

【前轉と前屈】

1 先天性又は妊娠産後以外の場合に起れるもの。本症が



子宮の常位の位置を示せるる圖 (輕度の前轉屈の態)

先天性にあることは稀で多くは炎症(子宮の後方にある骨盤結締織の炎症の後、卵巢の腫脹子宮後壁の腫脹によつて起り、又子宮慢性の炎症殊に淋毒が其の原因となる事が屢々あります。子宮が前轉(子宮其

のものが前の方にゆくすると、子宮口は後部上方に向ひ、體は頸と膀胱との間に下り、膀胱内の尿の有無に應じて位置を轉する事が出来ませぬ。又子宮が前屈(子宮がもとの位置にあつて屈すること)するとき、子宮の體は頸の前方にまで曲折して、膀胱の擴張を妨げます。前屈の患者は前轉のその約四倍の多數であります。

症狀は實に種々雜多でありまして、少しも身體に障礙を感じないもの、或は無月經の處女であつて、甚だしく尿意に異狀を覺え、月經を見るに至つて、其の障礙が一層劇しくなるものなどあります。月經前に、腸や膀胱に壓感を覺えたものも、月經が終れば消滅して、了ひ、次の月經前にはまた再發し、やがて子宮の實質や粘膜炎に炎症を起す様になります。月經時に苦痛を感ずるに至るのであります。この症狀は随分長く續きまして、爲めに膀胱加答兒腸胃の疾病、頭痛、ヒステリーを起すことがあります。本病は身體の發育に伴

つて、自然に其の轉屈の度を減じ、結婚後に於て妊娠の喜びが一家に漲る時には全然此の症も癒える事があります。それは妊娠によつて子宮が大きくなるに従つて、後方に膨大するからであります。然しこれ等はほんの例外で一般に子宮の前轉及び前屈は癒え難いものであります。前屈症と妊娠の關係は如何かと云へば、夫れは屈曲部の長さ、狭窄の度によるのであります。次第に子宮が膨脹すると、普通の経過をとるものであります。

處女は子宮前屈の爲め、往々月經が現はれなかつたり、又は萎黄病に罹ることなどがあります。若し前轉前屈によつて子宮粘膜の加答兒を起した場合は、身體に種々の障礙と苦惱を來し、中々治療し難いものであります。療法は専門醫によらなければなりません。

2 妊娠子宮の前屈 之れは腹壁の筋が弛んだ時若しくは、腹部が前に垂れるからであります。腹帯をこれに施して、緊縛に過ぎない様に注意をすれば、豫防ともなり、又これによつて治療することもあります。

3 分娩後の子宮の前屈 分娩後子宮が原位置に復せず、其の儘前屈するものであります。産褥の初期に起るものと末期に起るものとの二種あります。其の初期に發するものは、急速に起るものであつて、産後數日にして尿利の停滞と劇痛とを覺え、出血の爲めに衰弱を來しますが、原因は子宮壁の胎盤附着部が完全に恢復しない爲めであり、末期に發する前屈症は次第に症状を増し、排尿の困難、腸の膨滿、惡露出血等を見て初めて醫師に苦境を訴へるものが多いのであります。速かに治療を加へずれば、治療するものであります。

【後轉及び後屈】子宮の後轉と後屈とは、其の屈曲の度に銳鈍の差がある。丈で他は矢張同一であります。左に單に後屈と稱するのは、轉と屈との二つを指したものであります。今日の學說では、妊娠子宮は多少後屈になると云

であります。が、劇しい震動を身體に受け、又は高い處から墜落した時などに、



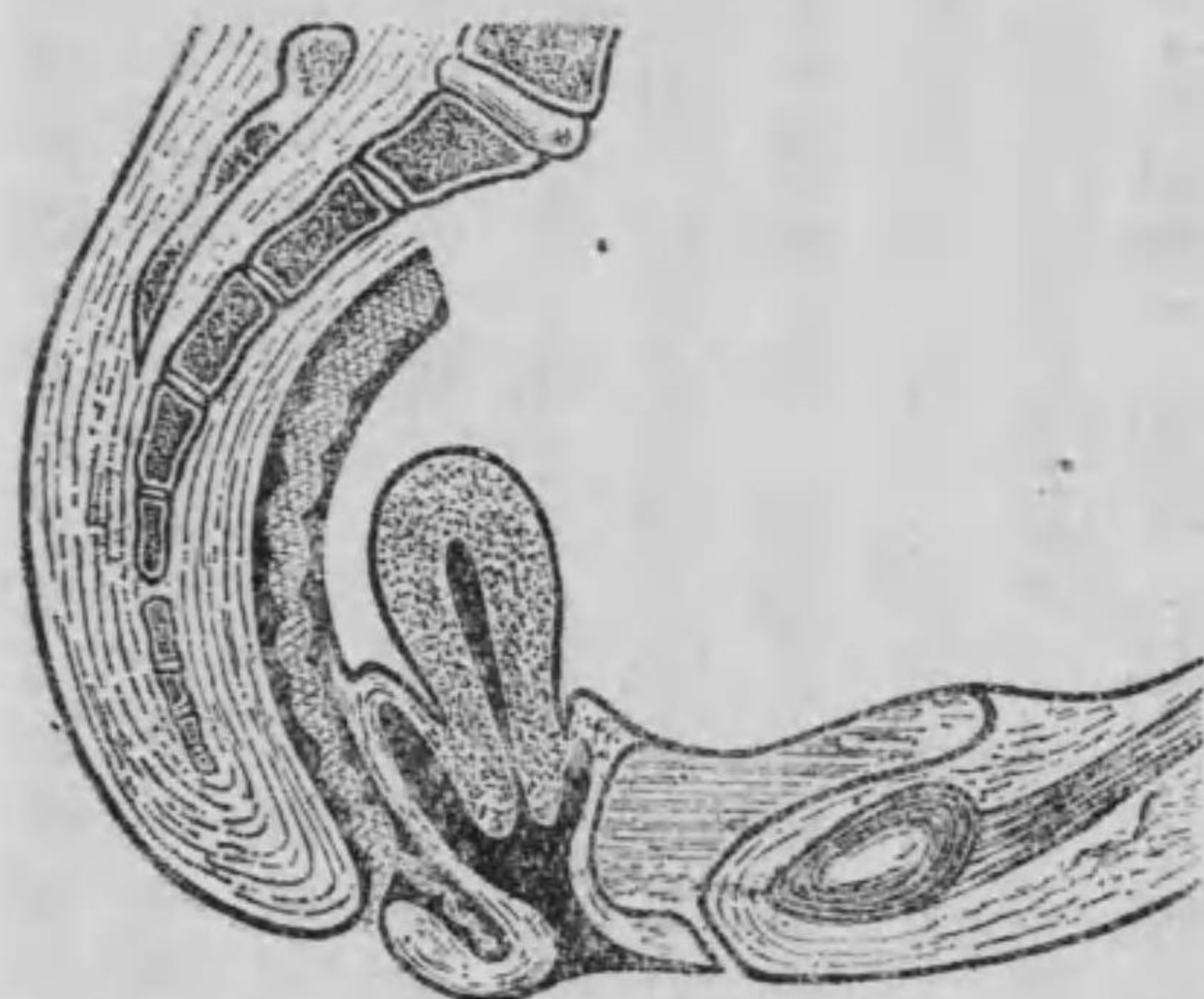
子宮後屈を示せる圖

體には何等の異狀を認めないことがあります。妊娠は不可能で、治療も亦困難であります。習慣性の便秘は、後屈症の原因となるものであります。

これは、糞塊が直腸に溜るとき、子宮の頸部を前方に押し、同時に尿に満たされた膀胱が子宮體を上方に押し、また、このときに腹部の壓力も加はつて、遂に子宮を後屈するのであります。其の外に尿道の閉鎖、骨盤に於ける組織の萎縮、子宮實質炎、貧血等も原因となり、また、これ等は漸次みな起るもの

つてをります。

子宮の前轉前屈は、主に子宮其のものが前方に向つて銳角に折れ曲つて



子宮後轉を示せる圖

居る爲めに起る症狀であります。が、後轉と、後屈とは其の反對の側に屈曲する事を指すのであります。

1 先天性後屈症と妊娠産後以外に起れる後屈症。先天性後屈症は稀であります。本症は比較的上流社會の婦人に多く、症狀は月經の時期に障礙を覺え、劇しい疼痛と多量の月經と、これが爲めに月經の初めて理はれる時期がおくれ、子宮の發育も幼稚で、而も身

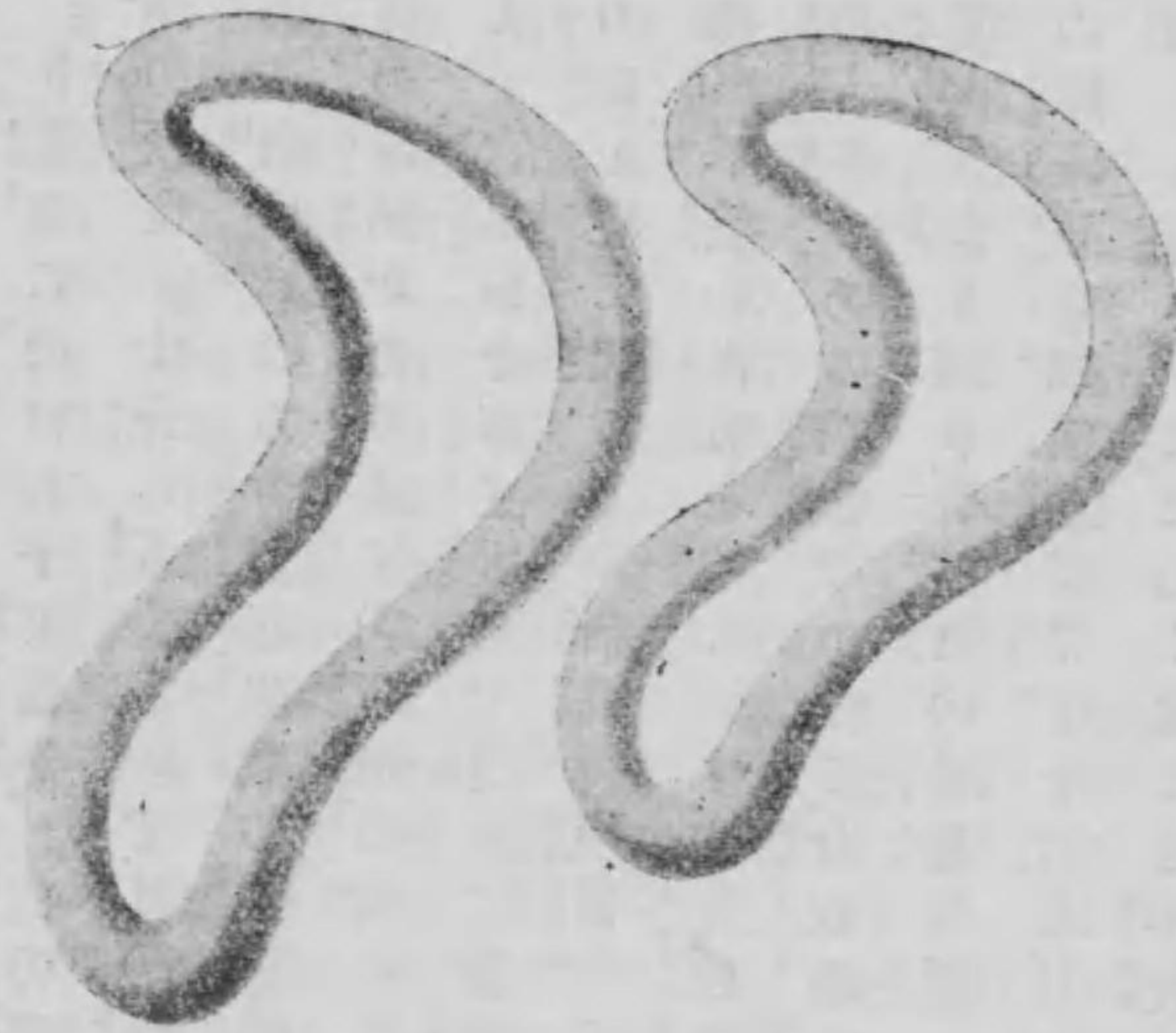
突然に起ることがあります。

2 妊娠子宮の後屈 軽度の後屈は一時尿利便通の時に障礙を起す丈で、妊娠してだんく子宮が大きくなつて骨盤から上へのほる様になれば、自然に復位するものでありますが時には二三月で流産する事があります。又妊婦が高處から墜落したとか、或は子宮骨盤の腹腔内の或る異状とかで、妊娠子宮が急に骨盤の後方へ屈曲して箝頓することもあります。此の場合には、突然劇痛が起つて下腹部に重壓を感じ、時には卒倒する事さへあります。漸次に起る場合には骨盤腔充滿の感膀胱直腸などに壓迫の感があり、尚ほ著明なものは排尿の障礙を來すのであります。

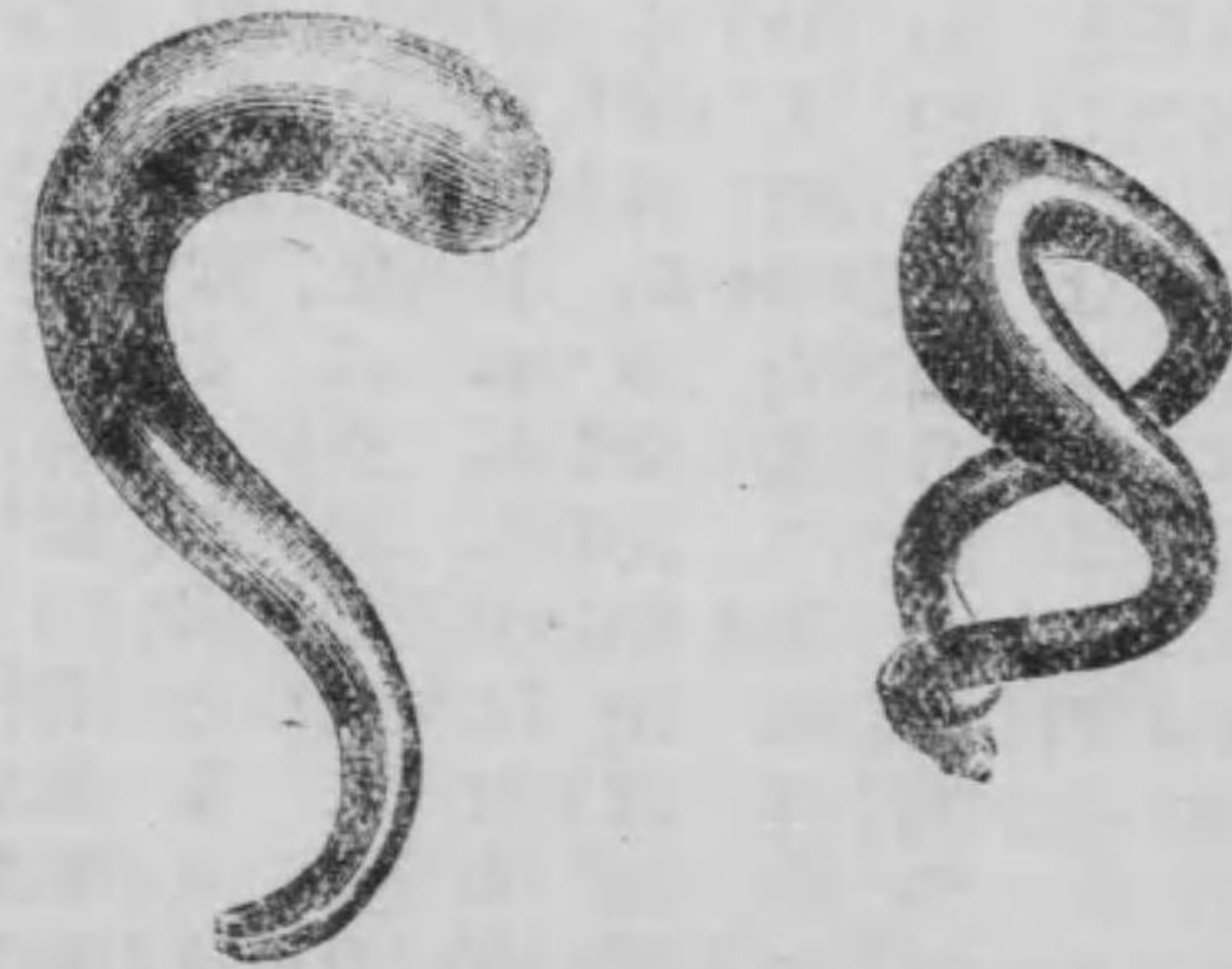
以上の場合大方は専門醫が整復することが出來ますが、子宮が骨盤内でまだ動き得る時には、便通を整へて直ちに俯臥になれば大抵は子宮が常位に復するものであります。が、よし恢復しなくとも其の苦惱を減ぜさせる事

が出來ます。

3 産後に於ける子宮後屈 此の原因は多く子宮前壁に於ける胎盤附著部の恢復不十分に基くもので、其の他子宮壁の弛緩産褥婦の仰臥繼續長くあふ向けにねる骨盤底組織の弛緩便秘尿の閉止なども原因となり、次の三様の區別があります。(1)産褥の初めに起るもの急劇に直腸膀胱に異状を覺え子宮出血を來すもので、速かに醫師の手當を受けねばなりません。(2)産褥の日を経て起るもの胎盤の残留物に原因し悪臭ある分泌物や脱落膜片の排出、不整の出血を現します。(3)分娩後數月乃至數年を経て起るもの。これは最も多くある場合であつて、分娩後の出血あつて後薦骨部の疼痛や、兩便の障礙が長く續き骨盤内の重壓を覺え、又時としては乳房の腫脹及び疼痛胃の障礙眩暈頭痛或は帶下を起し、月經時の疼痛と共に多量に出血し、交接の際にも痛みが甚だしく、遂には不妊症となるのであります。然し後屈症の中



圖のムウリサツハ



圖のムウリサツハ

でも少しの苦痛も無く過ごすものもありますが、一般には右の様な症状が

あるのが普通で其の結果は貧血心悸亢進神經過敏などを惹き起すのであります。要するに本症にして苦痛なきものは醫療を行ふ必要もありませんが、其の他のものは手術又は整復術を施し、向ほ再發しない様に腔内にベツサリウムと云ふ器具を用ひるのがよろしいのであります。これは排泄生殖の作用の上に、毫も差障を感じない器具であります。そして一日二回は腔内を洗滌して清潔法を行ふ様にしなければなりません。器具は其のまゝにして。

4 子宮の内腫症

これは宛ら袋を裏返す様に子宮底がだんく子宮腔から子宮口の方に向つて翻轉して、其の粘膜炎を現はし、腔内にまで下つて來るもので、甚だしいものは全く外陰部に脱垂して居ります。



子宮の位置異常を復して挿入せしめる図

【原因】胎盤に連なつて居る臍帯を、一時に餘り強く牽引した時、胎盤を出す爲め、子宮底を強壓した時、子宮内の新生物が大きくなつて下の方に子宮を押しつける時等でありまして、多くは此の如き後産の障礙に基きます。即ち子宮の收縮が不十分であつて子宮口が開いて居る時であります。

【症状】内翻にも程度により種々の區別があり、子宮底が僅かに子宮腔に向つて陥没して居るもの(子宮陥凹)子宮口まで達して居るもの(不全子宮内翻)全く裏返した様に翻轉して居るもの(全子宮内翻)子宮が腔と共に陰門の外に脱出して居るもの等あります。(全子宮内翻)兼脱垂産褥の子宮内翻は、突然起るものでありまして嘔吐脈搏微弱等があつて、出血を起し俄に貧血に陥り中には腦貧血を起して斃れるものもあります。又徐々に現れて來るものは、後産期の出血、薦骨の疼痛、尿利困難等を來します。本病は常に月經困難、粘液の分泌、便秘等を伴ひ、脱垂した子宮が子宮口の處で絞窄される時は、壞疽を起し其の爲め敗血症を起して生命を失ふことがあります。子宮新生物の爲めに起る内翻は漸次に劇しくなつて來て前述の症状を呈して來ます。此の内翻は醫師によつて整復術を受けなければなりません。手術は一日でも早い程効果があるのであります。

5 子宮及び臙の下垂と脱垂

其の原因は、産褥の不攝生に依るため、生殖器回復の十分なとき、月経閉止の時期に於て、生殖器の萎縮を來したとき、手淫過度の勞働、分娩時の損傷、病氣、新生物等であり、殊に分娩後には、骨盤底の組織が弛んで臙腔が擴大され、ますから、此の症を發し易いのであります。尙ほ進んでは、次の様な脱垂を來すのであります。

1 前臙脱垂。これは臙の下半部が陰門から脱出するのであります。弛緩して居る臙の壁を後にある膀胱が壓して出す様になりますから、若し破裂した會陰の縫合が不十分であると、此の臙壁は陰門外に露出する事となります。

2 後臙脱垂。後部臙壁の下半部が陰門に脱出するのであります。其の

中には、糞塊を蓄めた直腸を容れる事もあります。

3 子宮脱垂。二十五歳乃至三十五歳の婦人に多く、子宮が臙と共に脱出するのであります。これは子宮頸が長く延びた爲めに、臙内に下つて陰唇間に現はれるので、此の子宮頸が長く延びる理由は、他の病氣の爲めか、さなくば、膀胱及び前臙壁の牽引する爲めであり、然し日常吾々は、分娩時の損傷などあるものに適當の處置をしない爲めに起るものと考へる場合も中々少なくはありませぬ。脱出した臙及び子宮頸部は、共に乾いて外皮の様になり、これが他物に摩擦され、又は汚染せられて、炎症を起し、惹いては潰瘍を來す事があります。子宮下垂の程度の軽いものは、自然に治癒し、又は手當を加へて癒えるのであります。が、陰門から外部に現はれて居る程のものは、遂に全く脱出して、了ふことゝなります。本症の急性のものは、劇烈な努責と、下腹の壓感、疼痛があつて、其の爲めに卒倒することもあり、又尿閉(尿が出

なくなるより腹部炎症を呈するに至る事もあります。此れ等は子宮及び膣の位置の回復後にも、尙ほ症状が残存して、起居に支障を感じるものであります。慢性のものは、初め起居歩行に不自由を感じて、陰門から何か脱出して来る様な感じを覚え、坐臥して安静にして居れば、不快の感を忘れますが、病勢が進んで来ると、暫くも此の感じを忘れる事が出来なくなり、次いで腰痛があり、神経過敏となつて速かに身體の衰弱を招く様になります。

【養生法の概略】若し子宮の下垂の傾向あるものは、分娩後臥側(横)にねかすさせ排泄物に注意を爲し、軽く丁字帯を施し一方全身の營養を十分にし、收斂剤を用ひて膣を灌注し、坐浴を行ひます。

産後子宮の未だ恢復して居ないものは、身體の滋養便通に注意し、攝氏五十度の温湯又は收斂剤で膣の灌注をなし、又は坐浴をし、勞力を避ける必要があります。子宮が下垂の度を増して、脱出するに至つた時には、其の脱垂し

6 子宮内膜炎

て居る子宮に油を塗つて、徐々に軽く揉み込んでおけば、其のまゝで回復するものもあります。揉み込んだ後は、そつと静臥して、單寧酸溶液に浸したガゼを以つて栓を施して、再度の脱出を防ぎ、又はベツサリウムを使用するものも宜しいのであります。何れの場合にも、單に復位したと云ふ丈で放置するのにはよろしくありません。やはり醫師の診察を受けて、それらの手當を受けなければなりません。

● 右の脱垂とは正反對に子宮が上方に昇つて、爲めに膣が長くなることがあります。これは別に障礙を起さないものであります。

これに急性と慢性との二種があります。

【症状】急性のものは、子宮粘膜炎が、紅く腫脹し、時々血液や膿を交へた紅色